

今治市男女共同参画に関する市民意識調査結果

平成 2 2 年 3 月

今治市

目 次

第1	調査概要	1
1	調査目的	
2	調査の方法	
3	調査項目	
4	回収結果	
5	報告書の見方	
第2	回答者の属性	2
1	性別	2
2	年齢	3
3	職業	4
4	婚姻状況	5
5	配偶者・パートナーの就労状況	6
6	世帯構成	8
第3	結果と分析	9
I	男女の地位に関する意識について	
(1)	各分野の男女の平等感	9
(2)	女性が職業をもつことに関する意識について	15
II	生活の実態について	
(1)	家庭内での家事などの役割分担	18
III	結婚・家庭について	
(1)	結婚・家庭観等に関する意識	23
IV	生活と社会活動について	
(1)	男性の社会活動参加に必要なこと	30
(2)	生活の優先度（希望）について	33
(3)	生活の優先度（現状）について	34
(4)	生活の優先度の希望と現実（現状）の比較について	35
V	仕事と家庭について	
(1)	男性の関わり方について	36
(2)	女性の関わり方について	37

VI 育児休業・介護休業について

- (1) 育児休業について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
- (2) 介護休業について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

VII ドメスティック・バイオレンス（DV）について

- (1) 被害の状況について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
- (2) 相談の状況について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
- (3) 相談機関や窓口について・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
- (4) DV被害経験者の状況について・・・・・・・・・・・・ 46

VIII セクシュアル・ハラスメントについて

- (1) 被害の実態について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
- (2) 被害への対応について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48

IX 今治市における男女共同参画社会の実現に向けて・・・・・・・・・・ 49

[資料]

自由意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51

調査票・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73

第1 調査概要

1 調査目的

今治市民の男女共同参画に関する意識を把握し、本市が取り組む「男女共同参画計画」策定のための基礎資料とするとともに、今後の施策の参考にすることを目的として実施しました。

2 調査の方法

- | | |
|----------|------------------|
| (1) 調査対象 | 今治市在住の20歳以上の男女 |
| (2) 標本数 | 2,000人 |
| (3) 抽出方法 | 住民基本台帳から等間隔無作為抽出 |
| (4) 調査方法 | 郵送による配布・回収 |
| (5) 調査期間 | 平成21年2月26日～3月16日 |

3 調査項目

- (1) 男女の地位に関する意識について
- (2) 生活の実態について
- (3) 結婚・家庭について
- (4) 生活と社会活動について
- (5) 仕事と家庭について
- (6) 育児休業・介護休業について
- (7) ドメスティック・バイオレンス(DV)について
- (8) セクシュアル・ハラスメントについて
- (9) 今治市における男女共同参画社会の実現に向けて

4 回収結果

- (1) 回答者数 1,017人(回収率 50.9%)

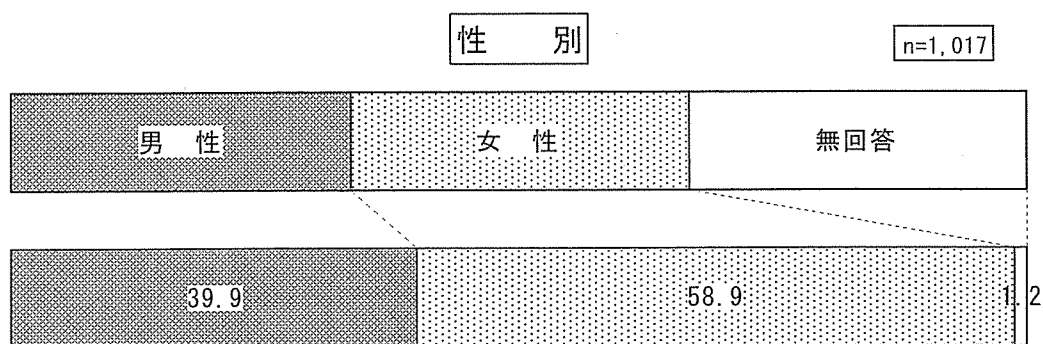
5 報告書の見方

- (1) 本書中の「n」は、回答者数のことです。
設問によっては、2つ以上の複数回答を認めているため、回答計は100%を超えるものがあります。
- (2) 分析に使用したパーセント表示は、全体については、小数点第2位で四捨五入して小数点第1位までを表示しました。したがって、比率の合計が100%にならないものがあります。また、複数回答の設問の場合(あてはまるものすべてに○をつけるものなど)は、nに対する各選択肢の回答者数の割合を示しています。
- (3) 集計結果の表やグラフでは、コンピュータ入力の都合上、回答の選択肢の言葉を短縮して表現している場合があります。
- (4) 国の男女共同参画社会に関する世論調査(平成19年8月)は「19年国調査」と略し、愛媛県の男女共同参画に関する世論調査(平成16年)は「16年県調査」と略し、過去の今治市の調査は「14年本市調査」「4年本市調査」と略して表記しています。

第2 回答者の属性 (回答者総数 1,017 人)

1 性別

回答者の性別は「男性」39.9%、「女性」58.9%と女性の割合が多くなっています。調査対象の住民基本台帳上の性別比（男性 46.0%、女性 54.0%）と比較すると、「女性」は4.9ポイント高く、「男性」は6.1ポイント低くなっていることから、本調査の全体集計では女性の意見がやや強く反映されている可能性があります。

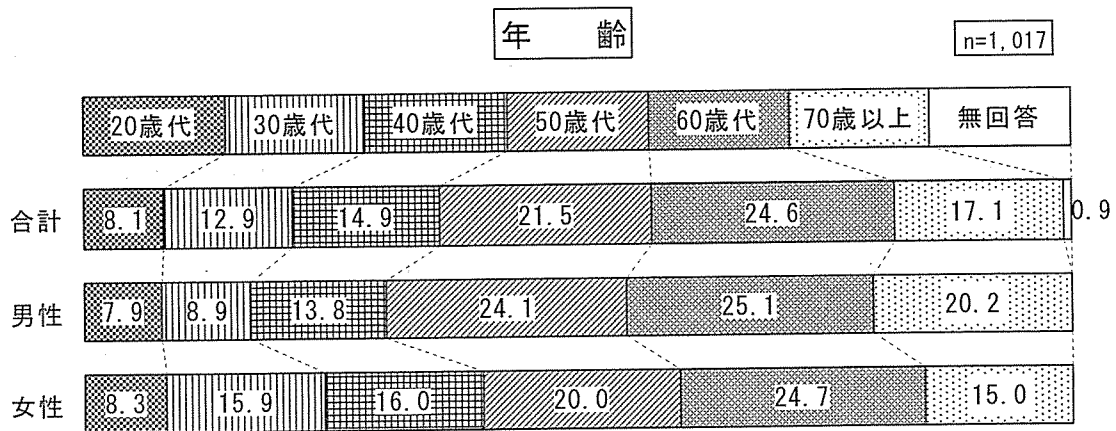


問1 あなたの性別は		回答者		住民基本台帳※	
		実数(人)	割合(%)	実数(人)	割合(%)
1	男性	406	39.9	66,171	46.0
2	女性	599	58.9	77,558	54.0
	無回答	12	1.2		
	合計	1,017	100.0	143,729	100.0

※H21.1.31現在

2 年齢

回答者の年齢は「60歳代」24.6%、「50歳代」21.5%、「70歳以上」17.1%、「40歳代」14.9%となっています。調査対象の住民基本台帳上の年齢比と比較すると、「70歳以上」は7.0ポイント、「20歳代」は3.2ポイント低く、「60歳代」は5.8ポイント、「50歳代」は4.3ポイント高くなっており、本調査の全体集計では70歳以上の高齢者層と20歳代の若い層の意見の反映が弱く、逆に50歳代から60歳代の年代の意見が強く反映されている可能性があります。



問2 あなたの年齢は（平成21年1月1日現在）

	回答者		住民基本台帳※	
	実数(人)	割合(%)	実数(人)	割合(%)
1 20歳代	82	8.1	16,194	11.3
2 30歳代	131	12.9	21,916	15.3
3 40歳代	152	14.9	19,114	13.3
4 50歳代	219	21.5	24,759	17.2
5 60歳代	250	24.6	27,045	18.8
6 70歳以上	174	17.1	34,701	24.1
無回答	9	0.9		
合計	1,017	100.0	143,729	100.0

※H21.1.31現在

性別にみた状況

男性

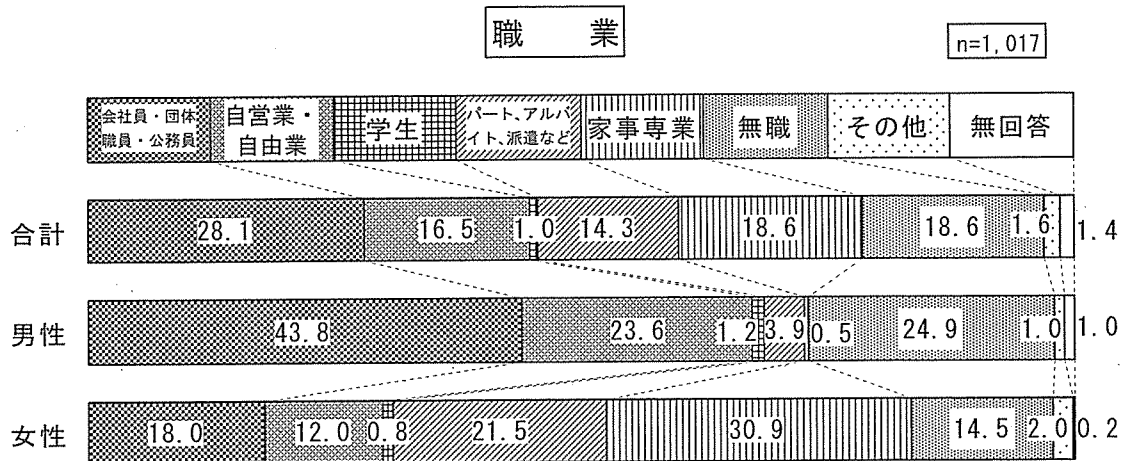
	実数(人)	割合(%)	実数(人)	割合(%)
1 20歳代	32	7.9	8,006	12.1
2 30歳代	36	8.9	10,883	16.4
3 40歳代	56	13.8	9,218	13.9
4 50歳代	98	24.1	11,964	18.1
5 60歳代	102	25.1	12,745	19.3
6 70歳以上	82	20.2	13,355	20.2
無回答	0	0.0		
合計	406	100.0	66,171	100.0

女性

	実数(人)	割合(%)	実数(人)	割合(%)
1 20歳代	50	8.3	8,188	10.6
2 30歳代	95	15.9	11,033	14.2
3 40歳代	96	16.0	9,896	12.8
4 50歳代	120	20.0	12,795	16.5
5 60歳代	148	24.7	14,300	18.4
6 70歳以上	90	15.0	21,346	27.5
無回答	0	0.0		
合計	599	100.0	77,558	100.0

3 職業

回答者の職業は「会社員・団体職員・公務員」28.1%、「家事専業」18.6%、「無職」18.6%、「自営業（農林業を含む）・自由業」16.5%、「パート、アルバイト、派遣など」14.3%、「学生」1.0%の順になっています。



問3 あなたの職業は

	実数(人)	割合(%)
1 会社員・団体職員・公務員	286	28.1
2 自営業（農林業を含む）・自由業	168	16.5
3 学生	10	1.0
4 パート、アルバイト、派遣など	145	14.3
5 家事専業	189	18.6
6 無職	189	18.6
7 その他	16	1.6
無回答	14	1.4
合計	1,017	100.0

性別にみた状況

男性

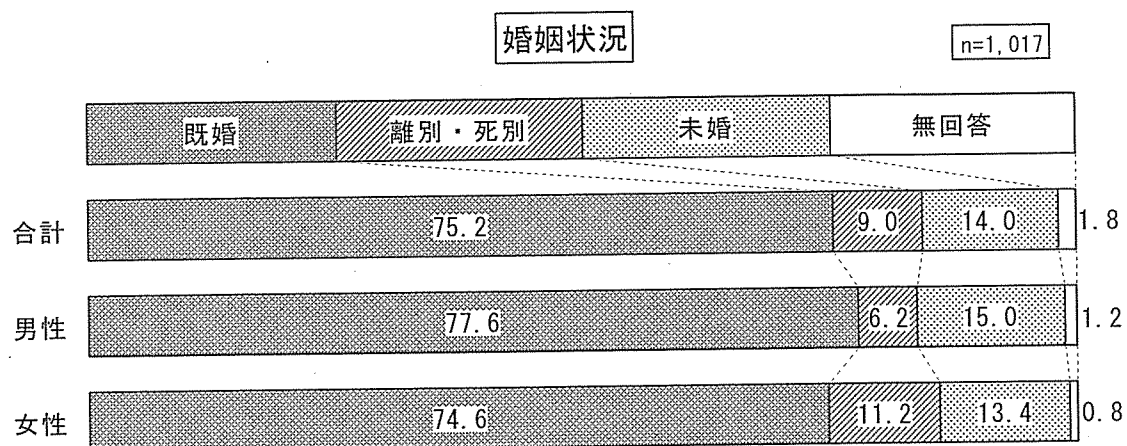
1 会社員・団体職員・公務員	178	43.8
2 自営業（農林業を含む）・自由業	96	23.6
3 学生	5	1.2
4 パート、アルバイト、派遣など	16	3.9
5 家事専業	2	0.5
6 無職	101	24.9
7 その他	4	1.0
無回答	4	1.0
合計	406	100.0

女性

1 会社員・団体職員・公務員	108	18.0
2 自営業（農林業を含む）・自由業	72	12.0
3 学生	5	0.8
4 パート、アルバイト、派遣など	129	21.5
5 家事専業	185	30.9
6 無職	87	14.5
7 その他	12	2.0
無回答	1	0.2
合計	599	100.0

4 婚姻状況

回答者の婚姻状況は「既婚（事実婚を含む）」75.2%、「未婚」14.0%、「離別、死別」9.0%になっています。



問4 あなたは結婚されていますか

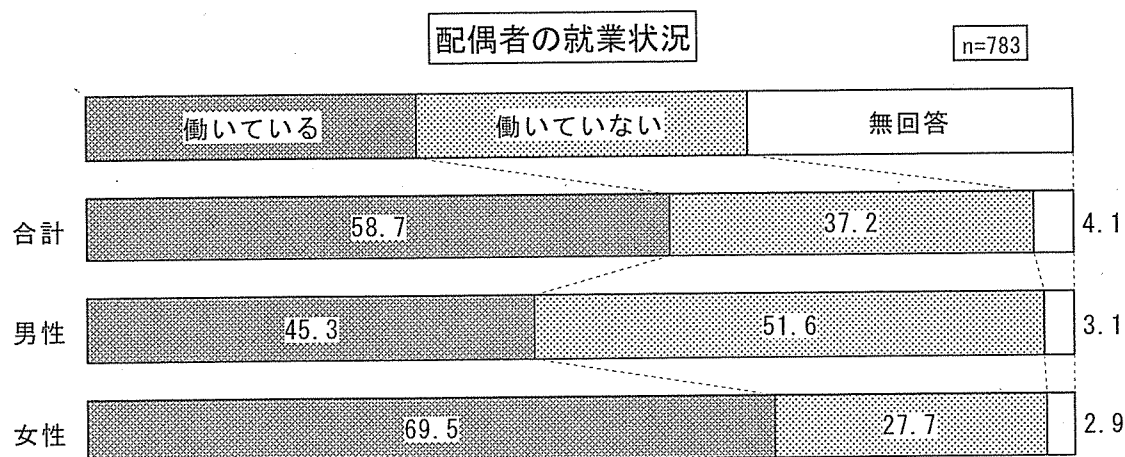
	実数(人)	割合(%)
1 既婚（事実婚を含む）	765	75.2
2 離別、死別	92	9.0
3 未婚	142	14.0
無回答	18	1.8
合計	1,017	100.0
性別にみた状況		
男性		
1 既婚（事実婚を含む）	315	77.6
2 離別、死別	25	6.2
3 未婚	61	15.0
無回答	5	1.2
合計	406	100.0
女性		
1 既婚（事実婚を含む）	447	74.6
2 離別、死別	67	11.2
3 未婚	80	13.4
無回答	5	0.8
合計	599	100.0

5 配偶者・パートナーの就労状況

配偶者・パートナーの就業状況は「働いている」58.7%、「働いていない」37.2%となっており、14年本市調査（「働いている」62.7%、「働いていない」28.3%）と比較すると、「働いている」が4.0ポイント低く、「働いていない」が8.9ポイント高くなっています。

男性回答者のうち配偶者・パートナーが「働いている」のは45.3%ですが、女性回答者のうち配偶者・パートナーが働いているのは69.5%となっています。

また、回答者とその配偶者・パートナーの就業状況からみた共働きの割合は33.8%となっており、平成14年に実施された前回調査が36.0%であったのに比較すると、2.2ポイント低くなっています。



問5 現在、あなたの配偶者・パートナーは働いていますか

	実数(人)	割合(%)
1 働いている	460	58.7
2 働いていない	291	37.2
無回答	32	4.1
該当計	783	100.0
非該当（配偶者・パートナーなし）	234	
合計	1,017	
問5で「配偶者・パートナーが働いている」と答えた人の職業		
1 会社員・団体職員・公務員	129	28.1
2 自営業（農林業を含む）・自由業	108	16.5
3 学生	0	1.0
4 パート、アルバイト、派遣など	102	14.3
5 家事専業	96	18.6
6 無職	20	18.6
7 その他	5	1.6
合計	460	100.0
うち回答者とその配偶者が共に働いている世帯(1+2+4+7)	344	

性別にみた状況

男性

	実数(人)	割合(%)
1 働いている	145	45.3
2 働いていない	165	51.6
無回答	10	3.1
非該当(配偶者・パートナーなし)	86	
合計	406	100.0

問5で「配偶者・パートナーが働いている」と答えた男性の職業

1 会社員・団体職員・公務員	80	43.8
2 自営業(農林業を含む)・自由業	51	23.6
3 学生	0	1.2
4 パート、アルバイト、派遣など	5	3.9
5 家事専業	0	0.5
6 無職	8	24.9
7 その他	1	1.0
合計	145	100.0

うち回答者とその配偶者が共に働いている世帯(1+2+4+7)

137

女性

1 働いている	314	69.5
2 働いていない	125	27.7
無回答	13	2.9
非該当(配偶者・パートナーなし)	147	
合計	599	100.0

問5で「配偶者・パートナーが働いている」と答えた女性の職業

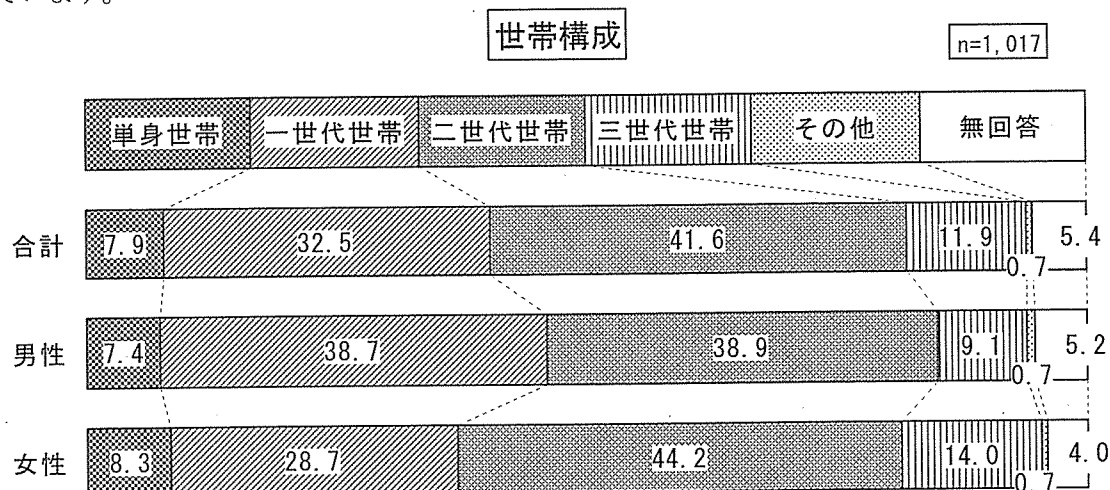
1 会社員・団体職員・公務員	49	18.0
2 自営業(農林業を含む)・自由業	57	12.0
3 学生	0	0.8
4 パート、アルバイト、派遣など	97	21.5
5 家事専業	95	30.9
6 無職	12	14.5
7 その他	4	2.0
合計	314	100.0

うち回答者とその配偶者が共に働いている世帯(1+2+4+7)

207

6 世帯構成

「二世世代世帯（親と子）」の割合が41.6%と最も高く、「一世代世帯（夫婦のみ、兄弟姉妹のみ）」が32.5%、「三世世代世帯（親と子と孫など）」が11.9%、「単身世帯（一人暮らし）」が7.9%の順になっています。



問6 あなたの世帯状況はどれですか

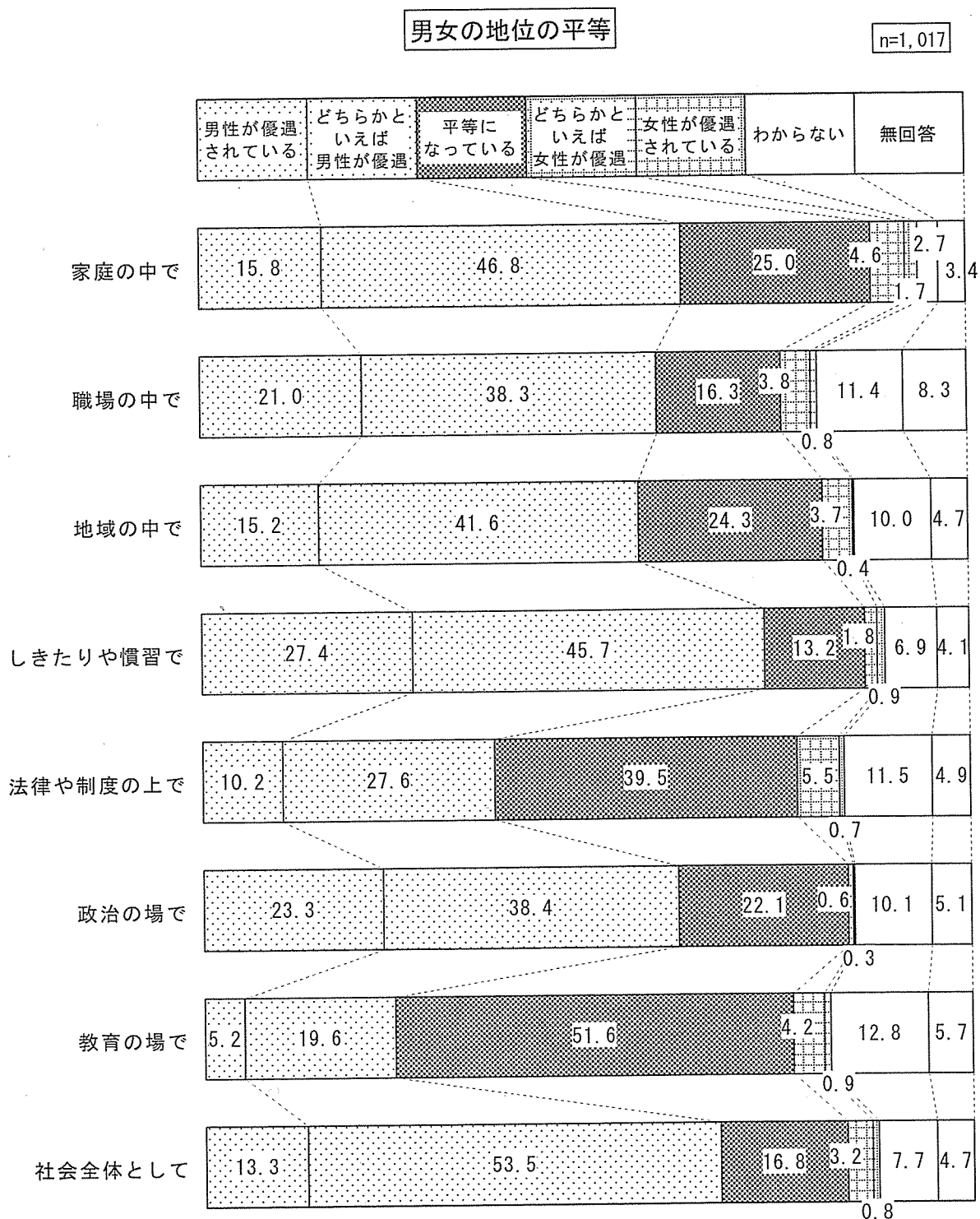
	実数(人)	割合(%)
1 単身世帯（一人暮らし）	80	7.9
2 一世代世帯（夫婦のみ、兄弟姉妹のみ）	331	32.5
3 二世世代世帯（親と子）	423	41.6
4 三世世代世帯（親と子と孫など）	121	11.9
5 その他	7	0.7
無回答	55	5.4
合計	1,017	100.0

第3 結果と分析

I 男女の地位に関する意識について

(1) 各分野の男女の平等感

次のそれぞれの分野で男女の地位は平等になっていると思うか聞いたところ「平等になっている」と答えた方の割合が、「教育の場で」51.6%、「法律や制度の上で」39.5%、「家庭の中で」25.0%、「地域の中で」24.3%、「政治の場で」22.1%、「社会全体として」16.8%、「職場の中で」16.3%、「しきたりや慣習で」13.2%となっています。



問1 あなたは、次のような面で男女の地位は平等になっていると思いますか。

(1) 家庭の中で

	実数 (人)	割合 (%)
1 男性が優遇されている	161	15.8
2 どちらかといえば男性が優遇されている	476	46.8
3 平等になっている	254	25.0
4 どちらかといえば女性が優遇されている	47	4.6
5 女性が優遇されている	17	1.7
6 わからない	27	2.7
無回答	35	3.4
合計	1,017	100.0

(2) 職場の中で

	実数 (人)	割合 (%)
1 男性が優遇されている	214	21.0
2 どちらかといえば男性が優遇されている	390	38.3
3 平等になっている	166	16.3
4 どちらかといえば女性が優遇されている	39	3.8
5 女性が優遇されている	8	0.8
6 わからない	116	11.4
無回答	84	8.3
合計	1,017	100.0

(3) 地域の中で

	実数 (人)	割合 (%)
1 男性が優遇されている	155	15.2
2 どちらかといえば男性が優遇されている	423	41.6
3 平等になっている	247	24.3
4 どちらかといえば女性が優遇されている	38	3.7
5 女性が優遇されている	4	0.4
6 わからない	102	10.0
無回答	48	4.7
合計	1,017	100.0

(4) しきたりや慣習で

	実数 (人)	割合 (%)
1 男性が優遇されている	279	27.4
2 どちらかといえば男性が優遇されている	465	45.7
3 平等になっている	134	13.2
4 どちらかといえば女性が優遇されている	18	1.8
5 女性が優遇されている	9	0.9
6 わからない	70	6.9
無回答	42	4.1
合計	1,017	100.0

(5) 法律や制度の上で

	実数 (人)	割合 (%)
1 男性が優遇されている	104	10.2
2 どちらかといえば男性が優遇されている	281	27.6
3 平等になっている	402	39.5
4 どちらかといえば女性が優遇されている	56	5.5
5 女性が優遇されている	7	0.7
6 わからない	117	11.5
無回答	50	4.9
合計	1,017	100.0

(6) 政治の場で

	実数 (人)	割合 (%)
1 男性が優遇されている	237	23.3
2 どちらかといえば男性が優遇されている	391	38.4
3 平等になっている	225	22.1
4 どちらかといえば女性が優遇されている	6	0.6
5 女性が優遇されている	3	0.3
6 わからない	103	10.1
無回答	52	5.1
合計	1,017	100.0

(7) 教育の場で

	実数 (人)	割合 (%)
1 男性が優遇されている	53	5.2
2 どちらかといえば男性が優遇されている	199	19.6
3 平等になっている	525	51.6
4 どちらかといえば女性が優遇されている	43	4.2
5 女性が優遇されている	9	0.9
6 わからない	130	12.8
無回答	58	5.7
合計	1,017	100.0

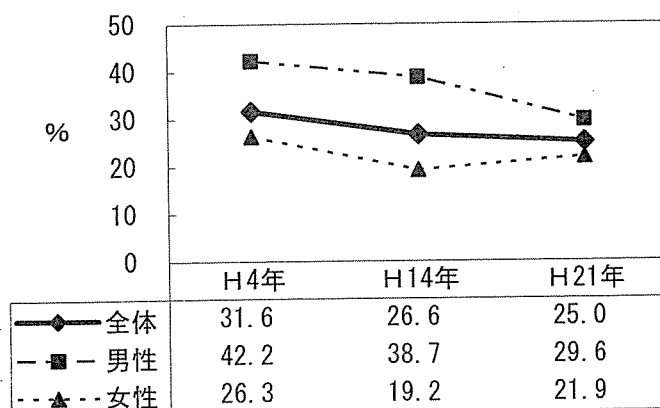
(8) 社会全体として

	実数 (人)	割合 (%)
1 男性が優遇されている	135	13.3
2 どちらかといえば男性が優遇されている	544	53.5
3 平等になっている	171	16.8
4 どちらかといえば女性が優遇されている	33	3.2
5 女性が優遇されている	8	0.8
6 わからない	78	7.7
無回答	48	4.7
合計	1,017	100.0

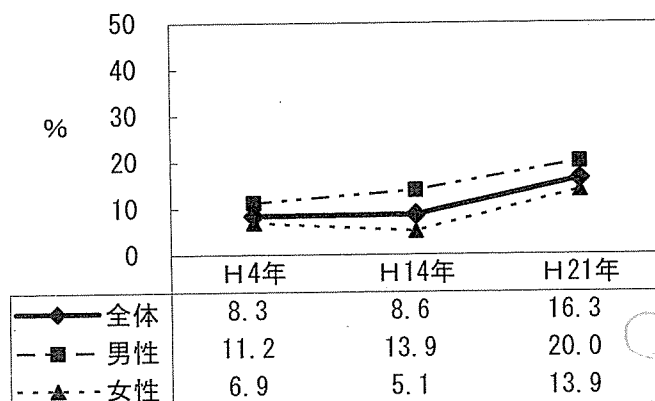
【今治市の過去の調査との比較】

4年本市調査、14年本市調査と比較すると「平等になっている」と感じる方の割合はほとんどの分野では増加しているものの、「家庭の中で」の分野では減少しています。

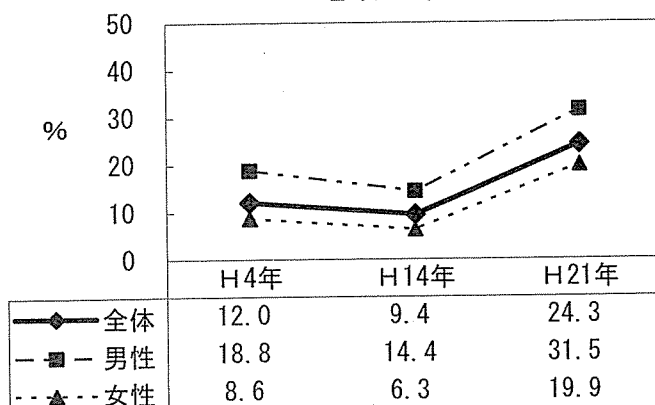
家庭の中で



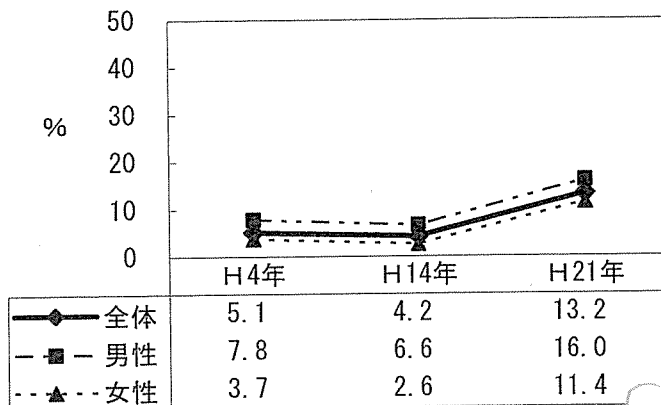
職場の中で



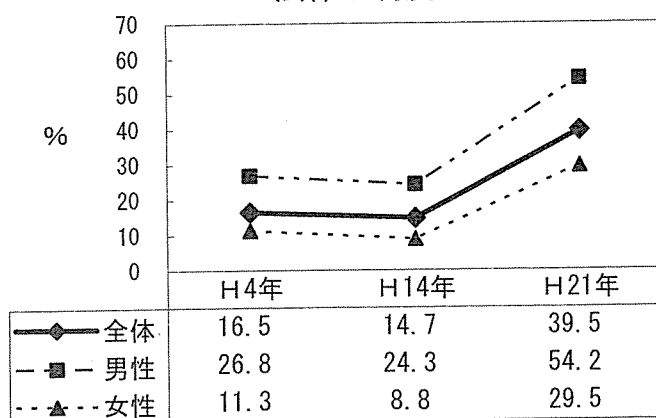
地域の中で



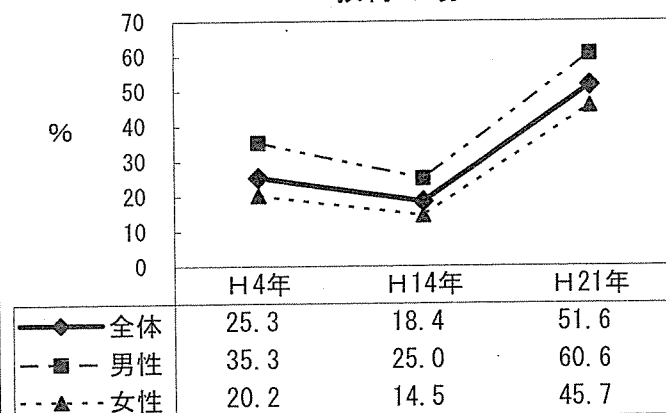
しきたりや慣習で



法律や制度の上で



教育の場で



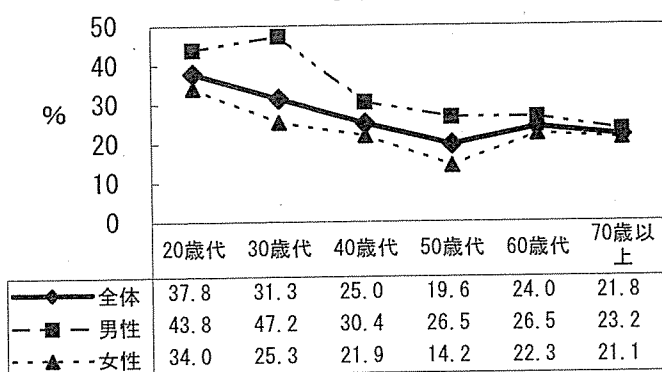
【性別・年齢別にみた分野別の男女の平等感】

「平等になっている」と感じている割合は、どの分野でもどの年代でもおおむね男性の方が高くなっています。

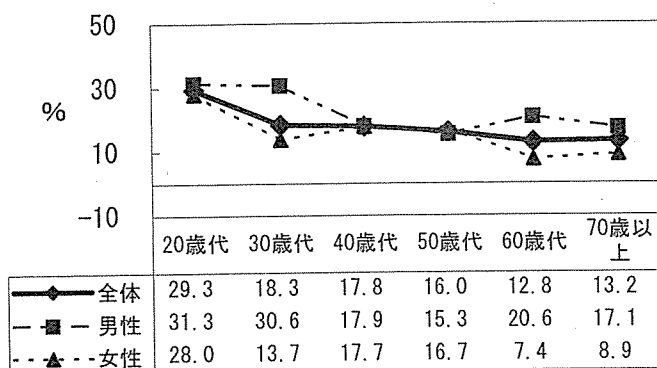
また、「法律や制度の上で」を除くどの分野でも20歳代の回答者は他の年代の回答者よりも「平等になっている」と感じている割合は、高くなっています。

分野別に見ると「家庭の中で」と「職場の中で」の分野で、30歳代において「平等になっている」と感じている「男性」の割合が、「女性」の割合と比較して非常に高くなっています。

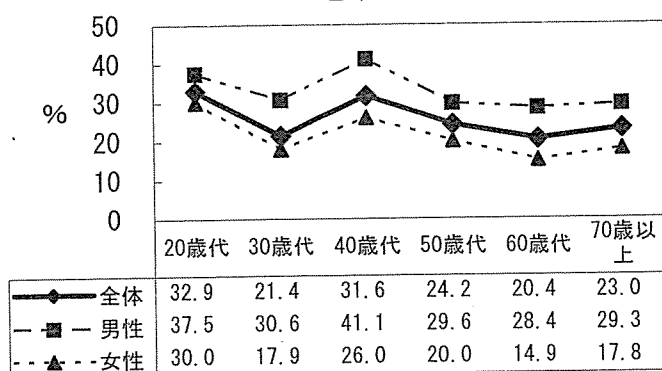
家庭の中で



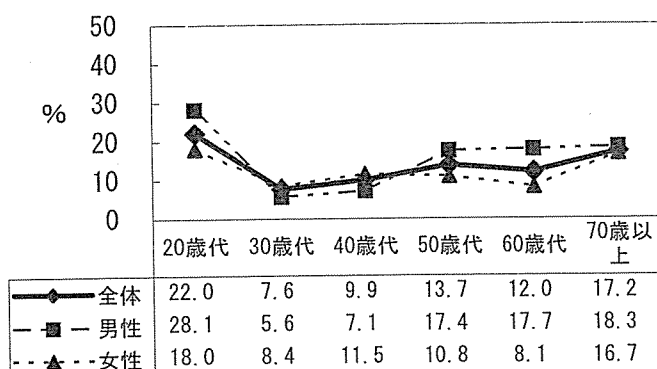
職場の中で



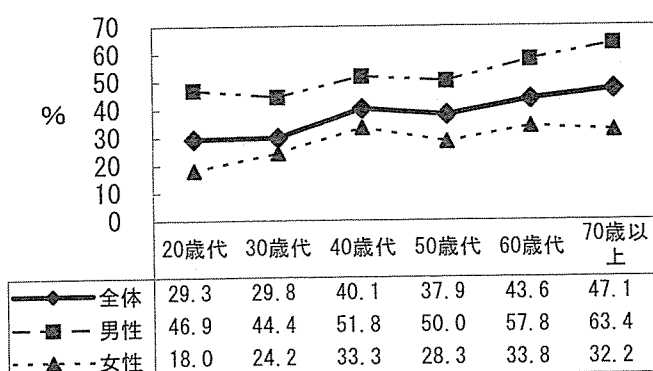
地域の中で



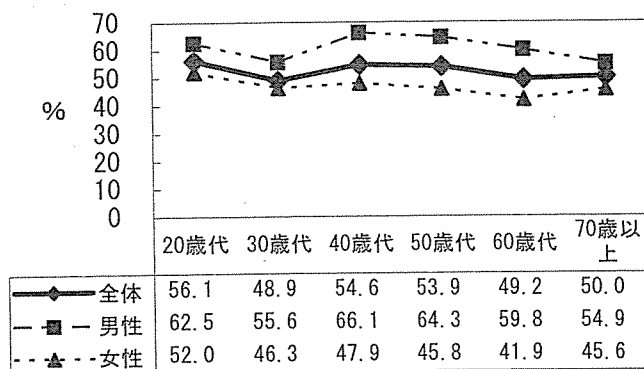
しきたりや慣習で



法律や制度の上で



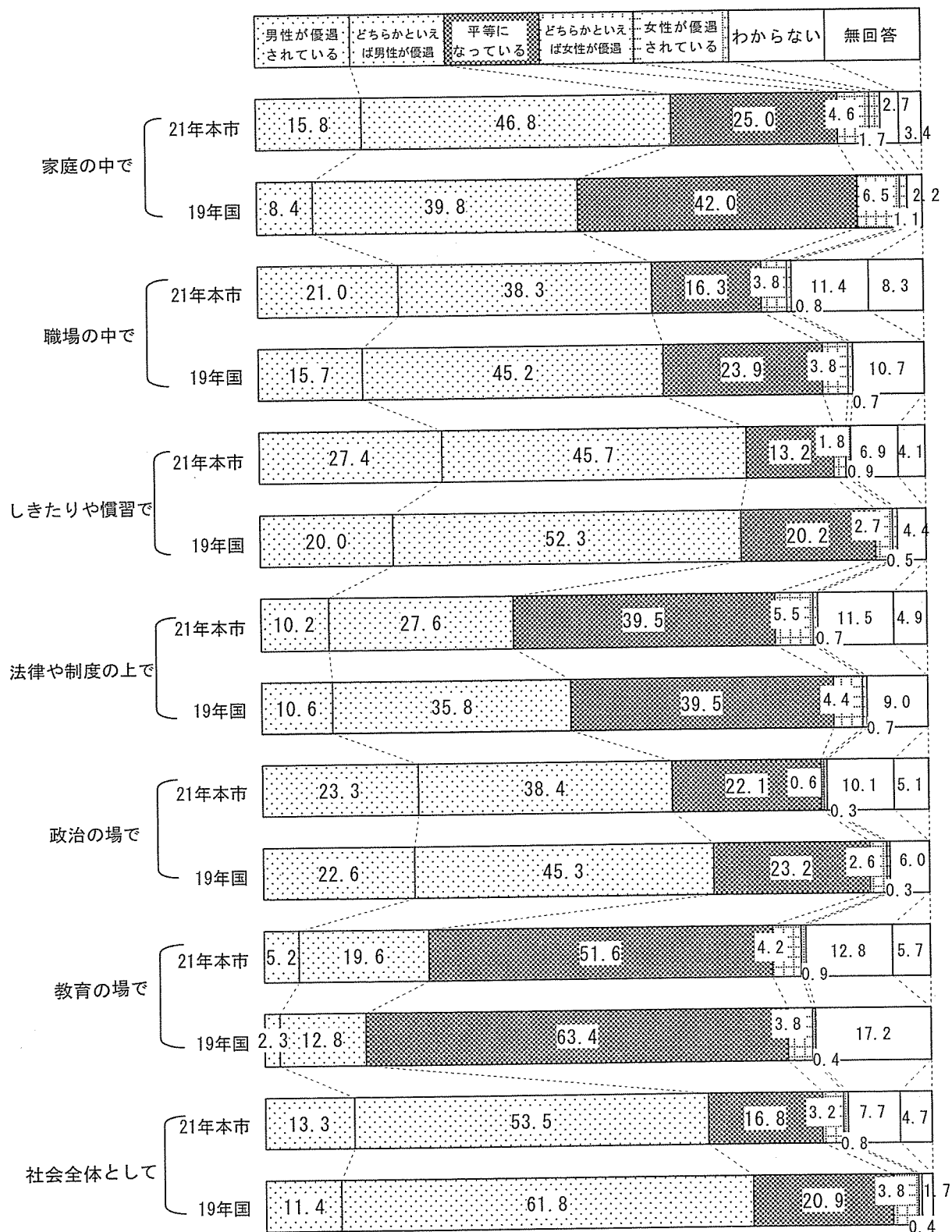
教育の場で



【全国調査との比較】

内閣府により平成19年に実施された男女共同参画社会に関する世論調査（以下「19年国調査」という。）と今治市の今回の調査結果を比較すると、「男性が優遇されている」または「どちらかといえば男性が優遇されている」と感じる人の割合は、「家庭の中で」と「教育の場で」については19年国調査より高かったものの、その他の分野では19年国調査と同等か、あるいは低い状況でした。

男女の地位の平等（全国調査比）

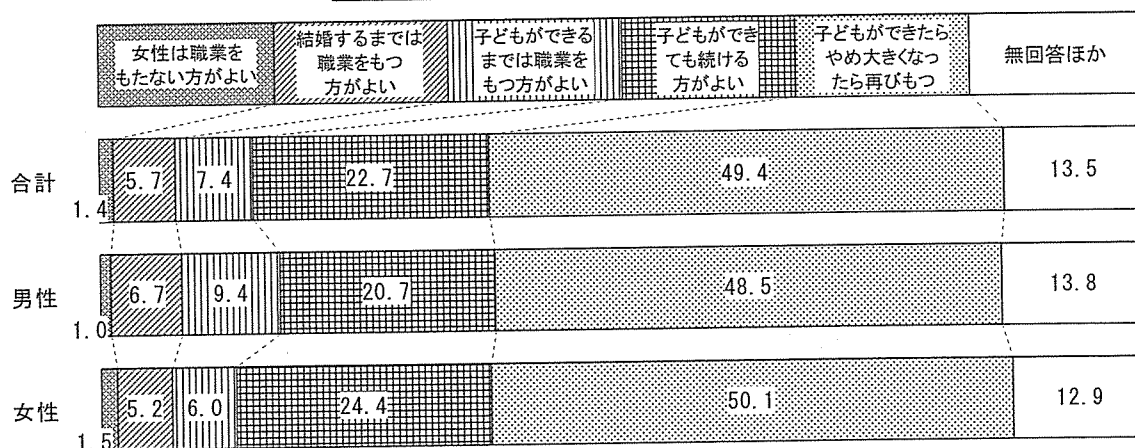


注) 19年国調査では、「無回答」がなかった。

(2) 女性が職業をもつことに関する意識について

一般的に女性が職業をもつことについてどう考えるか聞いたところ、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と答えた方の割合が49.4%、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と答えた方の割合が22.7%、「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」と答えた方の割合が7.4%、「結婚するまでは、職業をもつ方がよい」と答えた方の割合が5.7%、「女性は職業をもたない方がよい」と答えた方の割合が1.4%となっています。

女性が職業をもつことについての考え方



問2 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのように考えますか。

	実数 (人)	割合 (%)
1 女性は職業をもたない方がよい	14	1.4
2 結婚するまでは、職業をもつ方がよい	58	5.7
3 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	75	7.4
4 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	231	22.7
5 子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	502	49.4
6 その他	70	6.9
7 わからない	26	2.6
無回答	41	4.0
合計	1,017	100.0

性別にみた状況

男性

	実数 (人)	割合 (%)
1 女性は職業をもたない方がよい	4	1.0
2 結婚するまでは、職業をもつ方がよい	27	6.7
3 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	38	9.4
4 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	84	20.7
5 子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	197	48.5
6 その他	27	6.7
7 わからない	12	3.0
無回答	17	4.2
合計	406	100.0

女性

	実数 (人)	割合 (%)
1 女性は職業をもたない方がよい	9	1.5
2 結婚するまでは、職業をもつ方がよい	31	5.2
3 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	36	6.0
4 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	146	24.4
5 子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	300	50.1
6 その他	43	7.2
7 わからない	14	2.3
無回答	20	3.3
合計	599	100.0

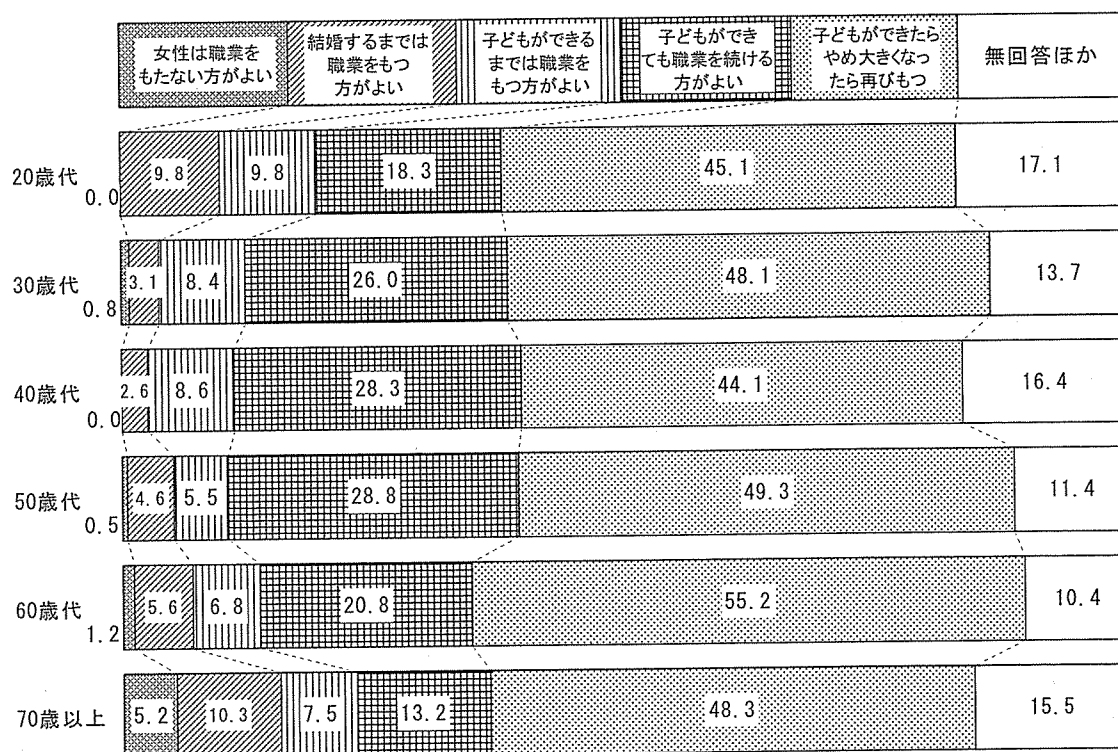
【年齢別にみた女性が職業をもつことに関する意識について】

どの年代も「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」という回答の割合が最も高くなりました。

年代による大きな差はみられませんが、20歳代と70歳以上では他の年代に比べ「結婚するまでは、職業をもつ方がよい」の割合が高めに、また「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」の割合が低めになりました。

「女性は職業をもたない方がよい」と答えた方は20歳代、40歳代にはなく、30歳代、50歳代、60歳代ではごくわずかですが、70歳以上では5.2%となっています。

女性が職業をもつことについての考え方（年齢別）



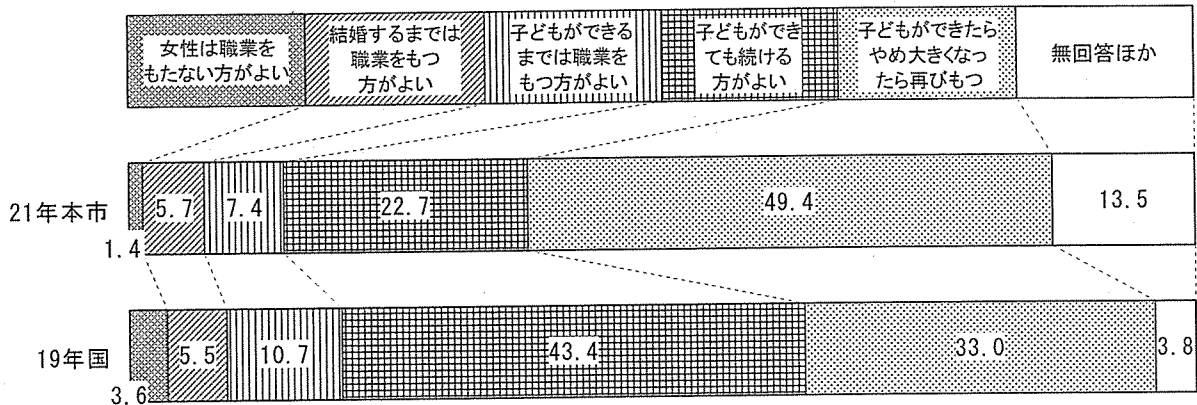
上段：実数（人）
下段：割合（%）

	女性は職業をもたない方がよい	結婚するまでは、職業をもつ方がよい	子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	子どもができたならやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	その他	わからない	無回答
合計	14	58	75	231	502	70	26	41
	1.4	5.7	7.4	22.7	49.4	6.9	2.6	4.0
20歳代	0	8	8	15	37	9	2	3
	0.0	9.8	9.8	18.3	45.1	11.0	2.4	3.7
30歳代	1	4	11	34	63	10	5	3
	0.8	3.1	8.4	26.0	48.1	7.6	3.8	2.3
40歳代	0	4	13	43	67	17	7	1
	0.0	2.6	8.6	28.3	44.1	11.2	4.6	0.7
50歳代	1	10	12	63	108	14	4	7
	0.5	4.6	5.5	28.8	49.3	6.4	1.8	3.2
60歳代	3	14	17	52	138	12	4	10
	1.2	5.6	6.8	20.8	55.2	4.8	1.6	4.0
70歳以上	9	18	13	23	84	8	4	15
	5.2	10.3	7.5	13.2	48.3	4.6	2.3	8.6

【19 年国調査との比較】

19 年国調査と比較すると、今回の本市調査では「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」という回答は 19 年国調査を 16.4 ポイント上回っていますが、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答は、19 年国調査を 20.7 ポイント下回っています。

女性が職業をもつことについての考え方（全国調査比）

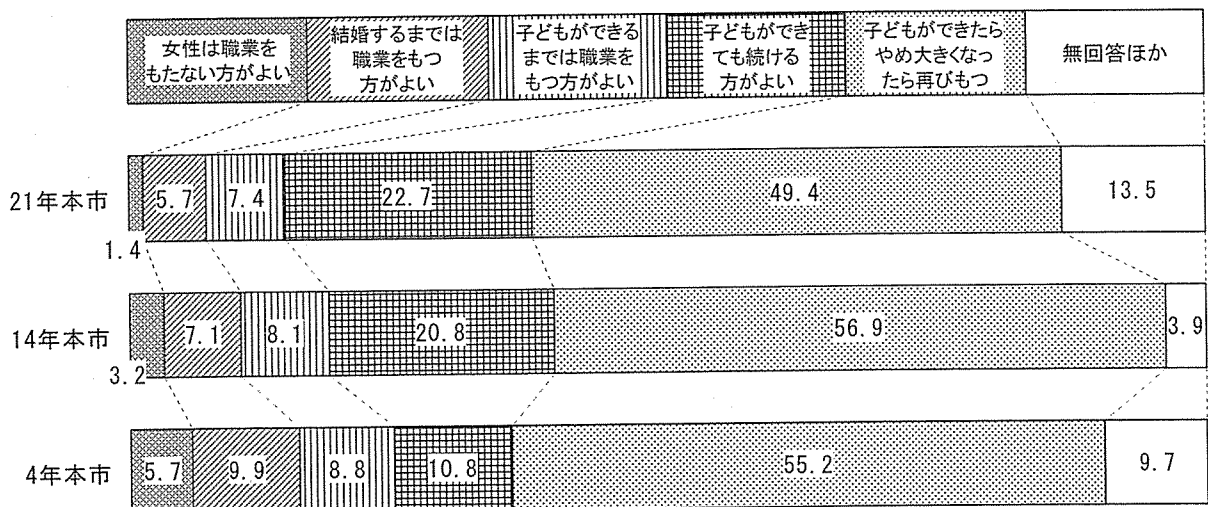


【今治市の過去の調査との比較】

4 年本市調査、14 年本市調査と比較すると「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答は回を追うごとに割合が高まっています。

一方、「女性は職業をもたない方がよい」という考え方や、「結婚するまでは、職業をもつ方がよい」「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」という考え方は、徐々に減っています。

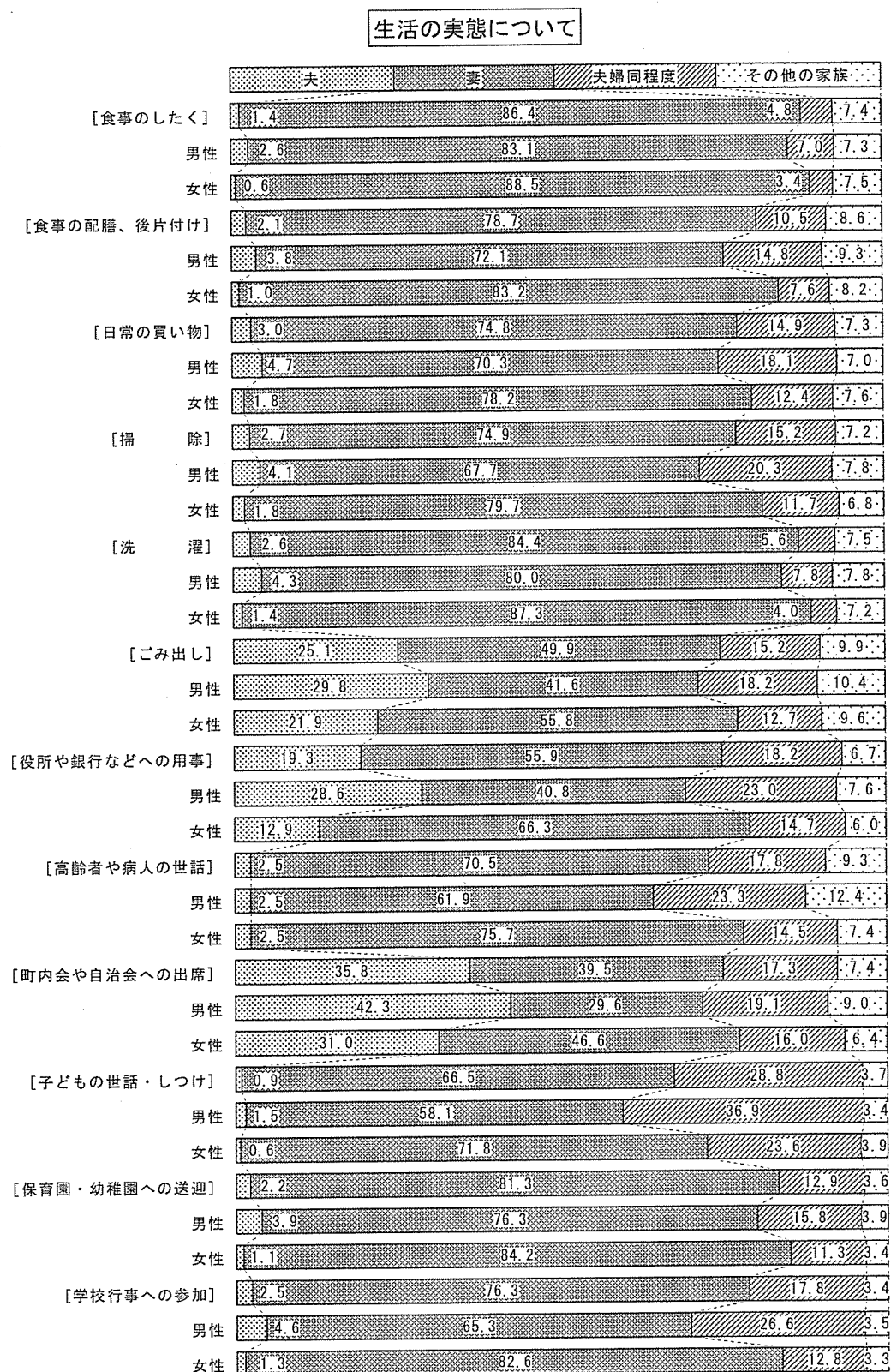
女性が職業をもつことについての考え方（本市過去調査比）



Ⅱ 生活の実態について

(1) 家庭内での家事などの役割分担

家庭内で次にあげる家事などを主にだれが分担しているか聞いたところ、ほとんどの分野で「妻」が分担しています。ただし「町内会や自治会への出席」、「役所や銀行などへの用事」や「ごみ出し」の分野については「夫」の割合が他の分野と比較すると高くなっています。



問3 あなたのご家庭では、次にあげる家事などを主にだれが分担していますか。

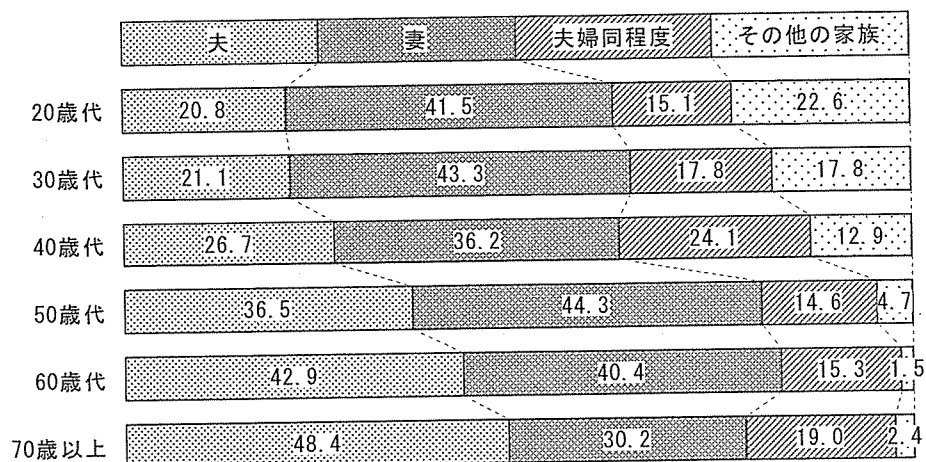
	実数 (人)	割合 (%)
(1) 食事のしたく		
1 夫	12	1.4
2 妻	734	86.4
3 夫婦同程度	41	4.8
4 その他の家族	63	7.4
回答者数	850	100.0
集計対象外回答者 (単身者他)	167	
(2) 食事の配膳、後片付け		
1 夫	18	2.1
2 妻	665	78.7
3 夫婦同程度	89	10.5
4 その他の家族	73	8.6
回答者数	845	100.0
集計対象外回答者 (単身者他)	172	
(3) 日常の買い物		
1 夫	25	3.0
2 妻	633	74.8
3 夫婦同程度	126	14.9
4 その他の家族	62	7.3
回答者数	846	100.0
集計対象外回答者 (単身者他)	171	
(4) 掃除		
1 夫	23	2.7
2 妻	631	74.9
3 夫婦同程度	128	15.2
4 その他の家族	61	7.2
回答者数	843	100.0
集計対象外回答者 (単身者他)	174	
(5) 洗濯		
1 夫	22	2.6
2 妻	713	84.4
3 夫婦同程度	47	5.6
4 その他の家族	63	7.5
回答者数	845	100.0
集計対象外回答者 (単身者他)	172	
(6) ごみ出し		
1 夫	213	25.1
2 妻	424	49.9
3 夫婦同程度	129	15.2
4 その他の家族	84	9.9
回答者数	850	100.0
集計対象外回答者 (単身者他)	167	

		実数 (人)	割合 (%)
(7) 役所や銀行などへの用事			
1	夫	162	19.3
2	妻	470	55.9
3	夫婦同程度	153	18.2
4	その他の家族	56	6.7
	回答者数	841	100.0
	集計対象外回答者 (単身者他)	176	
(8) 高齢者や病人の世話			
1	夫	13	2.5
2	妻	372	70.5
3	夫婦同程度	94	17.8
4	その他の家族	49	9.3
	回答者数	528	100.0
	集計対象外回答者 (単身者他)	489	
(9) 町内会や自治会への出席			
1	夫	279	35.8
2	妻	308	39.5
3	夫婦同程度	135	17.3
4	その他の家族	58	7.4
	回答者数	780	100.0
	集計対象外回答者 (単身者他)	237	
(10) 乳幼児の世話・子どものしつけ			
1	夫	5	0.9
2	妻	355	66.5
3	夫婦同程度	154	28.8
4	その他の家族	20	3.7
	回答者数	534	100.0
	集計対象外回答者 (単身者他)	483	
(11) 保育園・幼稚園への送迎			
1	夫	9	2.2
2	妻	340	81.3
3	夫婦同程度	54	12.9
4	その他の家族	15	3.6
	回答者数	418	100.0
	集計対象外回答者 (単身者他)	599	
(12) 学校行事への参加			
1	夫	12	2.5
2	妻	364	76.3
3	夫婦同程度	85	17.8
4	その他の家族	16	3.4
	回答者数	477	100.0
	集計対象外回答者 (単身者他)	540	

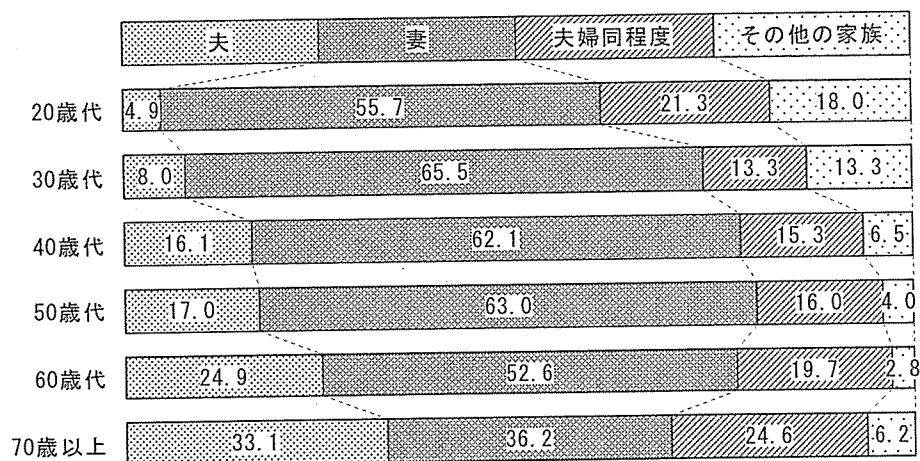
【年齢別にみた生活の実態について】

「夫」の割合が他の分野と比較して高くなっている「町内会や自治会への出席」、「役所や銀行などへの用事」や「ごみ出し」について、年齢別に分析してみると、「町内会や自治会への出席」、「役所や銀行などへの用事」については年代が高くなれば「夫」が分担する割合が高くなっています。また、「ごみ出し」についてみると、どの年代でも「夫」が分担する割合はおおむね似通ったものとなっています。

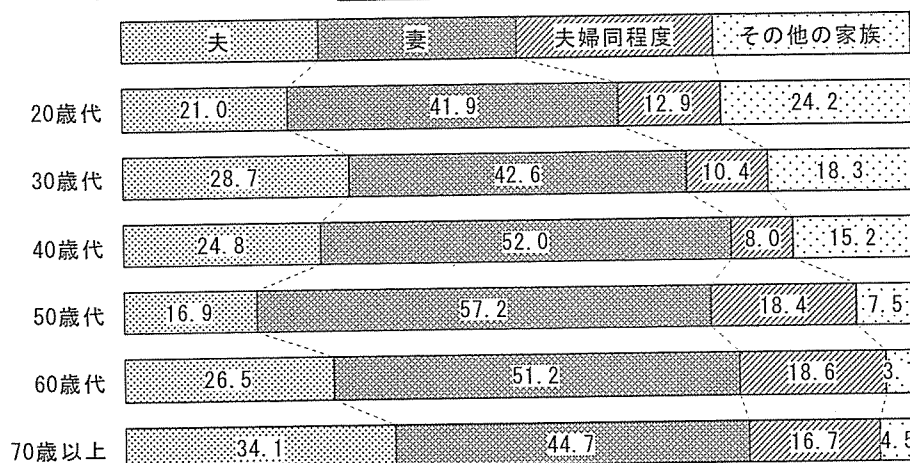
町内会や自治会への出席（年齢別）



役所や銀行などへの用事（年齢別）



ごみ出し（年齢別）



町内会や自治会への出席

上段：実数（人）

下段：割合（％）

	合計	夫	妻	夫婦 同程度	その他 の家族
20歳代	53 100.0	11 20.8	22 41.5	8 15.1	12 22.6
30歳代	90 100.0	19 21.1	39 43.3	16 17.8	16 17.8
40歳代	116 100.0	31 26.7	42 36.2	28 24.1	15 12.9
50歳代	192 100.0	70 36.5	85 44.3	28 14.6	9 4.7
60歳代	203 100.0	87 42.9	82 40.4	31 15.3	3 1.5
70歳以上	126 100.0	61 48.4	38 30.2	24 19.0	3 2.4

役所や銀行などへの用事

	合計	夫	妻	夫婦 同程度	その他 の家族
20歳代	61 100.0	3 4.9	34 55.7	13 21.3	11 18.0
30歳代	113 100.0	9 8.0	74 65.5	15 13.3	15 13.3
40歳代	124 100.0	20 16.1	77 62.1	19 15.3	8 6.5
50歳代	200 100.0	34 17.0	126 63.0	32 16.0	8 4.0
60歳代	213 100.0	53 24.9	112 52.6	42 19.7	6 2.8
70歳以上	130 100.0	43 33.1	47 36.2	32 24.6	8 6.2

ごみ出し

	合計	夫	妻	夫婦 同程度	その他 の家族
20歳代	62 100.0	13 21.0	26 41.9	8 12.9	15 24.2
30歳代	115 100.0	33 28.7	49 42.6	12 10.4	21 18.3
40歳代	125 100.0	31 24.8	65 52.0	10 8.0	19 15.2
50歳代	201 100.0	34 16.9	115 57.2	37 18.4	15 7.5
60歳代	215 100.0	57 26.5	110 51.2	40 18.6	8 3.7
70歳以上	132 100.0	45 34.1	59 44.7	22 16.7	6 4.5

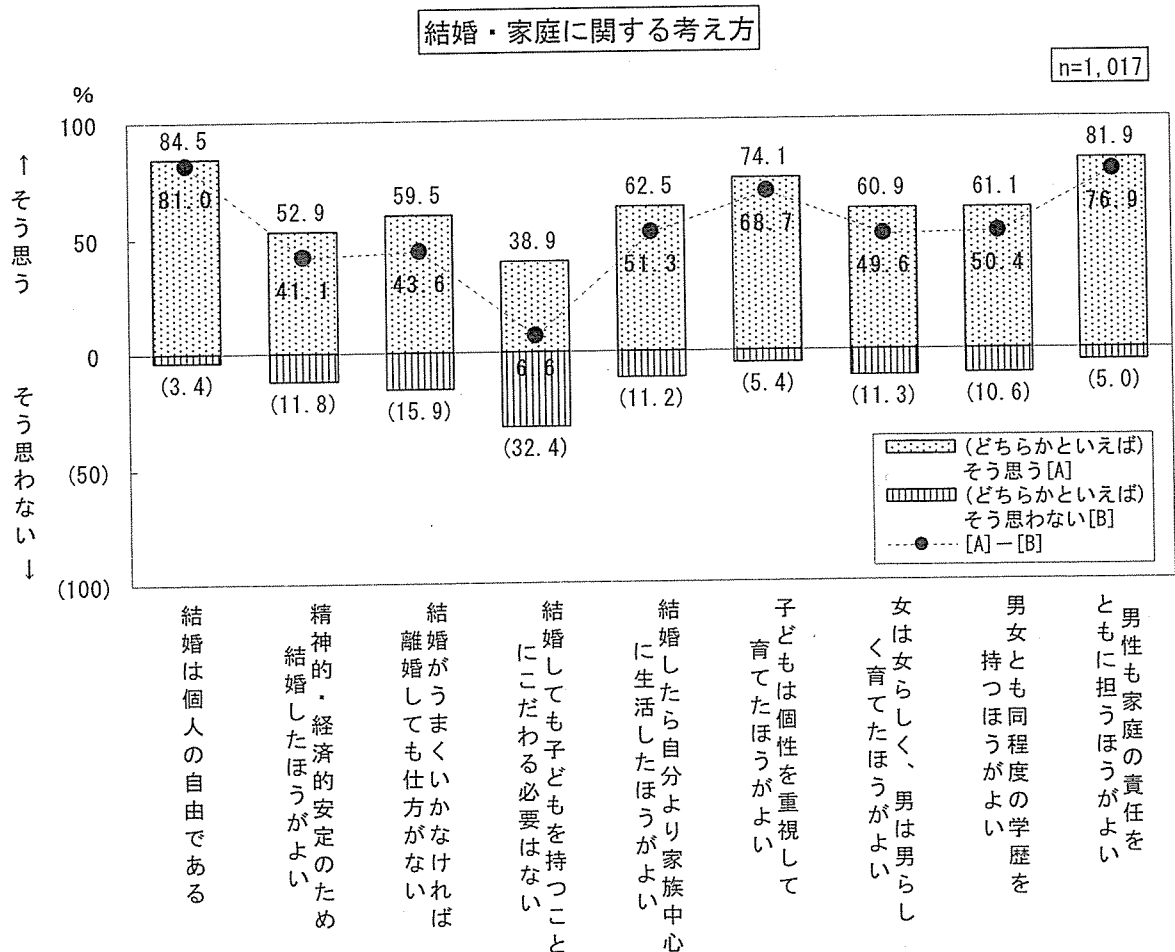
Ⅲ 結婚・家庭について

(1) 結婚・家庭観等に関する意識

結婚・家庭に関する次のような考え方について、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」を合わせた賛同（以下「（どちらかといえば）そう思う」という。）の割合と、「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」を合わせた反対（以下「（どちらかといえば）そう思わない」という。）の割合をみると、「結婚は個人の自由であると思う」「男性も家事や子育てなど、家庭の責任をともに担うほうがよいと思う」「子どもは、個性を重視して育てたほうがよいと思う」といった考え方に賛同する割合が非常に高くなっています。

そのほか、ほとんどの項目で半数以上の方が「（どちらかといえば）そう思う」と答え、「（どちらかといえば）そう思わない」と答えたのは10%強にとどまっています。

そのなかで、「結婚しても、子どもを持つことにこだわる必要がないと思う」という考え方については、「（どちらかといえば）そう思う」が38.9%、「（どちらかといえば）そう思わない」が32.4%と、賛否の意見が拮抗しています。



問4 結婚・家庭に関する次のような考え方について、あなたはどのように思いますか。

(1) 結婚は個人の自由であると思う

実数(人) 割合(%)

1	そう思う	573	56.3
2	どちらかといえばそう思う	286	28.1
3	どちらともいえない	100	9.8
4	どちらかといえばそう思わない	20	2.0
5	そう思わない	15	1.5
6	わからない	3	0.3
	無回答	20	2.0
	回答者数	1,017	100.0

(2) 精神的にも経済的にも安定するから結婚したほうがよいと思う

1	そう思う	269	26.5
2	どちらかといえばそう思う	269	26.5
3	どちらともいえない	317	31.2
4	どちらかといえばそう思わない	27	2.7
5	そう思わない	93	9.1
6	わからない	15	1.5
	無回答	27	2.7
	回答者数	1,017	100.0

(3) 結婚しても、うまくいかなければ、離婚しても仕方がないと思う

1	そう思う	332	32.6
2	どちらかといえばそう思う	273	26.8
3	どちらともいえない	209	20.6
4	どちらかといえばそう思わない	78	7.7
5	そう思わない	84	8.3
6	わからない	22	2.2
	無回答	19	1.9
	回答者数	1,017	100.0

(4) 結婚しても、子どもを持つことにこだわる必要がないと思う

1	そう思う	224	22.0
2	どちらかといえばそう思う	172	16.9
3	どちらともいえない	242	23.8
4	どちらかといえばそう思わない	145	14.3
5	そう思わない	184	18.1
6	わからない	24	2.4
	無回答	26	2.6
	回答者数	1,017	100.0

(5) 結婚したら自分自身のことより、配偶者や子どもなど家族のことを中心に
考えて生活したほうがよいと思う

1	そう思う	291	28.6
2	どちらかといえばそう思う	345	33.9
3	どちらともいえない	236	23.2
4	どちらかといえばそう思わない	58	5.7
5	そう思わない	56	5.5
6	わからない	10	1.0
	無回答	21	2.1
	回答者数	1,017	100.0

(6) 子どもは、個性を重視して育てたほうがよいと思う			実数 (人)	割合 (%)
1	そう思う		388	38.2
2	どちらかといえばそう思う		366	36.0
3	どちらともいえない		163	16.0
4	どちらかといえばそう思わない		23	2.3
5	そう思わない		32	3.1
6	わからない		25	2.5
	無回答		20	2.0
	回答者数		1,017	100.0

(7) 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てたほうがよいと思う				
1	そう思う		326	32.1
2	どちらかといえばそう思う		293	28.8
3	どちらともいえない		250	24.6
4	どちらかといえばそう思わない		28	2.8
5	そう思わない		87	8.6
6	わからない		15	1.5
	無回答		18	1.8
	回答者数		1,017	100.0

(8) 女性も男性も同じ程度の学歴を持つほうがよいと思う			実数 (人)	割合 (%)
1	そう思う		362	35.6
2	どちらかといえばそう思う		259	25.5
3	どちらともいえない		249	24.5
4	どちらかといえばそう思わない		44	4.3
5	そう思わない		64	6.3
6	わからない		19	1.9
	無回答		20	2.0
	回答者数		1,017	100.0

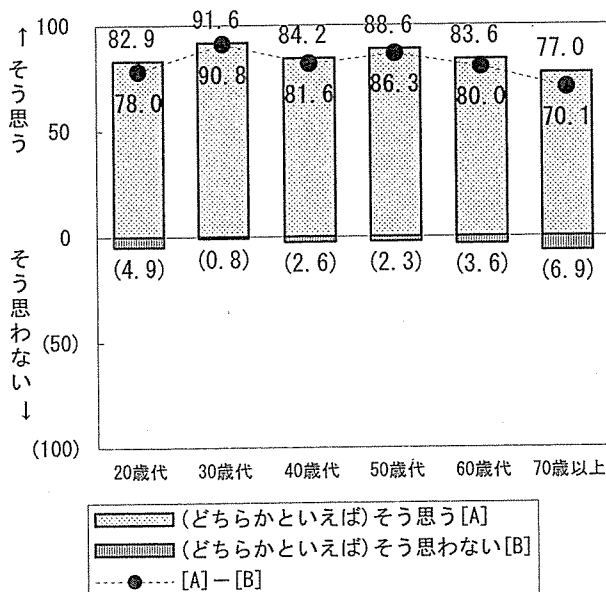
(9) 男性も家事や子育てなど、家庭の責任をともに担うほうがよいと思う				
1	そう思う		443	43.6
2	どちらかといえばそう思う		390	38.3
3	どちらともいえない		104	10.2
4	どちらかといえばそう思わない		27	2.7
5	そう思わない		24	2.4
6	わからない		13	1.3
	無回答		16	1.6
	回答者数		1,017	100.0

【年齢別の比較】

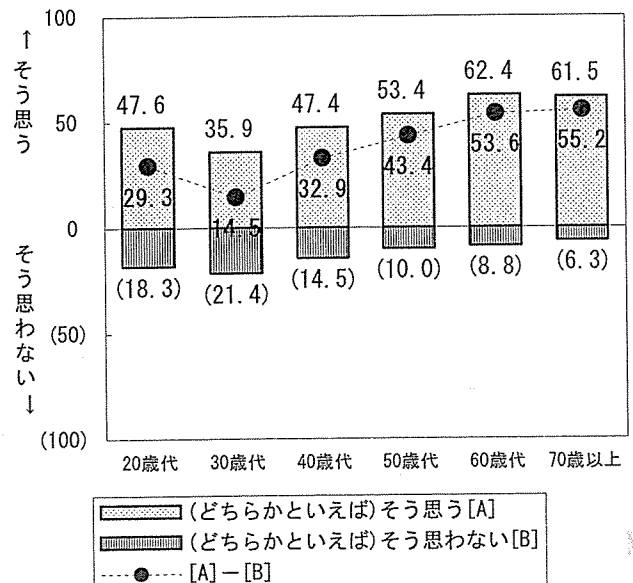
年齢別に「(どちらかといえば) そう思う」「(どちらかといえば) そう思わない」の比較をしてみると、ほとんどの項目のほとんどの年代で「(どちらかといえば) そう思う」が「(どちらかといえば) そう思わない」を上回っていますが、「結婚しても、子どもを持つことにこだわる必要がないと思う」の60歳代と70歳以上においては「(どちらかといえば) そう思わない」が「(どちらかといえば) そう思う」を上回っています。

一方、「精神的にも経済的にも安定するから結婚したほうがよいと思う」「結婚したら自分自身のことより、配偶者や子どもなど家族のことを中心に考えて生活したほうがよいと思う」に対しては、50歳代以上の年代で半数以上が「(どちらかといえば) そう思う」と答えているほか、「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てたほうがよいと思う」に対しては、60歳代以上で70%前後が「(どちらかといえば) そう思う」と答えており、これらの考え方については、比較的高い年代で賛同する割合が高くなっています。

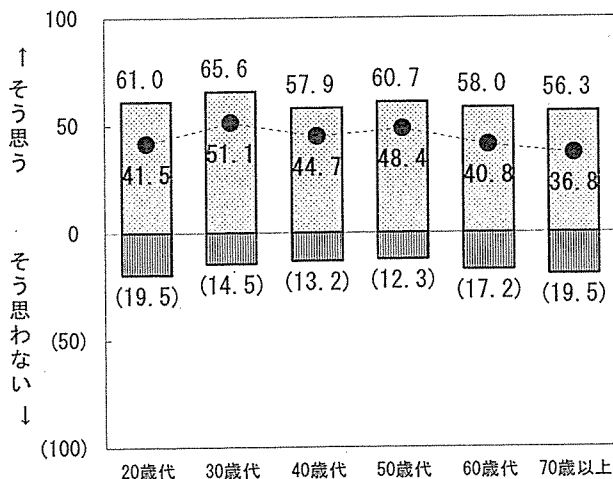
結婚は個人の自由である



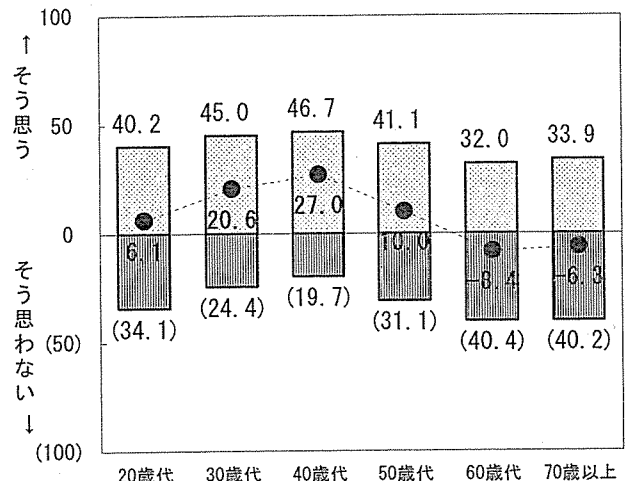
精神的・経済的安定のため
結婚したほうがよい



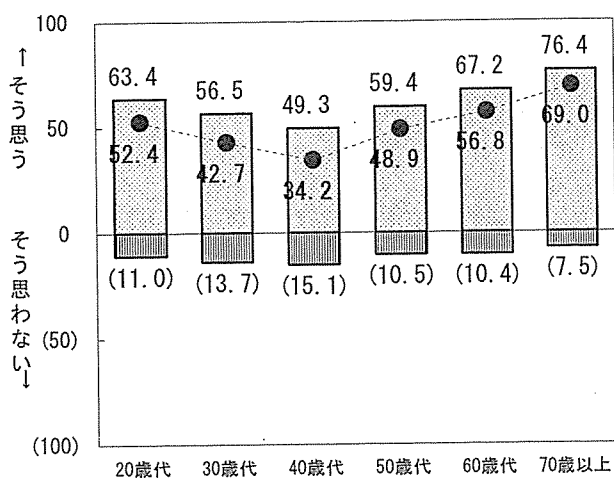
結婚がうまくいかなければ
離婚しても仕方がない



結婚しても子どもを持つことに
こだわる必要はない

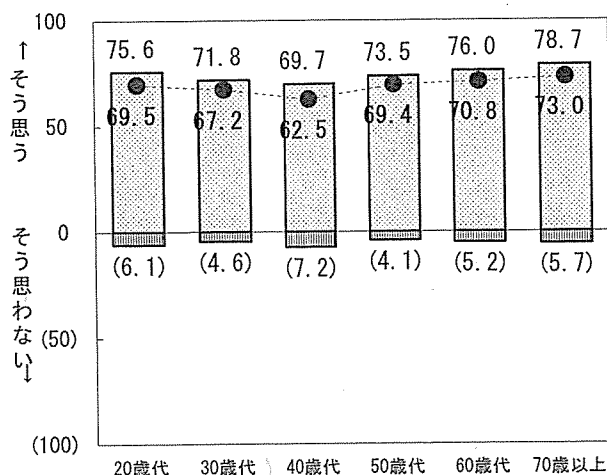


結婚したら自分より家族中心に
生活したほうがよい



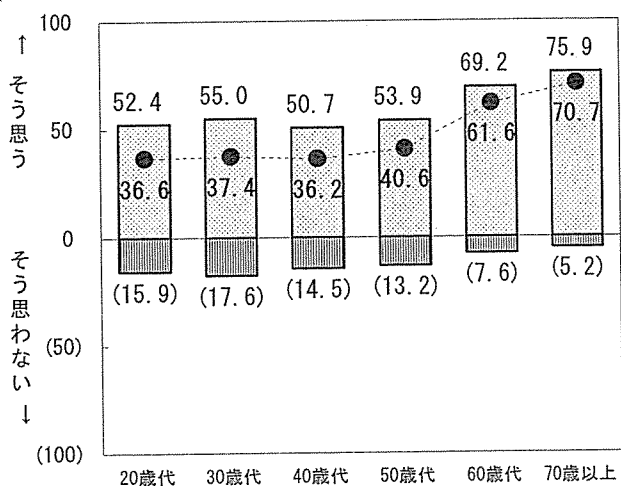
(どちらかといえば) 思う [A]
 (どちらかといえば) 思わない [B]
 [A] - [B]

子どもは個性を重視して
育てたほうがよい

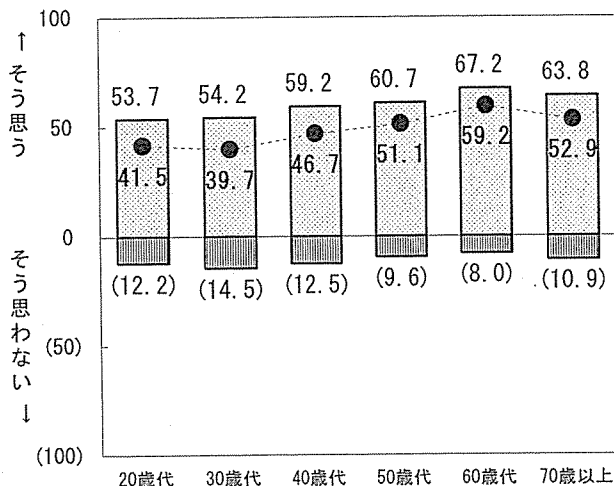


(どちらかといえば) 思う [A]
 (どちらかといえば) 思わない [B]
 [A] - [B]

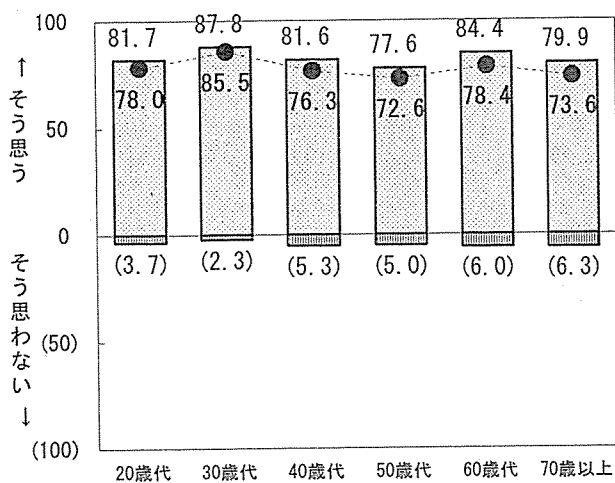
女は女らしく、男は男らしく
育てたほうがよい



男女とも同程度の学歴を
持つほうがよい



男性も家庭の責任を
ともに担うほうがよい

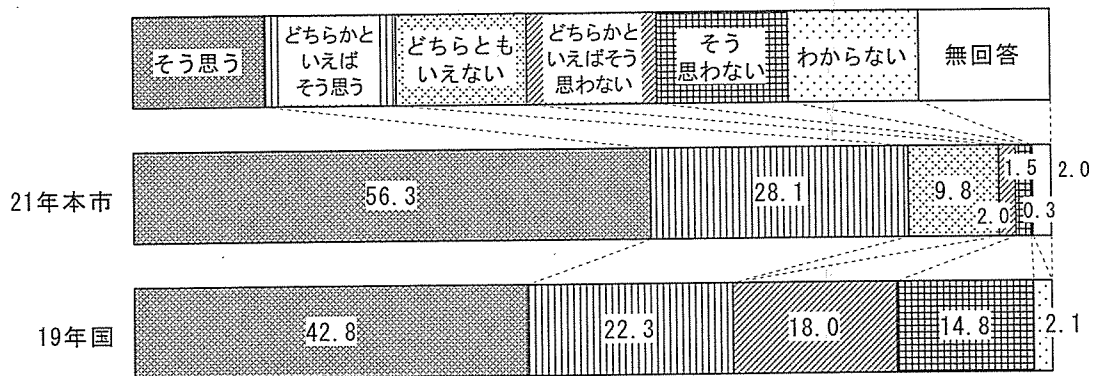


	回答者数	そう思う [A1]	どちらかといえ そう思う [A2]	どちらとも いえない	どちらかといえ ばそう思う [B1]	そう思わ ない [B2]	わからない	無回答	[A1+A2]- [B1+B2]
結婚は個人の自由であると思う									
合計	1,017	56.3	28.1	9.8	2.0	1.5	0.3	2.0	81.0
20歳代	82	62.2	20.7	11.0	2.4	2.4	1.2	0.0	78.0
30歳代	131	72.5	19.1	6.9	0.8	0.0	0.0	0.8	90.8
40歳代	152	54.6	29.6	11.8	2.0	0.7	0.0	1.3	81.6
50歳代	219	63.0	25.6	6.4	2.3	0.0	0.0	2.7	86.3
60歳代	250	48.0	35.6	10.8	1.2	2.4	0.8	1.2	80.0
70歳以上	174	46.6	30.5	12.1	3.4	3.4	0.0	4.0	70.1
精神的にも経済的にも安定するから結婚したほうがよいと思う									
合計	1,017	26.5	26.5	31.2	2.7	9.1	1.5	2.7	41.1
20歳代	82	23.2	24.4	34.1	7.3	11.0	0.0	0.0	29.3
30歳代	131	10.7	25.2	40.5	2.3	19.1	1.5	0.8	14.5
40歳代	152	20.4	27.0	33.6	4.6	9.9	2.0	2.6	32.9
50歳代	219	26.0	27.4	31.5	1.8	8.2	1.4	3.7	43.4
60歳代	250	31.6	30.8	26.0	2.4	6.4	1.2	1.6	53.6
70歳以上	174	39.7	21.8	24.7	0.6	5.7	2.3	5.2	55.2
結婚しても、うまくいかなければ、離婚しても仕方がないと思う									
合計	1,017	32.6	26.8	20.6	7.7	8.3	2.2	1.9	43.6
20歳代	82	34.1	26.8	17.1	11.0	8.5	2.4	0.0	41.5
30歳代	131	40.5	25.2	16.8	6.9	7.6	2.3	0.8	51.1
40歳代	152	28.9	28.9	26.3	7.2	5.9	0.7	2.0	44.7
50歳代	219	35.2	25.6	21.9	5.0	7.3	1.8	3.2	48.4
60歳代	250	28.8	29.2	22.4	8.0	9.2	2.0	0.4	40.8
70歳以上	174	31.6	24.7	16.7	9.2	10.3	4.0	3.4	36.8
結婚しても、子どもを持つことにこだわる必要がないと思う									
合計	1,017	22.0	16.9	23.8	14.3	18.1	2.4	2.6	6.6
20歳代	82	30.5	9.8	23.2	17.1	17.1	2.4	0.0	6.1
30歳代	131	24.4	20.6	27.5	11.5	13.0	1.5	1.5	20.6
40歳代	152	22.4	24.3	31.6	10.5	9.2	0.7	1.3	27.0
50歳代	219	26.9	14.2	21.5	15.1	16.0	2.7	3.7	10.0
60歳代	250	15.6	16.4	24.0	14.8	25.6	2.0	1.6	-8.4
70歳以上	174	17.8	16.1	16.7	17.2	23.0	4.0	5.2	-6.3
結婚したら自分自身のことより、配偶者や子どもなど家族のことを中心に考えて生活したほうがよいと思う									
合計	1,017	28.6	33.9	23.2	5.7	5.5	1.0	2.1	51.3
20歳代	82	34.1	29.3	25.6	6.1	4.9	0.0	0.0	52.4
30歳代	131	26.7	29.8	28.2	9.2	4.6	0.8	0.8	42.7
40歳代	152	17.1	32.2	34.2	7.2	7.9	0.0	1.3	34.2
50歳代	219	24.2	35.2	24.2	5.5	5.0	2.3	3.7	48.9
60歳代	250	31.2	36.0	20.8	4.8	5.6	0.8	0.8	56.8
70歳以上	174	40.8	35.6	11.5	3.4	4.0	1.1	3.4	69.0
子どもは、個性を重視して育てたほうがよいと思う									
合計	1,017	38.2	36.0	16.0	2.3	3.1	2.5	2.0	68.7
20歳代	82	41.5	34.1	15.9	1.2	4.9	2.4	0.0	69.5
30歳代	131	30.5	41.2	22.1	1.5	3.1	0.8	0.8	67.2
40歳代	152	31.6	38.2	19.7	3.9	3.3	2.0	1.3	62.5
50歳代	219	36.5	37.0	16.4	1.8	2.3	1.8	4.1	69.4
60歳代	250	40.4	35.6	14.8	2.4	2.8	2.8	1.2	70.8
70歳以上	174	48.3	30.5	8.6	2.3	3.4	4.6	2.3	73.0
女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てたほうがよいと思う									
合計	1,017	32.1	28.8	24.6	2.8	8.6	1.5	1.8	49.6
20歳代	82	23.2	29.3	31.7	6.1	9.8	0.0	0.0	36.6
30歳代	131	24.4	30.5	26.0	2.3	15.3	0.8	0.8	37.4
40歳代	152	17.1	33.6	32.2	3.3	11.2	1.3	1.3	36.2
50歳代	219	27.4	26.5	27.9	4.1	9.1	2.3	2.7	40.6
60歳代	250	39.2	30.0	20.8	1.6	6.0	1.6	0.8	61.6
70歳以上	174	51.7	24.1	14.4	1.1	4.0	1.1	3.4	70.7
女性も男性も同じ程度の学歴を持つほうがよいと思う									
合計	1,017	35.6	25.5	24.5	4.3	6.3	1.9	2.0	50.4
20歳代	82	23.2	30.5	31.7	4.9	7.3	2.4	0.0	41.5
30歳代	131	35.1	19.1	27.5	6.9	7.6	1.5	2.3	39.7
40歳代	152	30.3	28.9	25.0	4.6	7.9	2.0	1.3	46.7
50歳代	219	38.4	22.4	24.7	4.1	5.5	1.8	3.2	51.1
60歳代	250	38.4	28.8	22.8	3.6	4.4	1.2	0.8	59.2
70歳以上	174	39.1	24.7	19.5	3.4	7.5	2.9	2.9	52.9
男性も家事や子育てなど、家庭の責任をともに担うほうがよいと思う									
合計	1,017	43.6	38.3	10.2	2.7	2.4	1.3	1.6	76.9
20歳代	82	51.2	30.5	12.2	1.2	2.4	2.4	0.0	78.0
30歳代	131	48.1	39.7	8.4	0.0	2.3	0.8	0.8	85.5
40歳代	152	43.4	38.2	11.2	2.6	2.6	0.7	1.3	76.3
50歳代	219	41.1	36.5	13.2	4.1	0.9	1.4	2.7	72.6
60歳代	250	42.8	41.6	8.4	2.4	3.6	0.4	0.8	78.4
70歳以上	174	41.4	38.5	8.6	4.0	2.3	2.9	2.3	73.6

【19年国調査との比較】

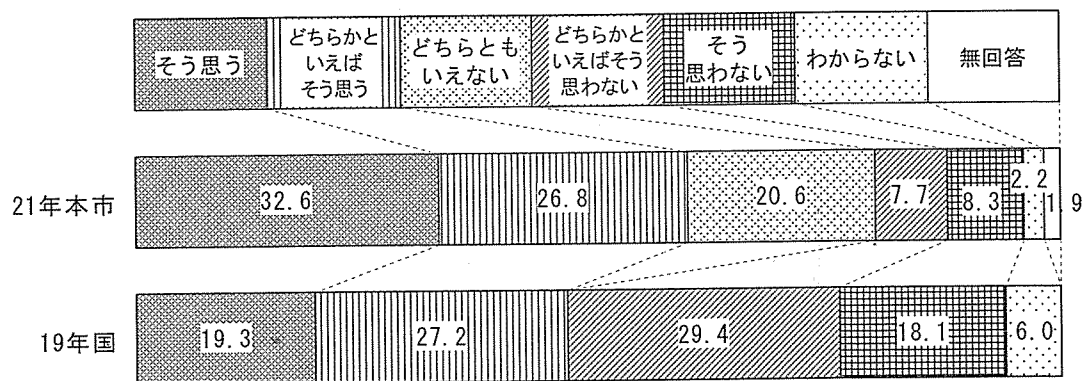
19年国調査と比較可能な項目「結婚は個人の自由であると思う」「結婚しても、うまくいかなければ、離婚しても仕方がないと思う」「結婚しても、子どもを持つことにこだわる必要はないと思う」についてみると、全ての項目において「そう思う」の割合は今治市の調査結果のほうが高くなっています。また、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計したものについても、全ての項目において今治市の調査結果のほうが19年国調査よりも高くなっています。

結婚は個人の自由である（全国調査比）



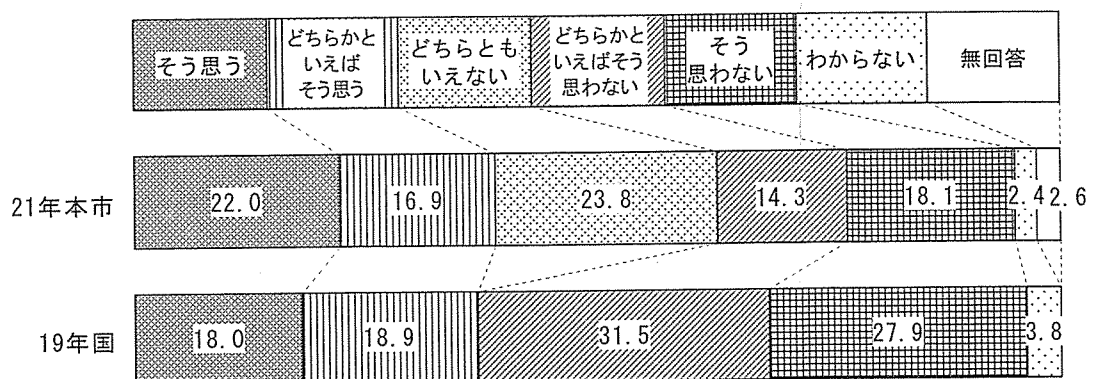
注) 19年国調査では「どちらともいえない」の選択肢なし

結婚がうまくいかなければ離婚しても仕方がない（全国調査比）



注) 19年国調査では「どちらともいえない」の選択肢なし

結婚しても子どもをもつことにこだわる必要はない（全国調査比）



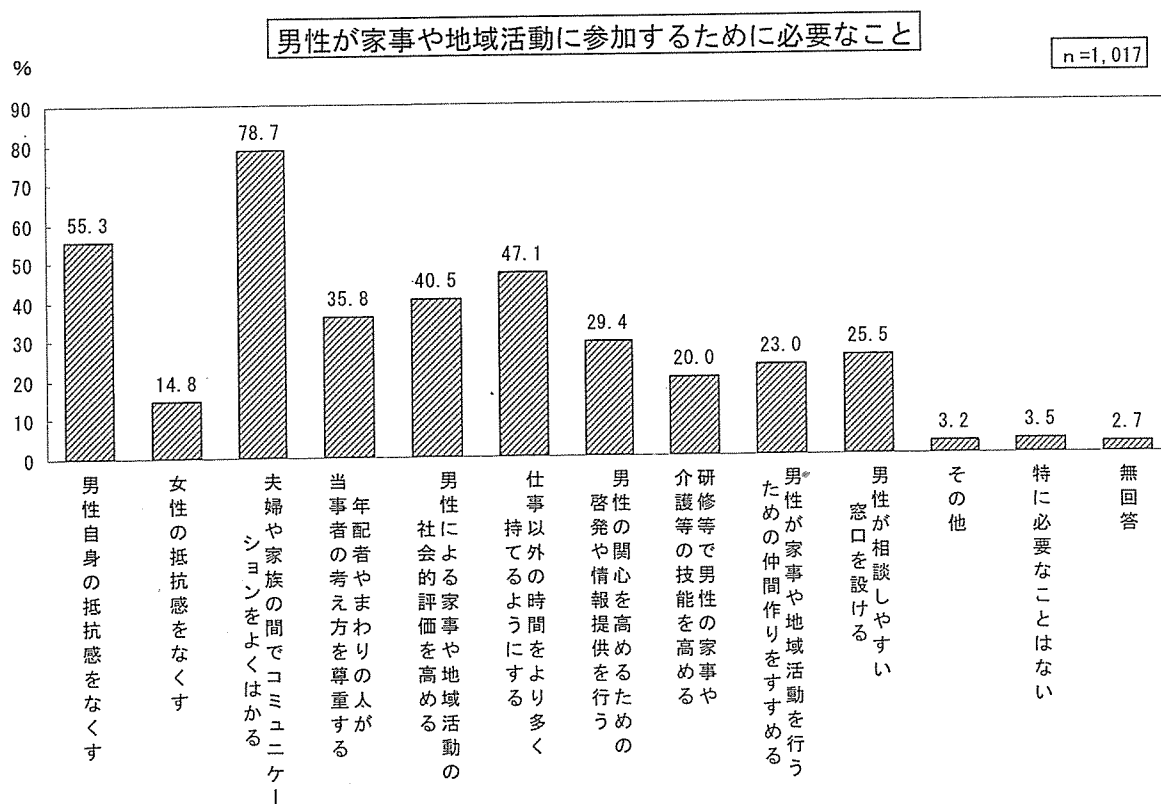
注) 19年国調査では「どちらともいえない」の選択肢なし

Ⅳ 生活と社会活動について

(1) 男性の社会活動参加に必要なこと

男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要かと聞いたところ、「夫婦や家族の間でコミュニケーションをよくはかること」という答えた方が 78.7%と最も高く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」55.3%、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」47.1%、「男性による家事、子育て、介護、地域活動について、その社会的評価を高めること」40.5%となっています。

一方、「男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと」14.8%、「国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること」20.0%、「男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）作りをすすめること」23.0%、「家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること」25.5%、「男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるための啓発や情報提供を行うこと」29.4%、などはあまり高くありません。



問5 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、
どのようなことが必要だと思いますか。

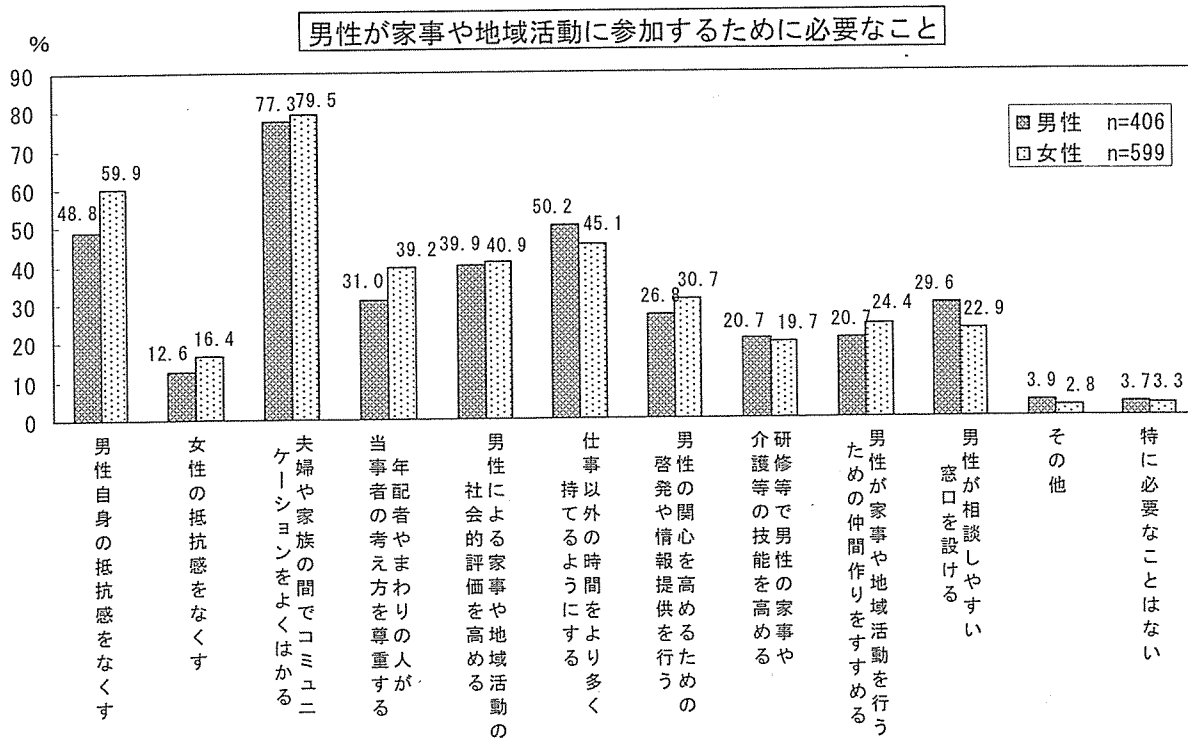
	実数 (人)	割合 (%)
1 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	562	55.3
2 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	151	14.8
3 夫婦や家族の間でコミュニケーションをよくはかること	800	78.7
4 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること	364	35.8
5 男性による家事、子育て、介護、地域活動について、その社会的評価を高めること	412	40.5
6 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	479	47.1
7 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるための啓発や情報提供を行うこと	299	29.4
8 国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること	203	20.0
9 男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）作りをすすめること	234	23.0
10 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること	259	25.5
11 その他	33	3.2
12 特に必要なことはない	36	3.5
無回答	27	2.7
回答者数	1,017	100.0

【男女別・年齢別】

性別にみると、男女間で回答割合に比較的差がある項目は、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」（女性 59.9%、男性 48.8%で女性が 11.1ポイント高）、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」（女性 39.2%、男性 31.0%で女性が 8.2ポイント高）などです。

一方、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」（男性 50.2%、女性 45.1%で男性が 5.1ポイント高）、「家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること」（男性 29.6%、女性 22.9%で男性が 6.7ポイント高）といった項目では、男性の回答割合が女性のそれを上回っています。

年齢別にみると、どの項目も年代による差はほとんどみられません。



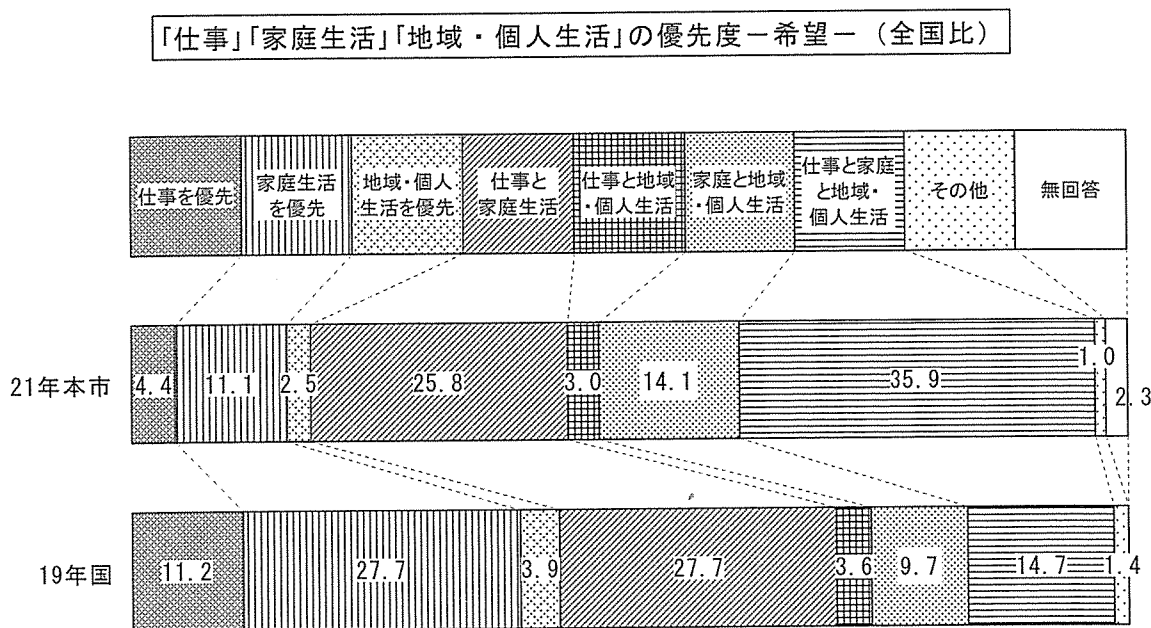
	合計 1,017	男性 406	女性 599	20歳代 82	30歳代 131	40歳代 152	50歳代 219	60歳代 250	70歳以上 174
男性自身の抵抗感をなくすこと	55.3	48.8	59.9	46.3	57.3	57.2	53.9	58.4	54.0
女性の抵抗感をなくすこと	14.8	12.6	16.4	12.2	16.0	9.9	14.2	16.8	17.8
夫婦や家族間でコミュニケーションをよくはかること	78.7	77.3	79.5	76.8	78.6	75.7	76.3	82.8	79.3
年配者やまわりの人が当事者の考え方を尊重すること	35.8	31.0	39.2	24.4	32.1	34.9	34.2	36.0	47.1
男性による家事や地域活動の社会的評価を高めること	40.5	39.9	40.9	43.9	48.9	49.3	35.6	38.0	34.5
仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	47.1	50.2	45.1	53.7	59.5	40.1	49.3	50.0	33.9
男性の関心を高めるための啓発や情報提供を行うこと	29.4	26.8	30.7	18.3	25.2	25.7	31.5	34.0	30.5
研修等で男性の家事や介護等の技能を高めること	20.0	20.7	19.7	18.3	5.3	20.4	15.5	26.8	27.6
男性が家事や地域活動を行うための仲間作りをすすめること	23.0	20.7	24.4	30.5	18.3	18.4	21.9	26.8	22.4
男性が相談しやすい窓口を設けること	25.5	29.6	22.9	25.6	22.9	20.4	26.0	30.0	25.3
その他	3.2	3.9	2.8	3.7	5.3	3.3	4.1	1.6	2.9
特に必要なことはない	3.5	3.7	3.3	3.7	3.1	5.9	0.9	3.6	5.2
無回答	2.7	3.2	2.2	0.0	0.8	1.3	4.6	2.4	4.0

(2) 生活の優先度（希望）について

生活の中における「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について、希望に最も近いものを選んでもらったところ、『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をすべて大切にしたいが35.9%で最も多く、次いで『仕事』と『家庭生活』をともに優先したいが25.8%となっています。

【19年国調査との比較】

19年国調査と今治市の今回の調査結果を比較すると、『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をすべて大切にしたいと希望する人の割合は19年国調査より21.2ポイント、『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したいは4.4ポイント高く、一方『仕事』を優先したいは6.8ポイント、『家庭生活』を優先したいは16.6ポイント低くなっています。



注) 19年国調査で「わからない」と回答した割合は「その他」に読み替えている

問6 生活の中における「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」※の優先度について、あなたの希望に最も近いものを1つ選んでください。

※「地域・個人の生活」とは 地域・社会活動（ボランティア活動、社会参加活動、交際・つきあいなど）、学習・研究（学業も含む）、趣味・娯楽、スポーツなどをいいます。

	21年今治市		19年国調査
	実数 (人)	割合 (%)	割合 (%)
1 「仕事」を優先したい	45	4.4	11.2
2 「家庭生活」を優先したい	113	11.1	27.7
3 「地域・個人の生活」を優先したい	25	2.5	3.9
4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	262	25.8	27.7
5 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	31	3.0	3.6
6 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	143	14.1	9.7
7 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべて大切にしたい	365	35.9	14.7
8 その他	10	1.0	1.4
無回答	23	2.3	
合計	1,017	100.0	100.0

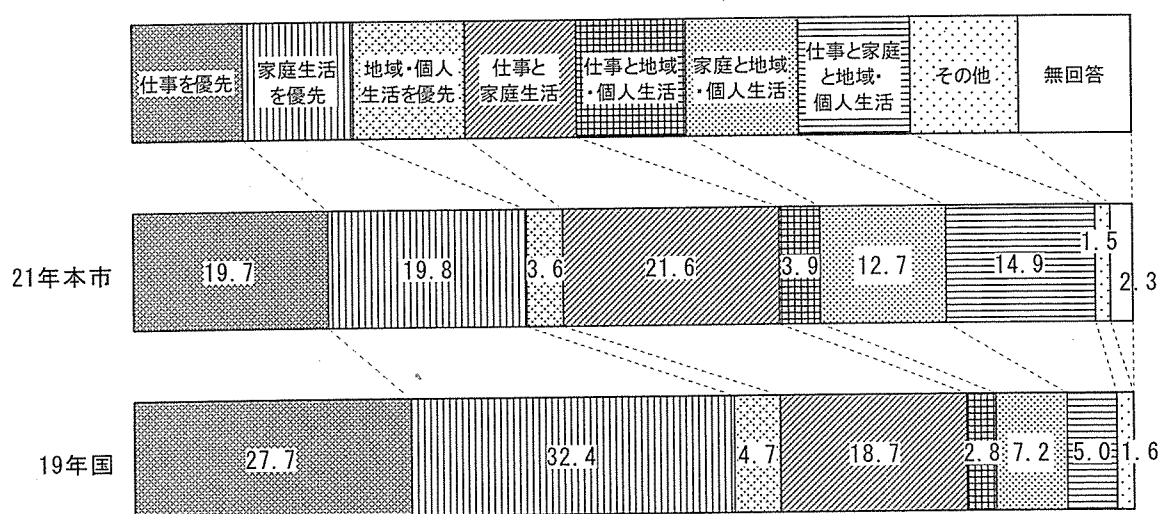
(3) 生活の優先度（現状）について

生活の中における「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について、現実（現状）に最も近いものを、選んでもらったところ、『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が21.6%、『家庭生活』を優先している」が19.8%、『仕事』を優先している」が19.7%『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をすべて大切にしている」が14.9%となっています。

【19年国調査との比較】

19年国調査と今治市の今回の調査結果を比較すると、『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をすべて大切にしている」と答えた方の割合は19年国調査より9.9ポイント、『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先している」は5.5ポイント高く、一方『仕事』を優先している」は8.0ポイント、『家庭生活』を優先している」は12.6ポイント低くなっています。

「仕事」「家庭生活」「地域・個人生活」の優先度－現状－（全国比）



注) 19年国調査で「わからない」と回答した割合は「その他」に読み替えている

問7 生活の中における「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について、あなたの現実（現状）に最も近いものを1つ選んでください。

	21年今治市		19年国調査
	実数 (人)	割合 (%)	割合 (%)
1 「仕事」を優先している	200	19.7	27.7
2 「家庭生活」を優先している	201	19.8	32.4
3 「地域・個人の生活」を優先している	37	3.6	4.7
4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	220	21.6	18.7
5 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	40	3.9	2.8
6 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	129	12.7	7.2
7 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべて大切にしている	152	14.9	5.0
8 その他	15	1.5	1.6
無回答	23	2.3	
合計	1,017	100.0	100.0

(4) 生活の優先度の希望と現実（現状）の比較について

最も希望が多かった『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』のすべてを大切にしたい」と答えた方のうち現実（現状）として『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』のすべてを大切にしている」と答えた方は33.7%、それに対し『仕事』を優先」を現実（現状）として答えた方は16.4%となっています。

また、『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」と答えた方のうち現実（現状）として『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」と答えた方は43.5%、それに対し『仕事』を優先している」を現実（現状）として答えた方は24.0%となっています。

問6 希望	問7 現実(現状)	「仕事」を優先 している	「家庭生活」を 優先している	「地域・個人の 生活」を優先し ている	「仕事」と「家庭 生活」をともに 優先している	「仕事」と「地 域・個人の生 活」をともに優 先している	「家庭生活」と 「地域・個人の 生活」をともに 優先している	「仕事」と「家庭 生活」と「地 域・個人の生 活」をすべて大 切にしている
「仕事」を優先したい		71.1	6.7	0.0	11.1	2.2	2.2	6.7
「家庭生活」を優先したい		11.5	61.1	1.8	17.7	1.8	2.7	1.8
「地域・個人の生活」を優先したい		24.0	20.0	44.0	4.0	0.0	8.0	0.0
「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい		24.0	16.0	2.3	43.5	2.3	6.1	3.4
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい		38.7	9.7	3.2	12.9	22.6	3.2	6.5
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい		6.3	23.8	4.9	11.9	2.8	42.0	8.4
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべて大切にしたい		16.4	11.8	2.7	16.2	5.5	12.3	33.7

V 仕事と家庭について

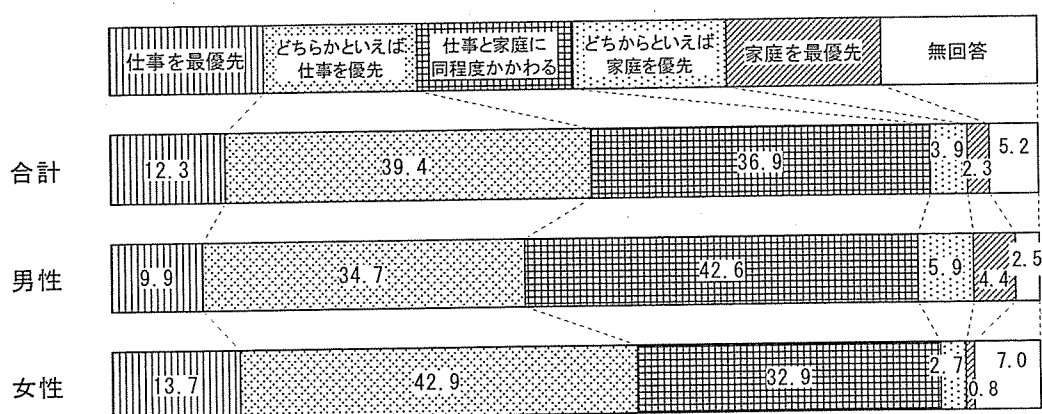
男性、女性それぞれの仕事と家庭の関わり方は、どのような形が好ましいと思うか、男性の関わり方と女性の関わり方と分けて聞いたところ、好ましいと思う関わり方は男性と女性によって違っていました。

(1) 男性の関わり方について

「どちらかといえば仕事を優先する」が39.4%、「仕事と家庭に同程度かかわる」が36.9%、「仕事を最優先する」が12.3%となっています。

これを性別にみると、男性では「仕事と家庭に同程度かかわる」42.6%が最も高くなっているのに対し、女性では「どちらかといえば仕事を優先する」42.9%となっています。また、「仕事を最優先する」は、男性9.9%、女性13.7%と、女性のほうが3.8ポイント高くなっています。

男性の仕事と家庭へのかかわり方



問8 (1) 男性の、仕事と家庭への関わり方は、どのような形が好ましいと思いますか。

	実数 (人)	割合 (%)
1 仕事を最優先する	125	12.3
2 どちらかといえば仕事を優先する	401	39.4
3 仕事と家庭に同程度かかわる	375	36.9
4 どちらかといえば家庭を優先する	40	3.9
5 家庭を最優先する	23	2.3
無回答	53	5.2
合計	1,017	100.0

性別にみた状況

男性

	実数 (人)	割合 (%)
1 仕事を最優先する	40	9.9
2 どちらかといえば仕事を優先する	141	34.7
3 仕事と家庭に同程度かかわる	173	42.6
4 どちらかといえば家庭を優先する	24	5.9
5 家庭を最優先する	18	4.4
無回答	10	2.5
合計	406	100.0

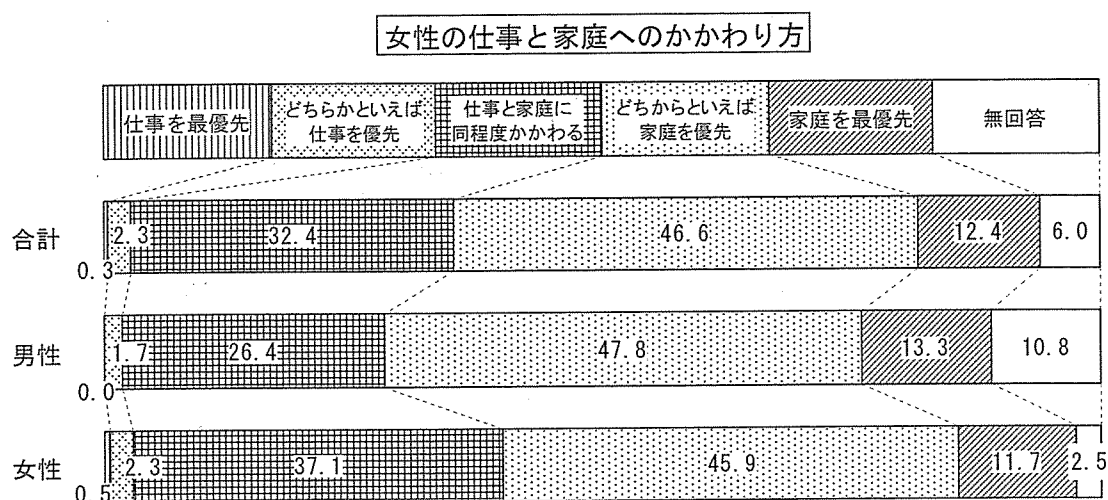
女性

	実数 (人)	割合 (%)
1 仕事を最優先する	82	13.7
2 どちらかといえば仕事を優先する	257	42.9
3 仕事と家庭に同程度かかわる	197	32.9
4 どちらかといえば家庭を優先する	16	2.7
5 家庭を最優先する	5	0.8
無回答	42	7.0
合計	599	100.0

(2) 女性の関わり方について

「どちらかといえば家庭を優先する」46.6%、「仕事と家庭に同程度かかわる」32.4%、「家庭を最優先する」12.4%、「どちらかといえば仕事を優先する」2.3%、「仕事を最優先する」0.3%となっています。

これを性別にみると「どちらかといえば家庭を優先する」は男性 47.8%、女性 45.9%で男性のほうが1.9ポイント高く、「仕事と家庭に同程度かかわる」は男性 26.4%、女性 37.1%で女性のほうが10.7ポイント高く、「家庭を最優先する」は男性 13.3%、女性 11.7%で男性のほうが1.6ポイント高くなっています。また、「仕事を最優先する」を選択した男性はいません。



問8 (2) 女性の、仕事と家庭への関わり方は、どのような形が好ましいと思いますか。

	実数 (人)	割合 (%)
1 仕事を最優先する	3	0.3
2 どちらかといえば仕事を優先する	23	2.3
3 仕事と家庭に同程度かかわる	330	32.4
4 どちらかといえば家庭を優先する	474	46.6
5 家庭を最優先する	126	12.4
無回答	61	6.0
合計	1,017	100.0

性別にみた状況

男性

1 仕事を最優先する	0	0.0
2 どちらかといえば仕事を優先する	7	1.7
3 仕事と家庭に同程度かかわる	107	26.4
4 どちらかといえば家庭を優先する	194	47.8
5 家庭を最優先する	54	13.3
無回答	44	10.8
合計	406	100.0

女性

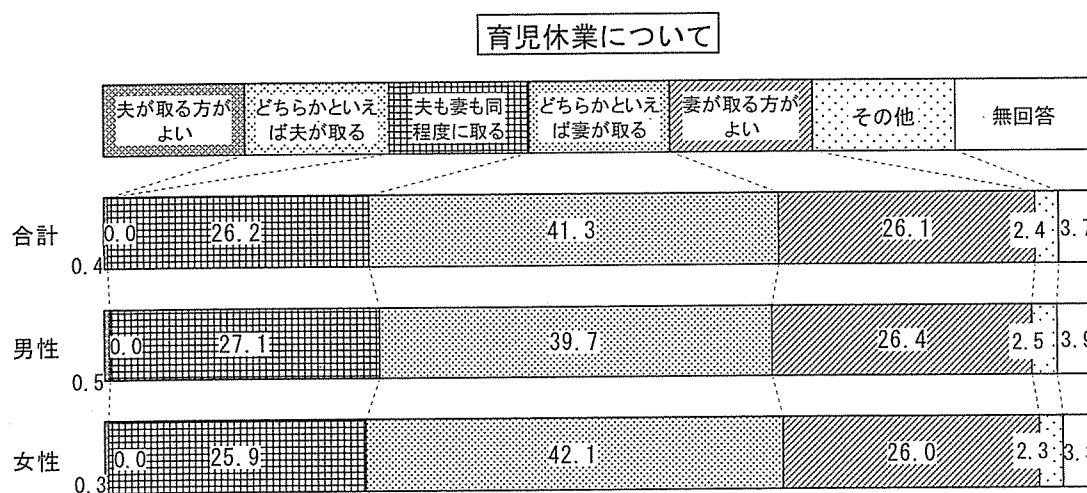
1 仕事を最優先する	3	0.5
2 どちらかといえば仕事を優先する	14	2.3
3 仕事と家庭に同程度かかわる	222	37.1
4 どちらかといえば家庭を優先する	275	45.9
5 家庭を最優先する	70	11.7
無回答	15	2.5
合計	599	100.0

VI 育児休業・介護休業について

(1) 育児休業について

家庭で育児が必要なとき、ともに勤めのある夫婦が育児休業を取るとしたら、どうするのがよいと思うか聞いたところ、「どちらかといえば妻が取る方がよい」41.3%、「夫も妻も同程度に取るのがよい」26.2%、「妻が取る方がよい」26.1%、「夫が取る方がよい」0.4%で、「どちらかといえば夫が取る方がよい」と答えた方はいません。

これを性別にみると「どちらかといえば妻が取る方がよい」は男性39.7%、女性42.1%で女性のほうが2.4ポイント高く、「夫も妻も同程度に取るのがよい」は男性27.1%、女性25.9%で男性のほうが1.2ポイント高く、「妻が取る方がよい」は男性26.4%、女性26.0%で男性のほうが0.4ポイント高くなっています。



問9 (1) ともに勤めのある夫婦が育児休業を取るとしたら、
どうするのがよいと思いますか。

	実数 (人)	割合 (%)
1 夫が取る方がよい	4	0.4
2 どちらかといえば夫が取る方がよい	0	0.0
3 夫も妻も同程度に取るのがよい	266	26.2
4 どちらかといえば妻が取る方がよい	420	41.3
5 妻が取る方がよい	265	26.1
6 その他	24	2.4
無回答	38	3.7
合計	1,017	100.0

性別にみた状況

男性

1 夫が取る方がよい	2	0.5
2 どちらかといえば夫が取る方がよい	0	0.0
3 夫も妻も同程度に取るのがよい	110	27.1
4 どちらかといえば妻が取る方がよい	161	39.7
5 妻が取る方がよい	107	26.4
6 その他	10	2.5
無回答	16	3.9
合計	406	100.0

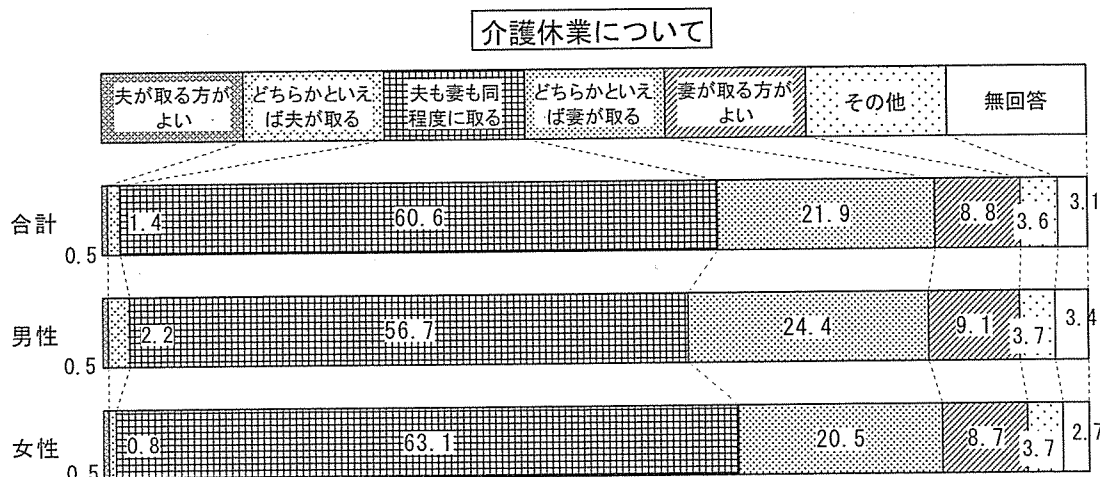
女性

1 夫が取る方がよい	2	0.3
2 どちらかといえば夫が取る方がよい	0	0.0
3 夫も妻も同程度に取るのがよい	155	25.9
4 どちらかといえば妻が取る方がよい	252	42.1
5 妻が取る方がよい	156	26.0
6 その他	14	2.3
無回答	20	3.3
合計	599	100.0

(2) 介護休業について

家庭で介護が必要なとき、ともに勤めのある夫婦が介護休業を取るとしたら、どうするのがよいと思うか聞いたところ、「夫も妻も同程度に取るのがよい」60.6%、「どちらかといえば妻が取る方がよい」21.9%、「妻が取る方がよい」8.8%、「どちらかといえば夫が取る方がよい」1.4%、「夫が取る方がよい」0.5%となっています。

これを性別にみると「夫も妻も同程度に取るのがよい」は男性56.7%、女性63.1%で女性のほうが6.4ポイント高く、「どちらかといえば妻が取る方がよい」は男性24.4%、女性20.5%で男性のほうが3.9ポイント高く、「妻が取る方がよい」は男性9.1%、女性8.7%で男性のほうが0.4ポイント高く、「どちらかといえば夫が取る方がよい」は男性2.2%、女性0.8%で男性のほうが1.4ポイント高くなっていました。「夫が取る方がよい」は男性、女性とも0.5%となっています。



問9 (2) ともに勤めのある夫婦が介護休業を取るとしたら、
どうするのがよいと思いますか。

	実数 (人)	割合 (%)
1 夫が取る方がよい	5	0.5
2 どちらかといえば夫が取る方がよい	14	1.4
3 夫も妻も同程度に取るのがよい	616	60.6
4 どちらかといえば妻が取る方がよい	223	21.9
5 妻が取る方がよい	90	8.8
6 その他	37	3.6
無回答	32	3.1
合計	1,017	100.0

性別にみた状況

男性

1 夫が取る方がよい	2	0.5
2 どちらかといえば夫が取る方がよい	9	2.2
3 夫も妻も同程度に取るのがよい	230	56.7
4 どちらかといえば妻が取る方がよい	99	24.4
5 妻が取る方がよい	37	9.1
6 その他	15	3.7
無回答	14	3.4
合計	406	100.0

女性

1 夫が取る方がよい	3	0.5
2 どちらかといえば夫が取る方がよい	5	0.8
3 夫も妻も同程度に取るのがよい	378	63.1
4 どちらかといえば妻が取る方がよい	123	20.5
5 妻が取る方がよい	52	8.7
6 その他	22	3.7
無回答	16	2.7
合計	599	100.0

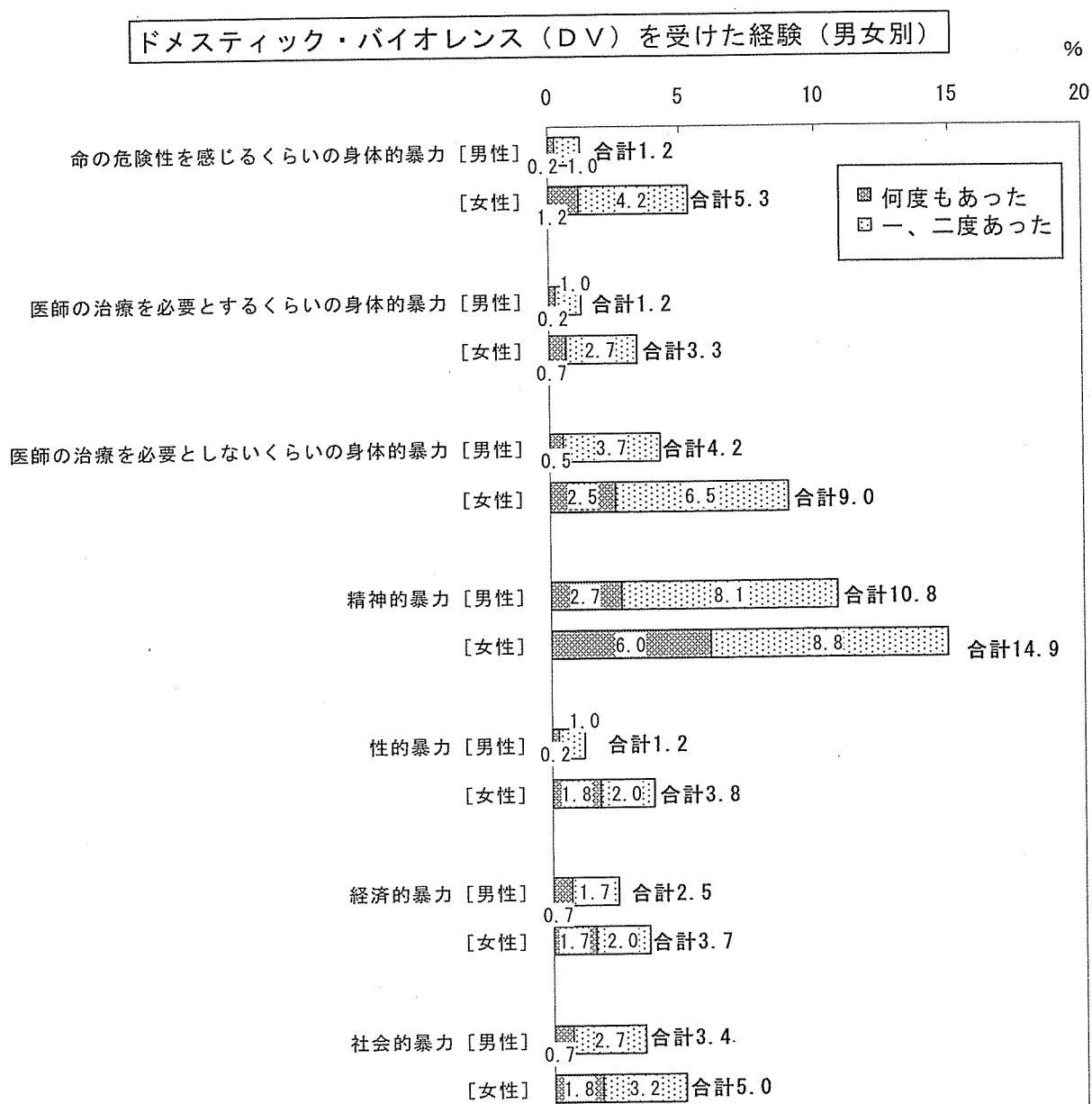
VII ドメスティック・バイオレンス（DV）について

（１）被害の状況について

配偶者や恋人などからの暴力についての経験を聞いたところ、「精神的暴力（おどす、無視する、人格を否定する言葉を使う、交友関係や行動を監視するなど）を受けた」と答えた方は、「何度もあった」「一、二度あった」を合わせると13.3%にのぼり、調査した7項目の中で経験したことのある割合が最も高くなっています。女性の14.9%、男性の10.8%が「精神的暴力を受けた」と答えています。

2番目に多かったのは「医師の治療を必要としないくらいの身体的暴力（なぐる、けるなど）を受けた」で、回答者の7.2%（女性の9.0%、男性の4.2%）が、経験があると答えています。

7項目のDVについて、いずれか1項目でも受けたことが「ある」と答えた方は、全体の18.5%にのぼる188人（女性131人・21.9%、男性55人・13.5%、性別無回答2人）となっています。



問10 配偶者や恋人など[※]からの暴力について、あなた自身の経験を伺います。
 ※婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者や元恋人も含みます。

(1) 命の危険性を感じるくらいの身体的暴力（なぐる、けるなど）を受けた

	実数（人）	割合（%）
1 何度もあった	8	0.8
2 一、二度あった	31	3.0
3 まったくない	843	82.9
4 配偶者や恋人はいない	63	6.2
無回答	72	7.1
合計	1,017	100.0

(2) 医師の治療を必要とするくらいの身体的暴力（なぐる、けるなど）を受けた

1 何度もあった	5	0.5
2 一、二度あった	20	2.0
3 まったくない	857	84.3
4 配偶者や恋人はいない	59	5.8
無回答	76	7.5
合計	1,017	100.0

(3) 医師の治療を必要としないくらいの身体的暴力（なぐる、けるなど）を受けた

1 何度もあった	17	1.7
2 一、二度あった	56	5.5
3 まったくない	813	79.9
4 配偶者や恋人はいない	55	5.4
無回答	76	7.5
合計	1,017	100.0

(4) 精神的暴力（おどす、無視する、人格を否定する言葉を言う、交友関係や行動を監視するなど）を受けた

1 何度もあった	48	4.7
2 一、二度あった	87	8.6
3 まったくない	751	73.8
4 配偶者や恋人はいない	57	5.6
無回答	74	7.3
合計	1,017	100.0

(5) 性的暴力（性行為や中絶を強要する、ポルノ雑誌などを無理に見せる、避妊に協力しないなど）を受けた

1 何度もあった	12	1.2
2 一、二度あった	16	1.6
3 まったくない	854	84.0
4 配偶者や恋人はいない	54	5.3
無回答	81	8.0
合計	1,017	100.0

(6) 経済的暴力（生活費を渡さない、働くことを妨害するなど）を受けた

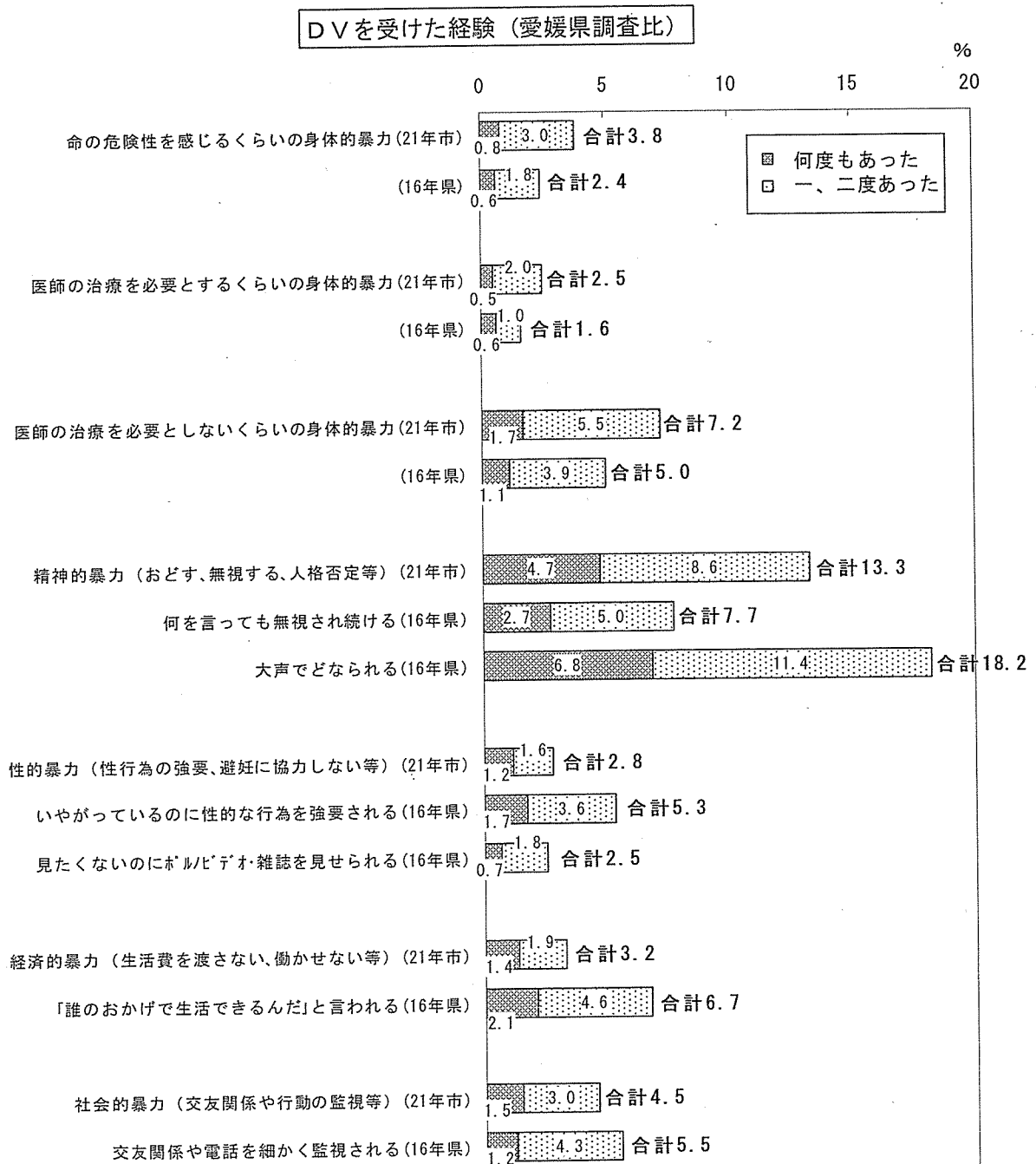
1 何度もあった	14	1.4
2 一、二度あった	19	1.9
3 まったくない	850	83.6
4 配偶者や恋人はいない	55	5.4
無回答	79	7.8
合計	1,017	100.0

(7) 社会的暴力（交友関係や行動を監視するなど）を受けた

1 何度もあった	15	1.5
2 一、二度あった	31	3.0
3 まったくない	836	82.2
4 配偶者や恋人はいない	56	5.5
無回答	79	7.8
合計	1,017	100.0

【16年県調査との比較】

平成16年に愛媛県が実施した「男女共同参画に関する世論調査」における結果と今回の調査結果とを比較すると、「身体的暴力」の各項目で今回の本市調査は16年県調査より若干高い値を示しています。「命の危険性を感じるくらいの身体的暴力」では1.4ポイント、「医師の治療を必要とするくらいの身体的暴力」では0.9ポイント、「医師の治療を必要としないくらいの身体的暴力」では2.2ポイント、それぞれ16年県調査を今回の今治市の結果が上回っています。

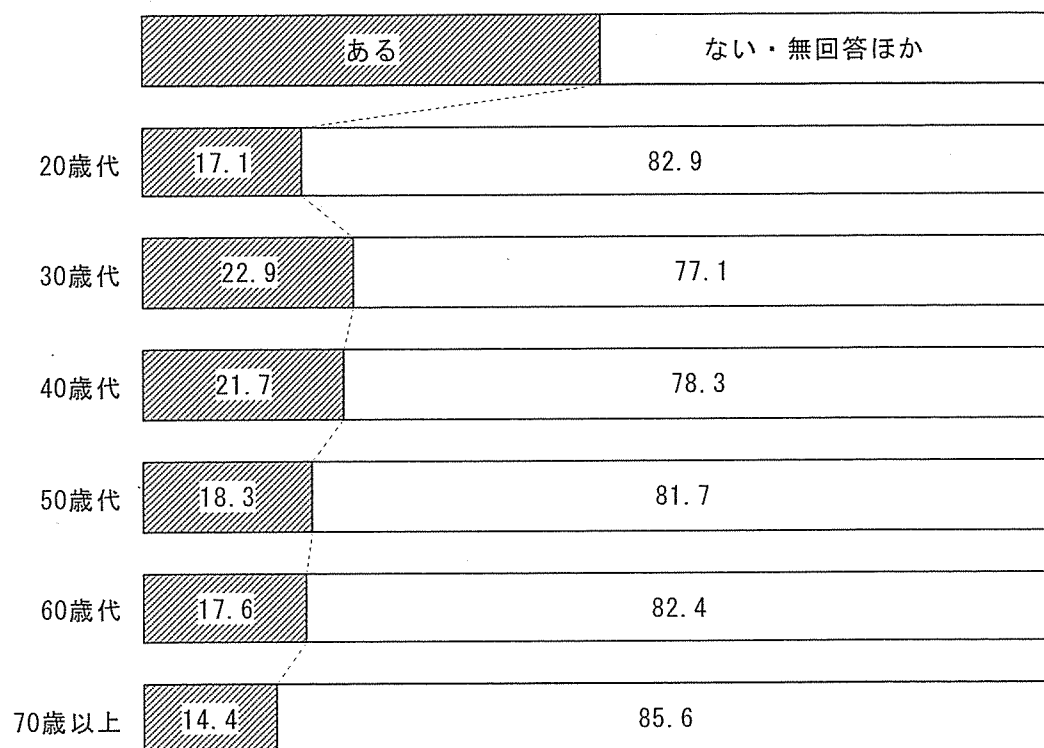


【年齢別・婚姻状況別】

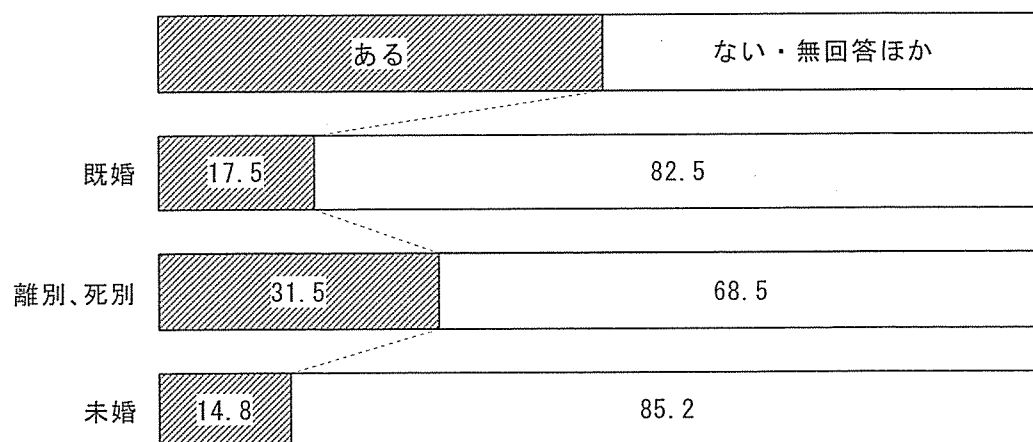
なんらかのDVを受けた方の割合を年齢別にみると、30歳代が22.9%、40歳代が21.7%で、他の年代より若干高くなっています。

また、婚姻状況が「離別・死別」の方において、DVを受けた割合が他より高くなっています。

DVを受けた経験（年齢別）



DVを受けた経験（婚姻状況別）

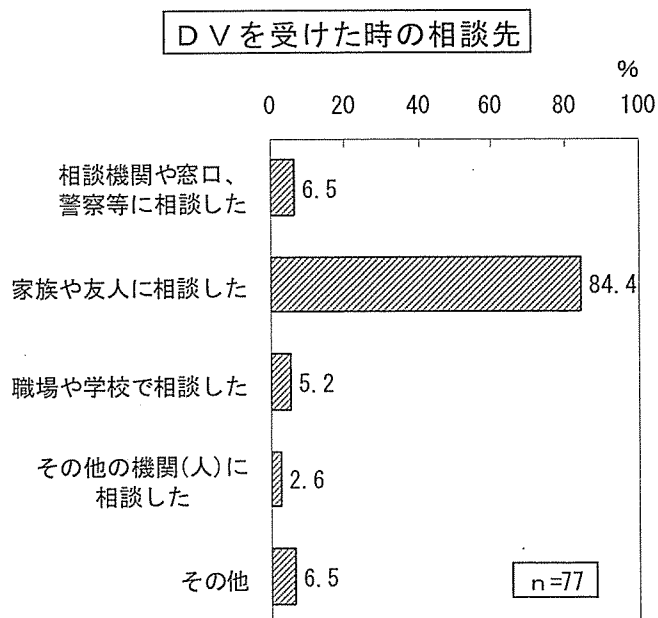
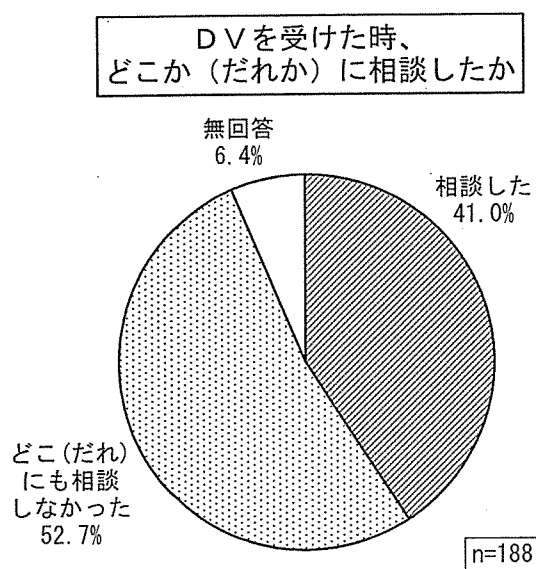


(2) 相談の状況について

DVを受けた方(188人)について、だれかに相談したか聞いたところ、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が52.7%と半数以上を占め、どこか(だれか)に相談したのは41.0%の77人でした。

この77人の相談先としては、「家族や友人に相談した」が84.4%と最も多く、「相談機関や窓口、警察等に相談した」が6.5%、「職場や学校で相談した」が5.2%となっています。

相談先の延べ回答件数は81件で、複数の相談先を答えた方は、「家族や友人に相談した」と他の相談先という組み合わせになっています。



問11 配偶者や恋人などから受けた行為について、だれかに相談しましたか。
(問10で「何度もあった」「一、二度あった」とお答えの方)

	実数 (人)	割合 (%)
1 相談機関や窓口、警察等に相談した	5	6.5
2 家族や友人に相談した	65	84.4
3 職場や学校で相談した	4	5.2
4 その他の機関(人)に相談した	2	2.6
5 その他	5	6.5
どこか(だれか)に相談した回答者 計	77	41.0
6 どこ(だれ)にも相談しなかった	99	52.7
無回答	12	6.4
合計	188	100.0

(3) 相談機関や窓口について

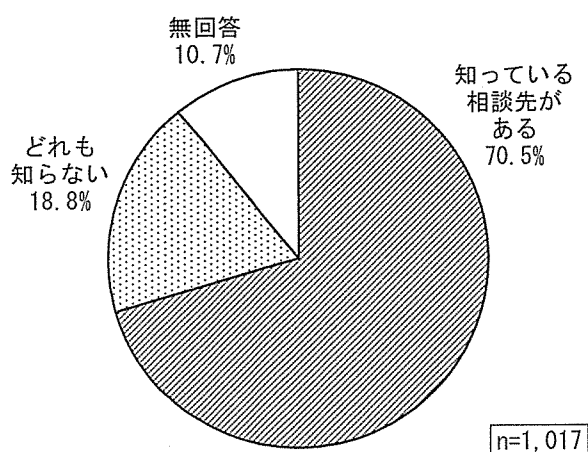
相談機関や窓口を列挙し、知っているものを聞いてみたところ、なんらかの相談先を「知っている」と答えた人は70.5%（717人）でした。

なんらかの相談先を知っていると答えた717人において、認知度が高い順に「警察」85.2%、「地域の相談機関（人権擁護委員、民生児童委員）」45.7%、「弁護士・弁護士会」38.6%、「法務局・人権擁護委員会」25.2%、「愛媛県女性総合センター」15.5%、「愛媛県婦人相談所」13.7%、「今治市の婦人相談員」10.0%となっています。

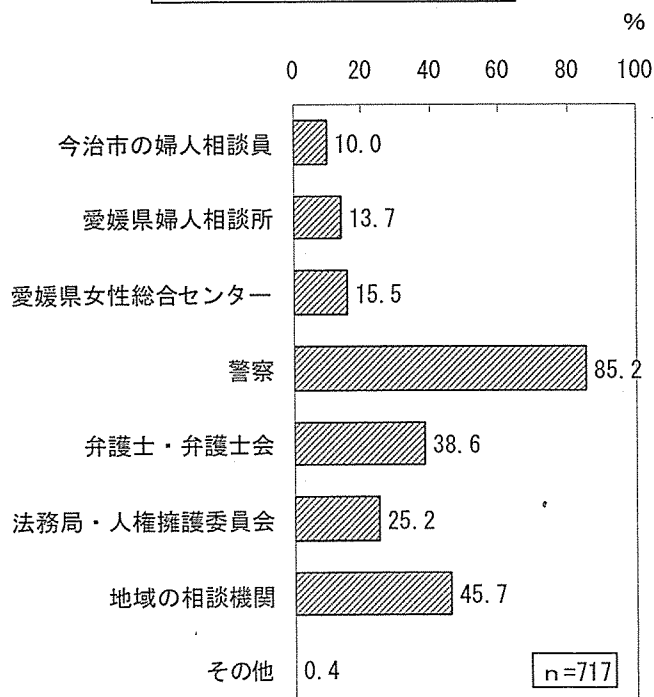
知っている相談先の延べ回答件数は1,681件で、1人当たり平均2.3件をあげています。

また、「どれも知らない」という回答は18.8%（191件）でした。

DVの相談先を知っているか



知っている相談先の内訳



問12 配偶者や恋人などからの暴力の被害に対して、相談機関や窓口が設けられています、ご存知のものはどれですか。

	実数 (人)	割合 (%)
1 今治市の婦人相談員	72	10.0
2 愛媛県婦人相談所（配偶者暴力相談支援センター）	98	13.7
3 愛媛県女性総合センター（配偶者暴力相談支援センター）	111	15.5
4 警察	611	85.2
5 弁護士・弁護士会	277	38.6
6 法務局・人権擁護委員会	181	25.2
7 地域の相談機関（人権擁護委員、民生児童委員）	328	45.7
8 その他	3	0.4
知っているものがある回答者 計	717	70.5
9 どれも知らない	191	18.8
無回答	109	10.7
合計	1,017	100.0

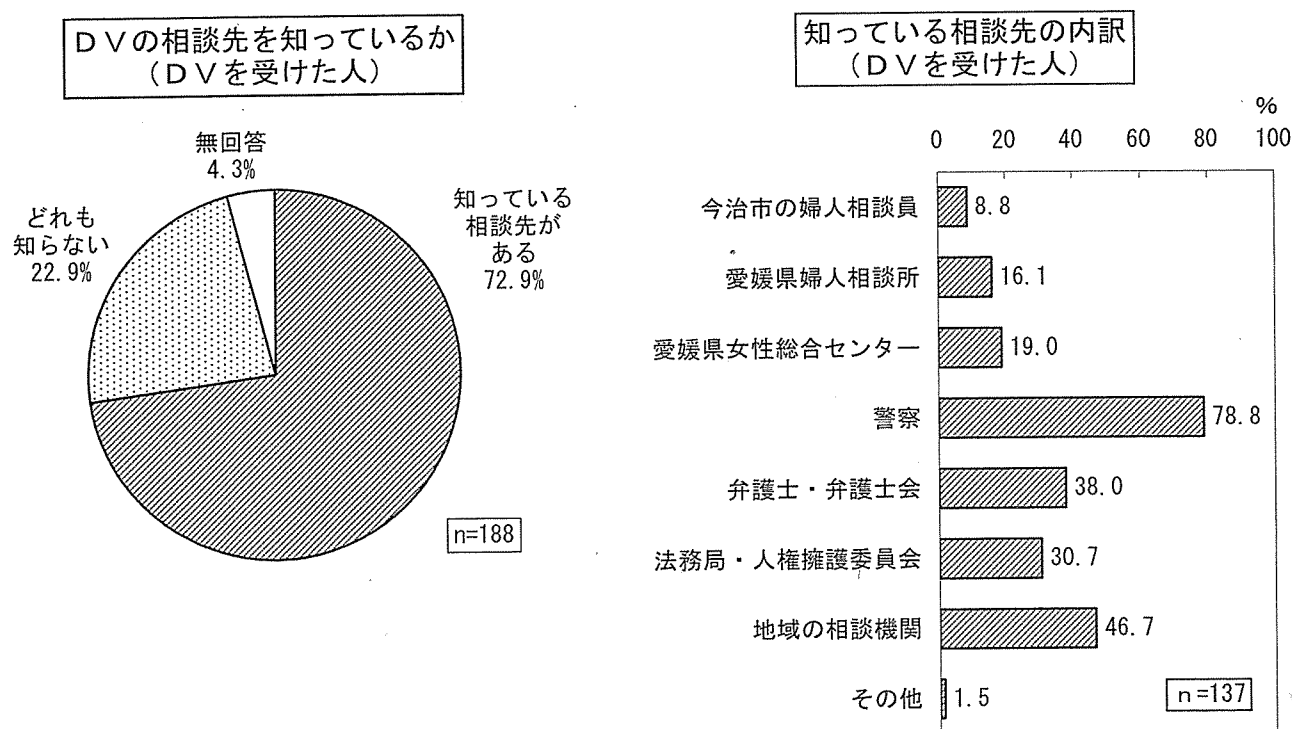
(4) DV被害経験者の状況について

DV被害を受けた経験のある188人についてみると、なんらかの相談先を「知っている」のは72.9%の137人で、全回答者の割合と大きな差はありません。

なんらかの相談先を知っていると答えた137人のうち、認知度が高い順に「警察」78.8%、「地域の相談機関（人権擁護委員、民生児童委員）」46.7%、「弁護士・弁護士会」38.0%、「法務局・人権擁護委員会」30.7%、「愛媛県女性総合センター」19.0%、「愛媛県婦人相談所」16.1%、「今治市の婦人相談員」8.8%となっています。

知っている相談先の延べ回答件数は328件で、1人当たり平均2.4件をあげています。

また、「どれも知らない」という回答は22.9%（43件）ありました。



DV被害経験者の状況		実数 (人)	割合 (%)
1	今治市の婦人相談員	12	8.8
2	愛媛県婦人相談所 (配偶者暴力相談支援センター)	22	16.1
3	愛媛県女性総合センター (配偶者暴力相談支援センター)	26	19.0
4	警察	108	78.8
5	弁護士・弁護士会	52	38.0
6	法務局・人権擁護委員会	42	30.7
7	地域の相談機関 (人権擁護委員、民生児童委員)	64	46.7
8	その他	2	1.5
知っているものがある回答者 計		137	72.9
9	どれも知らない	43	22.9
	無回答	8	4.3
	合計	188	100.0

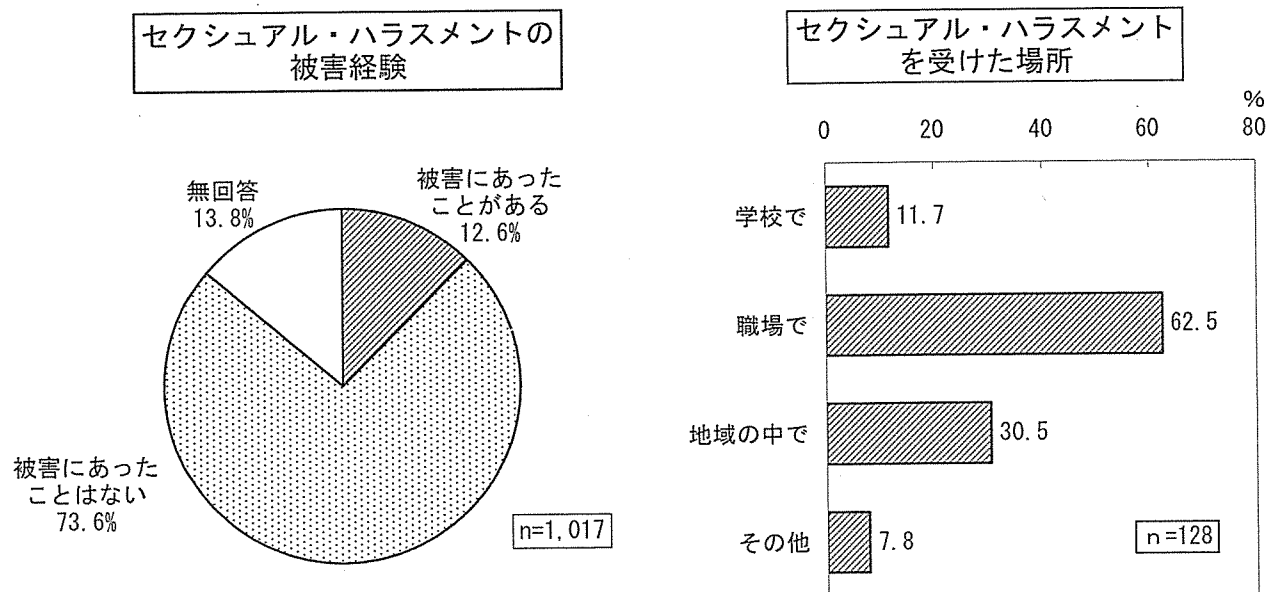
VIII セクシュアル・ハラスメントについて

(1) 被害の実態について

セクシュアル・ハラスメントの被害にあったことがあるか聞いたところ、749人(73.6%)は「被害にあったことはない」と答えています。

一方、全体の12.6%にあたる128人の回答者(男性22人、女性104人、性別無回答2人)が何らかの被害にあったと答えており、被害にあった場所としては「職場」が62.5%(80件)、「地域」30.5%(39件)、「学校」11.7%(15件)となっています。

被害を受けた場所の延べ回答件数は144件となり、なかには複数の場所で被害にあっている方がいることがわかります。



問13 あなた自身がセクシュアル・ハラスメントの被害にあったことはありますか。

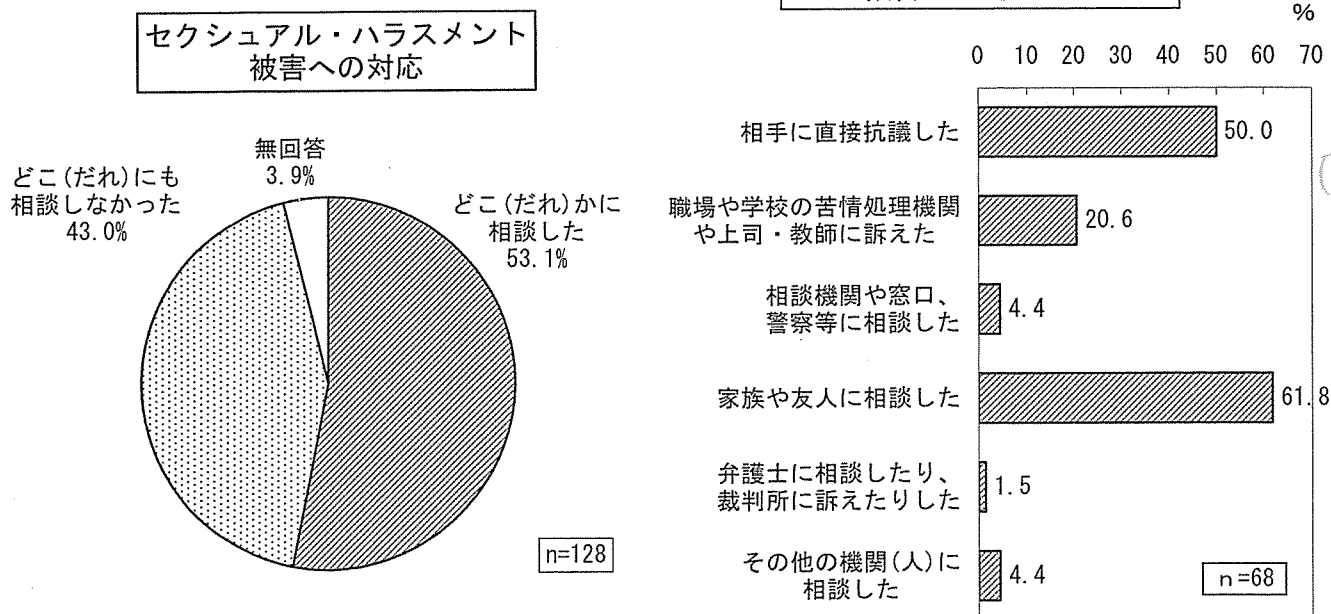
	実数(人)	割合(%)
1 学校で被害にあったことがある	15	11.7
2 職場で被害にあったことがある	80	62.5
3 地域の中で被害にあったことがある	39	30.5
4 その他	10	7.8
被害にあったことがある回答者 計	128	12.6
5 被害にあったことはない	749	73.6
無回答	140	13.8
合計	1,017	100.0

(2) 被害への対応について

セクシュアル・ハラスメントの被害について、どのような対応をしたか聞いたところ被害を受けた経験のある128人(男性22人、女性104人、性別無回答2人)のうち何らかの対応をしたのは53.1%に当たる68人(男性8人36.4%、女性59人56.7%、性別無回答1人)となっており、性別にみると何らかの対応をした割合は女性のほうが高くなっています。「どこ(だれ)にも相談しなかった」人は43.0%います。

また、どこ(だれ)かに相談した68人の対応方法としては、「家族や友人に相談した」が61.8%、「相手に直接抗議した」が50.0%、「職場や学校の苦情処理機関や上司・教師に訴えた」が20.6%となっています。

なお、68人の延べ回答件数は97件あります。



問14 セクシュアル・ハラスメントの被害について、どのような対応をしましたか。 (被害にあったことがある方)

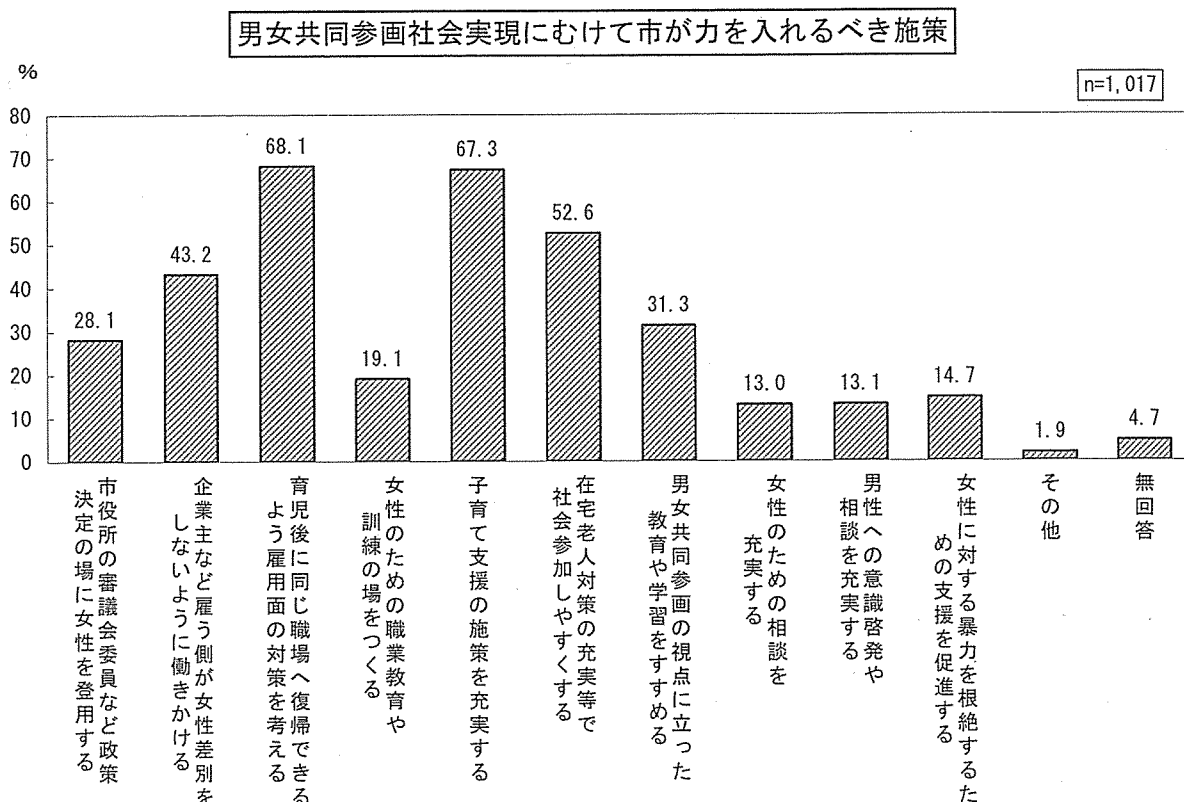
	実数 (人)	割合 (%)
1 相手に直接抗議した	34	50.0
2 職場や学校の苦情処理機関や上司・教師に訴えた	14	20.6
3 相談機関や窓口、警察等に相談した	3	4.4
4 家族や友人に相談した	42	61.8
5 弁護士に相談したり、裁判所に訴えたりした	1	1.5
6 その他の機関(人)に相談した	3	4.4
どこ(だれ)かに相談した回答者 計	68	53.1
7 どこ(だれ)にも相談しなかった	55	43.0
無回答	5	3.9
合計	128	100.0

性別にみた状況

男性		
どこ(だれ)かに相談した回答者 計	8	36.4
どこ(だれ)にも相談しなかった	11	50.0
無回答	3	13.6
合計	22	100.0
女性		
どこ(だれ)かに相談した回答者 計	59	56.7
どこ(だれ)にも相談しなかった	43	41.3
無回答	2	1.9
合計	104	100.0

Ⅷ 今治市における男女共同参画社会の実現に向けて

男女共同参画社会の実現をめざし、今後、どのようなことに力をいれていけばよいと思うか聞いたところ、「育児のため職場を離れても同じ職場へ復帰できるよう、雇用面の対策を考える」68.1%、「子育て支援の施策を充実する」67.3%、「在宅老人対策の充実を図るなど、社会参加しやすいようにする」52.6%、「企業主など雇う側が女性差別をしないように働きかけをする」43.2%、「男女共同参画の視点に立った教育や学習をすすめる」31.3%、「市役所の各種審議会の委員など、政策決定の場に女性を多く登用する」28.1%、「女性のための職業教育や訓練の場をつくる」19.1%、「女性に対する暴力を根絶するための支援を促進する」14.7%、「男性への意識啓発や相談を充実する」13.1%、「女性のための相談を充実する」13.0%となっていました。



問15 今治市は、男女共同参画社会の実現をめざし、様々な施策を実施していますが、今後どのようなことに力をいれていけばよいと思いますか。

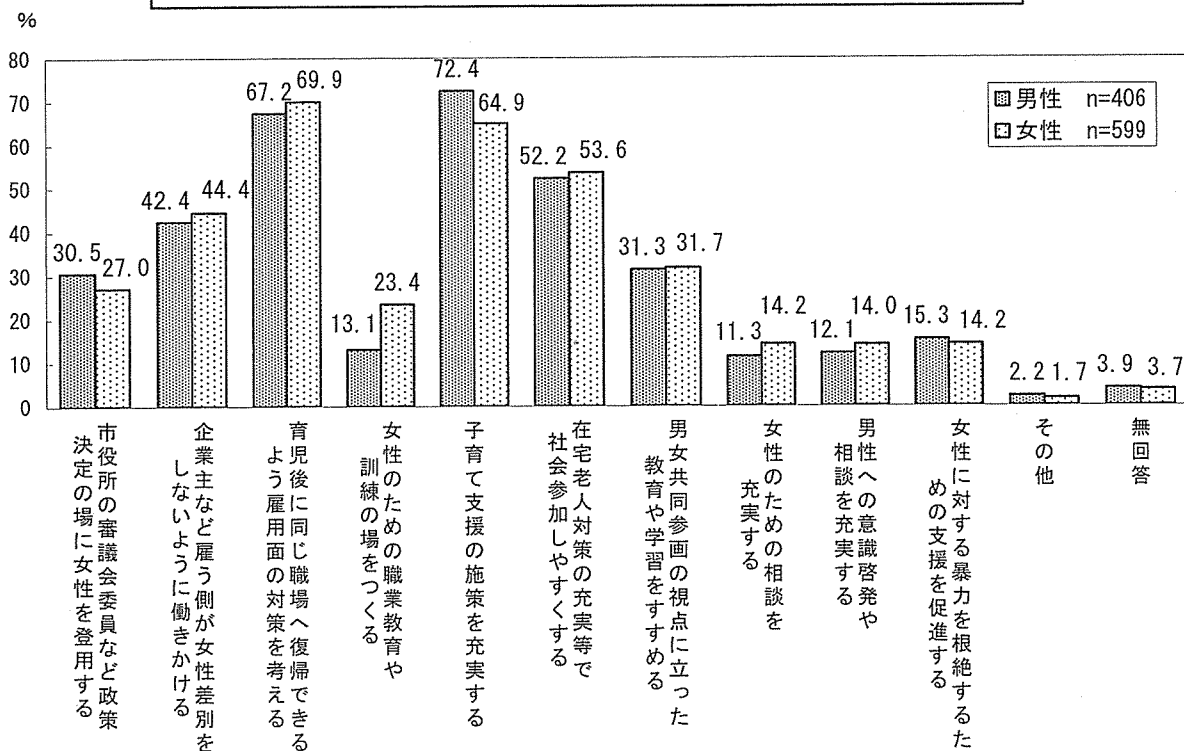
	実数(人)	割合(%)
1 市役所の各種審議会の委員など、政策決定の場に女性を多く登用する	286	28.1
2 企業主など雇う側が女性差別をしないように働きかけをする	439	43.2
3 育児のため職場を離れても同じ職場へ復帰できるよう、雇用面の対策を考える	693	68.1
4 女性のための職業教育や訓練の場をつくる	194	19.1
5 子育て支援の施策を充実する	684	67.3
6 在宅老人対策の充実を図るなど、社会参加しやすいようにする	535	52.6
7 男女共同参画の視点に立った教育や学習をすすめる	318	31.3
8 女性のための相談を充実する	132	13.0
9 男性への意識啓発や相談を充実する	133	13.1
10 女性に対する暴力を根絶するための支援を促進する	149	14.7
11 その他	19	1.9
無回答	48	4.7
回答者数	1,017	100.0

【性別による比較】

性別に回答をみると、「子育て支援の施策を充実する」は7.5ポイント(男性72.4%、女性64.9%)男性のほうが高く、「女性のための職業教育や訓練の場をつくる」については10.3ポイント(女性23.4%、男性13.1%)女性のほうが高くなっています。

また、女性について有職者と無職者の比較をしてみると、「子育て支援の施策を充実する」は9.6ポイント(有職者69.5%、無職者59.9%)、「男性への意識啓発や相談を充実する」は7.3ポイント(有職者17.4%、無職者10.1%)、「育児のため職場を離れても同じ職場へ復帰できるよう、雇用面の対策を考える」は4.8ポイント(有職者72.3%、無職者67.5%)、有職者の比率が高くなっています。

男女共同参画社会実現にむけて市が力を入れるべき施策(男女別)



[資料]

自 由 意 見

【男女共同参画はある程度実現されている】

- ◆ 私の年代と違ってこれからの若い人達は、男性がスーパー等で買い物したり、エプロンかけて台所に立ったりしても違和感なく見れるようになってきたから、男性はこうでなくては・・・女性はこうでなくては・・・なんて言う方が変。[女性／60代／家事専業]
- ◆ 男女共同参画社会基本法にある、男女が互いに人権を尊重し、責任を分かち合い、性別に関わらずその個性と能力を十分に発揮できる社会の実現は、近年様々な職種や地域の場面でなされてきたのではないかと感じます。私自身 20 代前半で、まして学生であるため、社会の実情は分かりかねますが、これから職に就く者としては、安心して働ける世の中になってきていると感じています。しかし、公務員や政治家には男性が多く、女性的意見や福祉・保育的意見が軽視されているように思います。とはいえ、女性問題ばかりを重視しては逆差別であるという意見も出ると思うので、やはりどちらの意見も取り入れ、ますますよい世の中になればと思います。[女性／20代／学生]
- ◆ 私達 60 歳後半の者は、まだ家庭内の事は女性がするもののように思っています。でも、今の若い人は、夫婦で協力している様子です。とても、いい事だと思います。[女性／60代／その他]
- ◆ 世間で言われているよりは、男女は平等に近いと思う。一部には、まだ認識が薄いなどと言う人もいますが、あせることなく自然にするのが、男であり女であり平等ではないのでしょうか。考え方は人それぞれであるのが望ましく、「あれをしないといけない」「今はこういう時代」というと、またちがうあせりが出てよくない環境が生まれるかもしれません。こういうデリケートな問題は、短時間でこうしようではなく、長い目で見るのが良いと思われます。[女性／40代／家事専業]
- ◆ 最近、男女共同参画はかなり実現されていると思う。真の男女平等の意味を理解する教育の徹底（男性のやるべきこと、女性のやるべきこと）。[男性／60代／自営業・自由業]
- ◆ 明治・大正時代からの社会や家庭内のしきたりが（力は弱まったが）身に染まっている。家庭内では奥の力が強いし、8割以上奥の天下だと思っている。かしこい奥ほど夫を立てるという風習が続いて来た。我が家もそうである。会社もしかり、女性の社長が多くなれば必要としたまで。仕事面、アイデア、その他いろいろ男性にまさる女性が少ない。学校では女性校長が多くなった。よろこばしい。男女が平等な時代と思うが、言い続けていくことが大事かも。[男性／60代／自営業・自由業]
- ◆ 私共が結婚した当時（昭和 45 年頃）は大変なものでした。両方が定年退職し、子供達が巣立ち、老夫婦二人だけとなり、お互い病気の一つも持ち生活していく中で、お互いを必要とする年を迎えることで、若い時には想像もできない位人間が丸くなり、おだやかな日々を過ごしています。何事にも感謝あるのみです。[女性／60代／無職]
- ◆ 女性の地位向上についてはかなり進んでおり、これ以上のことは逆差別につながるように思う。

ただ、日本では女性の発言が少ないので、女性が発言しやすいような雰囲気を作ることが大切。その他については、今ぐらいの方が女性としての奥ゆかしさ、日本人としての魅力があると思う。
[男性／70 以上／会社員・団体職員・公務員]

- ◆ 男女共同参画も度を過ぎると、過ぎたるは及ばざるがごとしと言うことになり、ほどほどが大事ではないでしょうか。もう一度原点に返り、人は皆、男も女も関係なく一人の人間だということを考えるべきです。男性、女性と分けて考えることは、区別することであり、本当の意味での平等にはならないと考えます。国の方針、他の市町村がするからわが町もするんだという考え方は反対です。表記にあるような本当の意味での男女共同参画は大賛成ですが、アンケートの出し方は、少し首をひねる所があります。少子化を生むような施策ではだめであり、子供を育てるには母親の力が絶対に必要なことであり、男はそれを助けることがあたりまえです。行政は、それができる社会をつくるのが大事であり、男がどうの、女がどうのというのは、二の次であります。
[男性／50 代／自営業・自由業]

- ◆ 30～40 代の子供の家庭を見ていると、子育て、買い物、家の中の事でも夫婦で助け合って生活しているように思います。[女性／60 代／自営業・自由業]

【従来型の役割分担について】

- ◆ 古いかもしれませんが、役割（男の人でないとできないこと、女の人でないとできないこと）は必ずあります。その上で平等の権利は成り立つと思います。仕事と子育ての両立も無理、自分が仕事をしていてわかりますが、緊張感をもって仕事をし、帰宅するともうくたくたです。子供が成人するまでは、母親は家庭でもできる仕事をし、親が苦勞している姿を子供に見せてあげて欲しい。出産の祝金、学校の本代も要らない。私は年上の人から頂きました。医療費も何歳までだか無料にする等、本当に変です。無料であれば、家庭で治せることでも病院に行くかも知れません。医者不足でもあり、待ち時間が辛い人も居るかも知れません。良い社会にするためには、子育てが大切だと思います。夫が元気で働けるために、子供が健やかに成長するために、家庭を守って頂くには、男女とも役割を考え参画して頂きたいと思います。[女性／50 代／会社員・団体職員・公務員]
- ◆ 共同参画の意味が良く判らないが、女性が職場に進出することによって男性賃金の低下を招き、ますます暮らしにくい世の中が作られている。男女の性別を明らかにし、分担を明確にすべきである。[無回答／70 以上／無職]
- ◆ 女性を多く登用するのは好ましくない（特に政策決定の場において）。女性を上司に任命することは反対である。女性に家庭優先。子育てに専念すること。[男性／60 代／無職]
- ◆ 男女共同参画というのは大変むずかしいことと存じます。私が育った時代から言えば、母親は立派に信念を持って家庭を守り、父親は威厳と知能を持って家族を導いたと思います。今はまったく違います。男女共同参画と言っても根本的にわかっているか？言葉の上で流れている様

に思われます。アンケートの中にも色々ありましたが、特に女性がどの様にしてバランスをとるか？が問題のように思います。もちろん男女共同参画には協力を惜しみません。[女性／70以上／家事専業]

- ◆ 無作為抽出の調査も内容によりけり。男子厨房に入るべからずで育った者には返答に困りました。頭（考え）を柔軟にして、かくあるべきと決めるのではなく、他人と違ったことをしていても（ただし常識有る行動）変な目で見ない方がいいと思う。[女性／70以上／家事専業]
- ◆ 男女には体力的、精神的違いがあり、やはり保守的な考えの人が多いと思う。家庭がうまくいってこそ男女同権なので、向き不向き、得意不得意、個性を生かせる社会に、生活しやすい地域にしていきたい。[女性／50代／パート、アルバイト、派遣など]
- ◆ 家族内で育児、家事、介護などを女性が担う割合は、まだまだ高いと思われます。特に、育児（母乳、産後の体のことなど）においては、やはり女性の割合のほうが高くなってきます。また、仕事上の役割や職場環境において、男性が介護や看護のため仕事を休むことが難しい現状があります。そのため、介護、入院などがスムーズに行えるよう、施設の充実や在宅福祉の充実が求められます。[男性／40代／会社員・団体職員・公務員]
- ◆ 女性の立場から書かせていただきます。男女の地位が平等になるためには、女性が広い視野を持ち、自分で考え、行動する力をつけることだと思います。そのためには、学校で学ぶことも、仕事に就くことも、結婚することも、健康でありさえすれば子供を産み育てることも、病人の介護をすることも全て必要なことで、男性の協力を得ながら、他人に甘えず、責任を持つてすることです。することをして、自分の考えを持つことが出来れば、その立場を弁えつつ、男子と対等に生活（家庭・社会）できるのではないのでしょうか。制度上で男女平等な立場で考えてあげたい。小さい子供を連れて離婚した時、女性には母子手当が付きますが、父子手当は付きません。今治市内でも父親が認可されていない託児所へ給料のほとんどを支払って（長時間預かってもらえるため）育てているという話を聞いたことがあります。DVの場合も、女性は駆け込むところがあるのに、男性は言い分も聞いてもらえない（男性はあまり言い訳もしない）、夫婦喧嘩の時、最近は女性の方が叩いたり蹴ったりしておいて、先に相談というケースもあるとか（男性の方が泣き寝入り）。ある地域の祝いの集まりを垣間見て、男性のみが酒宴を交わし、女性は台所仕事。長い男性の食事がすっかり終わってから女性の食事。男性は何も手伝わない。この地域で育つ子は？ここに来たお嫁さんは？どうするのだろう。風習と言って済まされる問題なのではないでしょうか。垣間見ただけなので、見誤っているかも知れませんが。（今治市内です。）[女性／70以上／無職]
- ◆ どんなに時代が変わっても、すべてにおいての男女平等は、法律により罰せられなければ成立しないと思う。日本の会社においても、私が体験した上でも、男女差別はありました。私の年齢で考えてみますと、昔から言われてきた男尊女卑の考えは、完全に消滅することはないと思います。子育てまたは介護をしながら女性が働くことは、かなり負担がかかります。家族はそのことを認識しながら協力し助け合うことが、トラブルを防ぎ女性を敬う気持ちを芽生えさせ

る要因となり、信頼感が生まれベストな状態に置かれるのではないかと思います。[女性／50代／パート、アルバイト、派遣など]

【男性の意識改革が必要】

- ◆ 私の住んでいる地域では、合併前には「男性の料理・家事教室」があったのですが、現在ではあまり開催されていないように思います。働いている男性のために休日に開き、「家事」や「料理」を経験して欲しいと思います。「家事・料理」イコール女性という思い込みを少しでも解消できればと思います。[女性／50代／自営業・自由業]
- ◆ 女が頑張ったら男がひがむ。女の下になることを男が嫌がる。若い人はともかく、ある程度お年を召した方は、受け入れにくいのでは…？「誰が飯を食わしてるんや！！」って男は言うけど、女もそう言えるだけの『時給』又は『基本給』を上げてほしい。仕事は同じなのに、『金』だけが違うのは女が損！女は家庭のことがあるので、そこが中心となっても男の上司は嫌な顔せずにできるのか？その逆に旦那が子供の面倒を見る時も。ここだけ妻が書いた。[男性／30代／その他]
- ◆ 男女平等になり、父親の立場が薄れているように思います。仕事の平等と家庭の精神的平等は違うのではないのでしょうか？母子家庭がいろいろな面で優遇されていますが、父子家庭はどうでしょうか？何の援助もありません。どうしてか？不思議です。所得によってならば男女平等の扱いが必要かと思います。子育てが終われば、家庭の中は男女平等に家事が出来ると良いですね。男性は、「女性がして当たり前だ」という意識が強いようです。私の年齢では仕方ないとあきらめています。[女性／60代／自営業・自由業]
- ◆ 田舎では男の人が家事などをすると、周りがうるさい。年配者の固まった考えをなくすことが必要だと思う。時代によって考え方は違うのだから。[女性／30代／パート、アルバイト、派遣など]
- ◆ 子育て、介護等においても妻まかせにせず、夫も進んで協力するようになればいいと思う。[女性／50代／自営業・自由業]
- ◆ 生まれた時代も違うし、育った環境も違い、思考、視点、労働、学力、さまざまな違いがある中、男女共同参画についての意図が今ひとつわかりません。社会の中で一人が変わったとしても、残り何人の人が協力してくれるかわかりません。良い事だとは思いますが、この世の男性達が今さら協力してくれるとは思っていません。若い男性は、特に教育が必要だと思います。苦勞していないから、この世の中は段々と乱れていくと思うし、女性ばかりに男性は何もかも押し付けていると思うし、協力していない現状ではないのでしょうか？[女性／40代／パート、アルバイト、派遣など]
- ◆ 男性は定年後どのように過ごすか？社会とのかかわりを持ち続ける場所や機会をつくってほ

しい。いわゆる、奥さんのキンギョのフンにならないように。カルチャースクールも女性が参加することが多すぎます。男性の講座もつくって下さい。たとえば座禅とか。子供達の学校外での勉強を手助けする場（共働きの家庭の子供さんや事情のある子供さん達の勉強のサポート）。女性ばかりでなく、男性も意識の改革を。助け合ってより良い住みよい社会をのぞみます。[女性／60代／自営業・自由業]

【女性にも甘えがある】

- ◆ 私は本来、男性が外に出て仕事をし、女性は家庭で子育てをし、しっかり家庭を守るのが自然の姿であると言う考えの持ち主です。時代に逆行する考えだ、古くさい考えだと言うことも良くわかっています。又、個人には能力差や環境差や性格差もあり、一律に定義付けることは困難です。しかし、物事には必ず陽と陰の部分があり、人間にはそれぞれ役割分担があります。これをエゴや理想論で折り曲げると社会の秩序が乱れ、人間関係の崩壊、家庭の崩壊にも繋がって行きます。総論賛成、各論反対と言うのが広く社会の現状だと思います。自治体が主導して国民意識を変え、総合的に流れを変えていく必要性も理解できますが、その前に女性側にも責任があります。まず、社会に進出し、参加して何をしたいのかと言う目的意識を明確に持つこと、そして陰の部分を抱える覚悟と、女性の甘え心を払拭する意識改革が絶対に必要です。男女平等、対等、人権尊重と言うのは簡単ですが、実際の現場ではそう簡単ではありません。男性の失業者が15万人を超えようとする厳しい社会情勢の中で、女性達の甘えは受け入れられにくいでしょう。過去に私も県職員として多数の女性と仕事をしてきましたが、まず、女性の甘え心が目立ちます。ただ単に権利のみを主張しても広く社会には受け入れられないでしょう。[男性／60代／無職]
- ◆ 田舎におりますと、なにかと男性重視の傾向があります。長い間にそれで良いと思うようになり、そのほうが気が楽なのかもと思っております。このような考え方ではいけないと…。楽なほうへ流れている自分がもどかしく思われます。[女性／60代／家事専業]
- ◆ 最近の女性は、家庭より自分自身を大切にする傾向が強く、男性は家事・子育てでよく協力していると思いますよ。女性がきちっとした職業についている場合は、二人で話し合って男女共同参画もいいでしょうが、女性が甘えすぎていると思います。[女性／60代／家事専業]
- ◆ 地域のなかで、男性も女性も同じぐらい平等に扱われていると思ったけど、実際は女性のほうが優遇されていると思った。映画館のレディースデイや電車の女性専用車両とか、女性に対してのサービスがあるから。結婚しても仕事を続ける女性がいるのは、子どもができたときの育児費用を貯めるためや、将来のための目的があると思う。だから、育児休暇や育児サポートを充実したらいいと思う。男性にも育児に取り組める時間があればいいと思う。男女の学歴は大切だけど、今の社会は不登校とか中学を卒業して就職とかいろいろあるから気にしてはいけないと思う。頭が良くても性格が悪かったらいやだと思う。[女性／20代／学生]
- ◆ 私は以前会社を経営していたのですが、女性の仕事に対する考え方に少し疑問を感じる事があ

りました。それは、女性の中に仕事を通して社会への貢献（つまり働く事による税金の支払い）に対しての嫌がり方でした。女性の中の一部には、働くことによって受ける収入は多く欲しがるが、それによって発生する税金等の支払いは非常にいやがる場合があります。税金というものは、社会にとって大変重要なものです。そういうことに対しての一部の人達の行動はよりよい社会づくりに対しては大変困ることだと思います。男女共同参画という大きな題材も必要かもしれないけど、もっと男も女も社会に貢献することが大事だということを子供の頃から教え、みんなで地域社会を築いて行くことが必要ではないでしょうか！！ [男性／50代／無職]

【男女の差異をふまえた上での平等】

- ◆ 男女が平等にお互い助け合って生きていくのは、本当に大切なことですが、男性は男らしく、女性は女らしくということも大切だと思います。それぞれの特性を生かした、社会や家庭が営まれば良いと思います。 [女性／50代／パート、アルバイト、派遣など]
- ◆ 男と女は、基本的にそれぞれちがう生き物だと思います。男には男の、女には女のそれぞれいい所、悪い所があると思います。一概に、女を差別するという意見がありますが、それはまちがいだと思います。そのことに関しての能力があれば、それは男であっても女であっても全く関係なく、例えば、おおむね男には細かい繊細な仕事は出来ません。逆に女には力のいる肉体労働は向いていません。職場であっても、家庭であっても、男も女もそれぞれがそのことを自覚する必要があると思います。男が「女だてらに…」とか女が「女だと思って…」といったことを言うのがそもそもの間違いであると思います。男女共同参画、素晴らしいと思いますが、それぞれの能力をしっかりと見極める事が大切だと思います。 [男性／40代／自営業・自由業]
- ◆ 男しかできない男が得意とすること、女にしかできない女が得意とすることがある。何でもかんでもいわゆる“平等”“共同参画”とお題目にしないこと。共同参画の本当の意味を理解しないで、錦の御旗とする傾向が強い。
※設問の概念規定を厳密にしないと、結果の信頼性がうすれるが、どう思うか。 [男性／70以上／会社員・団体職員・公務員]
- ◆ 女性が社会に進出することに反対はしませんが、そのために家庭内のことがおろそかになるようでは意味が無いと思います。昨今の犯罪の低年齢化などは、家庭内で親等が本来行うべき事がきちんとできていないからでは…。出て行くことだけでなく、内にとどまってなすべき大事もあるのでは？と思います。 [男性／40代／会社員・団体職員・公務員]
- ◆ 男女共同参画とは、男性と女性の能力が同じという前提で考えているのでしょうか。男性と女性ではすべての能力が同じではない。それぞれに強いところと弱いところを持っており、それを交互に補完することによって社会全体が円滑に廻っている。よって主たる男女の役割を決めて（一部重複有り）今後の施策を実施してください。男と女はすべてが同じではない。 [男性／70以上／会社員・団体職員・公務員]

- ◆ 男女の平等は、法律では保護されていると思います。いくら法的整備をおこなっても問題は解決できない。弱者のほうを助けているだけ。それはそれで必要だと思う。でも、根本的な解決には至らない。昔から「男はこうだ」「女はこうあるべき」とか言われているが、それはそれで良かったのではないかとも思う。今、生活にはお金がかかります。私は未婚ですが、結婚、出産している友人たちは、共働きじゃないと生活できないと。男女の社会参加の平等も大切だが、個々の家庭での話し合い、役割分担ができていれば問題ないだろう。それに周りの人間がとやかく文句つけるのもおかしいと思う。個人の意識と周囲の人間の理解。とにかく市民が安心して暮らせるまちを生み出してください。もっとこの手のアンケートを増やすべき。[男性／30代／パート、アルバイト、派遣など]
- ◆ 男女は平等に扱われるべきだが、全く同じでは双方ともしんどいのではないのでしょうか。男、女というよりも先に、人間として育児・介護等を考えなければならないと思っています。(女性／40代／会社員・団体職員・公務員)
- ◆ 理想は専業がいること。でも実際は、家計を上手にやっていくためには、まず夫か妻が働きに出る。でも足りない場合は二人が出る。となれば、家事協力も必要となり、話し合いで分担も必要となってくると思う。今は、男の人の方が賃金がいいので、男が働きに出るほうが多いと思うが、同等になってくれば違って、夫婦の話し合いで、個々の家庭がうまくいく様に形は違っていいと思う。[男性／50代／会社員・団体職員・公務員]
- ◆ 男女平等の考え方は素晴らしいと思う。だけど、できることとできないことはあると思うし、何でもかんでも平等にはならないと思う。あまりそこを意識しすぎると、お互いの良さがなくなってしまう気がする。[女性／20代／無職]
- ◆ 70歳以上の者に男女共同参画は非常にむずかしい。大企業に勤めて給料の多い人は別として、特に中小企業など今治では賃金が安く、共稼ぎをしないと子供の学費や老後の豊かさは望めないと思う。働いている時は苦しいが、男女が共同で家事など分担して助け合って初めて家庭生活もうまくいくのでは(先立つものは金)。[女性／70以上／無職]
- ◆ 男女の体のつくりが違うことは、社会的に埋めることのできない差だと思います。それぞれの長所を補って社会をつくりあげることが大事だと思います。どちらがえらいとか上とかそういうのではなく、違いがあることを認めることがまず大事なのではないかと思います。ともすれば、女性優位になりがちだと思います。[男性／40代／会社員・団体職員・公務員]
- ◆ 「男女が平等で互いに人権を尊重して家庭や地域、職場などあらゆる分野で支え合う、男女共同参画社会の実現」が理想であるが、意識改革をしないとなかなかむずかしいことなので、市民が参加しやすい男女共同参画の様々な施策をして、精神的に互いに高め合い、女性でも素晴らしい能力を持っている人も多々いらっしゃるの、これらを伸ばして住み良い今治市になることを望みます。[女性／60代／自営業・自由業]

- ◆ 「男女が平等で、互いに人権を尊重しながら…」とすばらしい取り組みに感動します。私は、いくら男女が平等と言っても、男の人は男らしく、女の人は女らしく、それぞれの特徴や役割を知った上での平等ならすばらしいと思います。今、私の目からみて「男女平等」と言う言葉が少し一人歩きしているのではと思っています。「人権を尊重しあう」—大切なことです。人権について私自身もっと勉強しなくてはと思いました。[女性／60代／パート、アルバイト、派遣など]
- ◆ 男女平等にと言われますが、男性には男性にしかできないこともあります。女性には女性としての特権はあると思います。変な昔のしきたりはなくても良いと思いますが、昔の人が言われる我慢、忍耐は、これからもずっと後世にも伝えていきたい所です。[女性／40代／パート、アルバイト、派遣など]
- ◆ 性差というのはあると思うので、そのところをふまえていないといけないと思います。男性と女性では、子供を産み育てる上でも違うと思います。[女性／40代／会社員・団体職員・公務員]
- ◆ 色々と言っても、男性にたよらなければならないことも多々あるのが現実です。男女共同参画がもし実行されたとしても、女性では解決出来ないことも数多くあります。そこをつつくよりも、今の大人の中にも、自己中心的な人はたくさんいます。まずは、社会のルールを身につけ、子供たちをのびのびと育てていける市町村になればいいと思います。今治は、働いている女性もたくさんいます。子供たちの環境を整えて、親子で楽しめるイベント等、地域と密着した楽しい毎日を過ごせればいいと考えています。今治に住んでよかったと思える社会にできるよう、住民みんなががんばるべきだと思います。[女性／30代／自営業・自由業]
- ◆ 男女共同参画社会の実現に最も大切なことは、お互いの人権を尊重し、男女の特性・特質を侵さないことに留意することであると、私は考えます。[男性／70以上／自営業・自由業]
- ◆ 男性、女性が同じことを同じようにすることが共同参画ではないと思う。それぞれの適性を生かすことができればそれで良い。[男性／50代／会社員・団体職員・公務員]
- ◆ 今は企業のリストラや低賃金雇用など景気もよくないし、企業の倒産もあるので、職場での男女共同参画社会の実現への協力はのぞみにくいのではないかと思います。男女の地位の差に関しては、歴史的にどのような違いがあったのか調べていくとわかりやすいと思います。また、国によっての女性の扱われ方とか調べるとよいのではないかと思います。男の人の特質と女の人の特質がうまく調和できるような男女共同参画社会であってほしいと思います。[女性／50代／パート、アルバイト、派遣など]
- ◆ ただ女性を多くするのではなく、才能・能力しだいでどちらが多くてもいいと思う。ただ、お年寄りの男性は、“女のくせ”にとか、抵抗があるのではないかと思います。たしかに、昔は、女性が教育されてなかったのが仕方なかったと思うが、現在の女性は昔と違い才能ある人もいる

のではないかな？頭の古い議員さん、自治会の（奥さんが働いていない）頭のかたい人達から教育して下さい。[女性／60代／その他]

- ◆ 何事も全て男女平等とは思っておりません。それぞれに男性に向けたもの、女性に向けたものがあると思います。「らしくしなさい」とは言いませんが、最近の女性（特に若い）の服装の乱れ（？）には、目を覆いたくなります。これは、「男女平等」の考え方が変な方向へと行ったものでは…。単に「だらしない」といえばそれまでですが。男性も女性もあらゆる分野で活動できるようになり素晴らしいと思います。個人的に言えば「看護師」と呼ばれる職業ですが、どうも男性はいけない！！女性の職業だと思います。今後どのように変化してくるのかわかりませんが、男性看護師は女性に比べて「気が付かない」。男女が不等に区別される事は好みませんが、適材適所、それぞれに合う場合もあると思います。[女性／50代／家事専業]
- ◆ 男女共同参画のような社会活動をさかんにする事は、男性にとってもよいことです。なぜなら社会生活全般に「男だけ」「女だけ」で成り立っていることはありえないし、男女の生活の特徴や体力その他の違いは、お互いの足りない部分をおぎない、 $1+1=3$ 以上に力を出すことができます。むしろ、戦国時代のような男の力は現代にはいらないし、女性特有のやさしさ、細やかな気くばりこそ 21 世紀の複雑な社会には必要です。だから、このことを女性に自覚してもらい、男性には他人や社会に対しての気くばり、思いやりのある考えを学ぶ機会を多く作することは、大変重要です。(男性／50代／自営業・自由業)
- ◆ 男女共同参画社会の基本理念を読んで、そうであつたらいいなと感じました。このアンケートをしてみて、自分自身の中でも、男性の方が…、女性の方が…、と性別で比較する思考回路になっていることに気がつきました。徐々に今治市が基本理念に近づくまちづくりができればいいですね。まずは、自分自身の意識・見方を変える所から始めようと感じることができました。[女性／30代／会社員・団体職員・公務員]
- ◆ 男女共同参画という事で、全てを平等にという考え方の社会になりつつありますが、男性としてのみの役割、女性としてのみの役割があります。いくら平等だとはいっても、これはやはり、分けて考えていかななくてはならないと思います。その中での平等な社会というものを作り上げていくことが大切であるかと思います。[男性／20代／会社員・団体職員・公務員]

【家庭内の男女共同参画】

- ◆ 男女ともに、家庭、家族を大切にすることに積極的であってほしい。全ては“家庭”が基本になって子育て、親子、夫婦育成が成立すると思う。そして、はじめて社会的に関わりあうことが可能になるはずである。夫婦が、根本的に鍵をにぎっていると思う。[女性／50代／会社員・団体職員・公務員]
- ◆ 仕事や家庭に対しても、男女ともがやっていく必要があると思う。介護も平等にしてはどうかと思います。どんな時でも、男、女が両立していつてはどうかと思います。[女性／40代]

- ◆ 生活をしていく上で夫婦が助け合っていく、できることはする、ということが大事です。相手を思いやる事が出発点ではないかと思います。[男性／60代／自営業・自由業]
- ◆ 男性、女性いずれかでも能力、実力を持っている人が稼いで生活ができる社会を作り、いずれか一人が家庭、子育て、家計を守ることこそ必要ではないのでしょうか。家事、仕事をする人が孤立することなく、家族、政治も援助し、より良い家庭ができてこそ、良い地域・社会が出来るのではないかと思います。国も福祉に関していろいろ対策を講じて下さいますが、我々には不安だけです。夫婦共同体でコミュニケーションを持ち、子育てが自分達で出来る家族ができる世を作りたいものです。[男性／70以上／パート、アルバイト、派遣など]

【子育て環境の整備について】

- ◆ 男女平等といっても、職場の昇格には差を感じる。能力給、能力評価といって、明らかな男女差がある。頭ではわかっているつもりでも、まだまだ女が家庭を守るのが当たり前という考え方が主流と感じる。また、職場に託児所がある会社はほとんどないと思われる。その中で、保育所・幼稚園の金額が少しでも安くなり、朝夕の時間にもう少し余裕があれば、仕事と子育てを両立しようと考えられる。[女性／30代／会社員・団体職員・公務員]
- ◆ 私は基本的には社会は男性優位とされることで構わないと思います。女性が働きやすい環境を作ってもらいたい（育児休暇・介護休暇用の人材派遣の斡旋）。東京都板橋区では、子供が熱を出しても、登録していたら幼稚園・学校まで病院の看護婦さんがタクシーで迎えに行き、治療・投薬して病院で預かってくれるシステムがある。途中退社することは、会社にとっても本人にとっても辛いこと。この制度があれば、パートでも社員でも時間まで責任を持って仕事ができる。小学校の学校保育の充実を望む。[女性／20代／会社員・団体職員・公務員]
- ◆ 私は飲食業を30年営んでいますが、私の家は妻が働き夫が主夫をしています。女が働くにあたって子供を預ける所にいつも困っています。従業員達も母子家庭の人が多く、朝・夜働かなければ食べていけない現実。昼夜問わず子供を預けられる施設などあったらいつも思います。子供を見てもらえる所（保育所以外）が充実すれば、もっと子供の数が増えるのでは。みんなもっともっと働きたいのに！定年後の知恵・知識のある方々、元気な人達などに見てもらえたら、子供達も成長するのにと 생각합니다。私の夫は72歳の主夫ですが、家の中でほんとうに助かっています。女と違った感覚で、工夫に満ちています。男も女も60歳すぎてもまだまだ元気に働けます。もっと働ける場所を下さい！[女性／50代／自営業・自由業]
- ◆ 夫婦と子供、何が一番大事かを考えながら、話し合いながら、子育て、仕事をしてほしい。[女性／50代／家事専業]

- ◆ 男性の賃金が安ければ、女性も働かなければならないため、子供と十分接するゆとりがなくな

り、子供達もまた、ゆとりの気持ちがなくなるように思います。女性も社会に出ることは必要であるが、子育ての時期は子供と接する時間が十分にあるほうが良いと思われます。[女性／70 以上／無職]

- ◆ 女性として、子育ては一番大切な仕事だと思います。子育ての時期にはお金儲けも大切だけど、子育てに重点をおき、しつけをし、豊かな経験をさせ、人間形成に努力して、親としての責任をまっとうしてもらいたい。働く時間も家族のことを考え、短時間労働の場を増やし、企業の皆様にも子育て期間中の有意義な時間の使い方を考えた職場を作って頂きたいです。埋もれた才能が一杯あります。掘り起こして欲しい。一生のうちの大半を生きて来て振り返って思うのですが、短い人生、色々なことを経験し、小さい間は親に一杯の愛情を注いでもらい、自分が親になってからは子供に自分が受けた分愛情を注いでやり、自分で出来る範囲内のボランティアに精一杯参加し、楽しみ、少しでも社会に貢献できる人間でありたいと思っています。楽しい人生だったと思って終われるようこれからも楽しく地域で生きて行こうと思っています。もっともっと、皆さん一人ひとりが生きていく社会のことを考え、もっともっと話し合いに参加し、自分達でできることを積極的に行動に移して参加して欲しいです。ガンバロウ！！
[女性／50 代／家事専業]

- ◆ 男女共同参画についての市の施策については、見たり聞いたりして努力していただいている印象を持っています。ただ、私自身は子どもが小さい間は特に母親とすごす時間が大切だと思っているので、子どもを持つ母親に対する労働条件や環境の改善を企業に求めることが重要ではないかと考えます。また、夫婦がともに働いている家庭も多いと思いますが、特に平日の幼稚園の保育時間の延長ができないかと思っています。午後5時までの延長保育ですと、ほとんどの方は迎えに行くのが大変なのではないでしょうか。[男性／30 代／会社員・団体職員・公務員]

- ◆ 子供が生まれても、公務員や大企業はともかく、今治市内の中小企業等は育児休暇等取れないと思います。そして子供が少し大きくなり、元の職場に勤める事もできないと思います。仕方なくパート等をして生活しています。ボーナス等は見たことがない人が多いようです。1ヶ月8万～10万になれば良い方だと皆さん言っております。男性は15万～17万あれば良い方とか。大卒で故郷に帰っても良い仕事がなく、パートで働いている知人もいます。結局、じいさん、ばあさんのお金を貰いでやらないと生活して行けない家庭が多いと思います。
 1. 男女平等になったと言っても、まだまだ田舎では男性が優遇されている。
 2. 中小企業にも育児休暇が取れ、元の職場に戻れるよう行政が国にお願いして法律を作る運動をお願いしたいと思います。
 3. 女性がもっと社会の表に出て、行政や色々な仕事につけるように門戸を開くことをお願いいたします。[男性／70 以上／無職]

- ◆ 企業の体質自体が男女の格差を作り、それに基づいて社会全体が動いていると感じる。例えば、子供がいる家庭において、出勤時間が学校や幼稚園に預ける時間より早いケースでは、働きたいという意志があっても働けない。従って、時間帯の合致するパート等で働く事となる。女性の管理職があまり見られないのも、そのようなことに起因していると考える。従って、社会全

体が、男女が平等に働ける環境を再考していくことが必要であると思う。[男性/30代/会社員・団体職員・公務員]

- ◆ 男女共同参画については、女性はもっともっと力をつけなければならないと思うし、男性、女性それぞれにその特性を生かして力を発揮できる場所があっても良いように思う。最近、子育て支援という言葉をよく耳にするようになった。以前より、子育ての根っこの部分は母親に（勿論、家族の協力も必要だが）真剣に子どもと向き合ってほしいと思っている。例えば、育児休業の期間をもう少し長く（2〜3才位まで）そしてその後の職場復帰への支援（外国にはそんな施策もあるとか）こそ、育てる側にとっても育てられるものにとっても一番望ましいと、夢のようなことを思い続けてきました。本当に困っている人、物のあふれた世の中になってより豊かさを求めて外に出る人、その見極めはむづかしいが、そのしわ寄せはもろに乳幼児に来てはいないだろうか？そのくせ就学頃になると、驚くほど手をかけ過ぎる人もまた多い。根っこの部分を疎かにして枝葉の繁りの望めないのは、植物も同じだと思う。子育ては大変だけど、その反面喜びもまたこの時期に一番感じるのではないのでしょうか？[女性/70以上/無職]
- ◆ 子供が幼稚園に行っている時間帯（4時間程度）の仕事が多くあるといいと思う。幼稚園・小学校の春・夏・冬休みの時は、仕事の休業があるといいと思う。[女性/20代/家事専業]
- ◆ 男女ともに子育てしながら働き続けられる環境を整備する。改正均等法の周知徹底と間接差別への実効ある措置を取る。妊娠出産にともなう不利益な扱いの防止。妊娠婦人検診 15 回無料とする。事業所へのセクハラ防止対策の確立を行う。改正パート労働法を周知徹底する。女子学生の就職差別をなくし、女性の採用比率を高める。児童手当で子育てできる支援をとる。[男性/60代/会社員・団体職員・公務員]
- ◆ 家庭に入って子供ができると、女性は家にこもりがちです。市のHP内に女性同士が情報交換のできるBBSを作ったり、イベントなどがあると良いと思います。母子でなく、父子によるふれあい会みたいなのもあってほしいです。[女性/20代/家事専業]
- ◆ 小学低学年生は、学校から帰って来たら母親が家庭に居るのが人間形成上大切だと思います。[男性/60代/無職]
- ◆ 女性がいきいきと生活できることこそ、地域の発展につながると思う。女性の力こそ最大の武器！！もっと女性が活躍できる場を！！子育ての中の女性にもっと金銭面、心、職場などのサポートを充実させてください。女性と子供は今治の力！！今治をおもしろくしよう。[男性/30代/会社員・団体職員・公務員]
- ◆ 男女平等というのは理想ではありますが、現実には夫が残業をし、給料をもらわないと生活していけません。夜遅く帰る夫に、子育ての協力をお願いするのはむづかしく、私もパート（9:00〜18:00）をしています、やはり家事・育児は妻の仕事となってしまいます。景気でも良くなって夫が残業ナシで高収入、私のパートも時間が短くてすむのであれば、夫の家事、育児の

協力も求めやすいですし、夫婦で助け合えると思います。[女性／40代／パート、アルバイト、派遣など]

- ◆ 男女共同参画は大切な事だと思います。反面、晩婚が進行し、少子化に歯止めがかからない原因になっているように思います。また、家庭においては、親子の愛情までがお金でつながっているように思われてなりません。例えば、子供のおやつを例に上げても、好きなものを買って食べなさいとお金を渡す。それが今の世間の風習ではないでしょうか。「手作りは愛」この言葉は遠い昔の言葉のように思えて、淋しく思います。[男性／70以上／無職]
- ◆ 70年の人生を振り返って、一番幸せな時とは、我が子を胸に母乳を与えている時であったと思います。しかし、一生家庭の中だけで過ごしたことが幸せだったとは思っていません。やはり、女性でも社会の一員として自分を生かせる職業を持ちたかったと思っています。現状は女性が安心して子育てができて、その他の家事と仕事が両立出来る社会ではないと思います。また、自分の今後については、できるだけ子供達に負担を掛けないようにするにはどんな方法があるか、目下いろいろ勉強中です。今後の行政に期待しております。[女性／70以上／無職]
- ◆ 間違えているかもしれませんが、男女共同参画社会をめざすには、小学校、保育所、病院等女性が活躍できている仕組みや規約等を参考に、行政で考え進めて欲しい。女性が出産、子育てを安心して行い、職場復帰できる社会づくりを、公務員である恵まれた立場で仕事している方に真剣に取り組んで欲しいのです。子育て支援が終われば、それで終わりのような縦割り行政でなく、女性が働きやすい社会、活躍できるような社会づくりの道を作って欲しいのです。パートで甘んじざるをえない現在の社会を変える道しるべをしてください。[女性／60代／家事専業]
- ◆ 地域のリーダー（総代等）に関しても、男性が中心となっているので、もっと女性が発言できる環境があればいいと思う。家庭においても、夫がもっと育児に協力できるような職場作りをしてほしい。子育て支援の充実も市全体として図ってもらいたい。例えば医療費（乳児）無料の延長、育児手当支給、保育料を安く、といった少子化対策をもっと実現してほしいと思う。[女性／30代／家事専業]
- ◆ まだまだ一般社会では男が上。男女平等といっても女の立場は弱い。それは、女の人の給料にある。公務員だけが平等で、民間の会社では平等とは言えない。女性の意識にもあると思う。子供が出来たら会社を辞める人が多い。女性もずっと仕事に専念できるよう、子育て支援に力を入れて欲しい。子供が小さい間だけでも誰か面倒を見てくれる方が必要。私の経験から出た結論である。[女性／60代／自営業・自由業]

【職場の男女平等について】

- ◆ 例えばハローワーク等で「男女問わず」とあっても、実際は条件が違ったりします。今治の企業も地域の恩恵で成り立っていることを考慮して、企業努力により男女の差別なくすようにす

る必要があります。仕事場にしろ家庭内の家事にしろ、それぞれの状況でかかる労力はさほど変わりはありません。私は公共の場、スーパーや役所、駅あるいは広報車等で、地域社会が一体となって男女平等を宣伝告知する事は、絶対必要だと判断しています。何か、誰かが事をおこさないことには、この問題は絶対解決することはありません。女性が相談しやすいように、窓口に女性職員をもっと配置した方がよいと思います。[男性／30代／無回答]

- ◆ 全て職業に左右されるので、職場環境を良くする働きかけを積極的にしてほしい。特に長時間労働（残業手当等賃金はゼロ）で、そういう男女共同的な考え方よりも、現状で二人がどう動くべきか、どう動いたらより長く二人の時間を作れるかということを考えている。民間企業の経営は厳しい時代かもしれないが、タダ働きをさせて、従業員の生活を軽視した責任者が多い。会社もそれだけ利益を生み出しているなら、きちんと対応してほしい。少ない賃金から税金を払っているので、環境、相談的なことよりも、企業に対して各従業員に対して配慮できるように強く働きかけてほしい。今の状況では、社会的なことを考えている余裕はない。（男性／20代／会社員・団体職員・公務員）
- ◆ 私たちの年齢だと、大部分の事は女性がするのが普通ですが、これからの若い人たちは、2人で協力していかなければ、成り立っていかないと思います。職場・社会の変革が大切だと思います。[女性／50代／家事専業]
- ◆ 男性が育児休暇や介護休暇を取得するには、法律で義務づける等して企業へ働きかけることが必要。ワーク・ライフ・バランスの推進には管理職の意識改革が不可欠（仕事中心で働いてきた人が多いので、部下にも同じことを求める）。[女性／60代／会社員・団体職員・公務員]
- ◆ 子供が小さいと仕事を休みがちという理由で、働く所がない。病院、介護施設等は上司が男だと、仕事ができる、できないではなく、どれだけ上司に気に入られるかで、日曜日の休み、年末年始の休みが取れやすかったりする。オンナです！！をアピールする女性が、男女平等をなくすのではないかと思います。[女性／40代／家事専業]
- ◆ 男性の多い職場など、初めから無理と思わず、女性でも男同様の仕事ができるように、どんどん男性が主だった仕事に女性を入れていって欲しい。会社や市などの支援で、資格などを取りやすい資金援助をして欲しい。資格があれば、女性でも男性でも自信をもって仕事ができるから。[女性／30代／パート、アルバイト、派遣など]
- ◆ 男女間の賃金に格差があるので、どうしても賃金の低い女の人の方にいろいろな負担が生じていると思う。一度仕事を辞めてしまうと、パートなどの働き方しかなくなってしまう。[女性／40代／パート、アルバイト、派遣など]
- ◆ 今治市は繊維産業が盛んだったためか、女性の働く場が多くありました。それで、男女共同参画も進んでいたように思います。また、行政の方も子育て支援の事業に力を入れてくれていました。といいますのも約30年も前から小学校の低学年の児童に対し放課後、留守家庭学級（今

は児童クラブ)があり、児童や働く母親は助かっていました。[女性/70以上/無職]

- ◆ 子供ができ、仕方なく家庭に入った者です。自分のやりたかった仕事に満足していたので、後々あの時辞めていなかったらと思う事が再々でした。でも、育児や家庭の両立は、当時はむずかしかったとも思います。それで、自分の子供には、ずっと仕事を続けて欲しいと思っています。リストラや賃金カット、今の若い人達は大変な世の中だと思います。どういう形であれ、社会に参加し、社会の一員として働き、成長して欲しいと思います。その為に安心して働きながら子供が産め、育てることのできる地域や社会、職場での理解や支援等。おばさん達がおしゃべりして話題になるのは「お金や地位のある人達は、庶民のくらしや現実を知らない。」です。よろしくお願い致します。[女性/60代/家事専業]
- ◆ 企業主又は男性社員などが女性差別をなくするように。特に役職に付いている人は特に気を付けてほしいと思う。[男性/60代/自営業・自由業]
- ◆ 今治市は仕事に関して女性のほうが(パート、アルバイト)多いので、男性も増やしてほしい。[女性/50代/会社員・団体職員・公務員]
- ◆ ほとんどの会社が男性ばかりを幹部にしているため、女性の意見が通りにくい。男性のみで決定した事を押し付けてくる場合がある。[女性/40代/パート、アルバイト、派遣など]
- ◆ DVについて、被害を受ける女性(時々男性)が外部にSOSを発信することが難しいのは周知の事実。彼女たちに「逃げるように」などのアクションを求めるよりもまず、暴力をはたらく加害者を取り締まれたらいいと思う。組織内で女性:男性=50:50をめざせないかな。女性の能力を生かさない団体・組織の成長はもはや見込めないのでは? [女性/20代/学生]
- ◆ 職場等の社会制度改革も必要ですが、男性そして女性の意識の変化が必要だと思います。[男性/50代/自営業・自由業]
- ◆ 会社に入社をして5年くらい以上たった後、リーダー⇒課長と精一杯がんばってきました。結果、成果が出ました。人事募集をかけた際、自分より多い(同等くらいの)給料で募集が出ました。上司に確認した際『男性だから』『大卒だから』との事!!かなりショックでした。このような事をなくしてほしい! [女性/30代/パート、アルバイト、派遣など]
- ◆ 私がまだ結婚しないで銀行で働いていた頃は、男女雇用機会均等法が施行され給料も同じだったし、昇格に関しても管理クラスでなかったからか、取得すべきものなど男性と同じようにクリアすれば給料も資格も同じ扱いだったように思います。私からすれば、その格差のなさがやる気になったし、自信にもつながった気がします。私の場合、一生懸命そういう風に17年勤めて家庭に入ったが、ある程度満足した生活からの変化だったので、現在まで続く専業主婦にあまり違和感はないと思います。しかし、「男女共同参画」の推進は賛成です。是非、実現に向けてがんばってほしいです。[女性/50代/家事専業]

- ◆ 女性が生きがいを感じられる仕事ができ、親・子供の事を相談できる所があればいいと思います。[女性／30代／パート、アルバイト、派遣など]
- ◆ 今治は他の地域と比べても共働きの家庭が多いので、PTAや地域の活動にもなかなか参加しづらいことがあり、人を集めるのに苦労します。男性も女性も子育て世代が、もっと地域と関われるように、企業も協力してほしいと思います。[女性／40代／パート、アルバイト、派遣など]
- ◆ 今治の女性は働き者なので、働かなくても育児、介護に専念しやすい今治にしてほしい。[女性／60代／自営業・自由業]
- ◆ 結婚、家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加したくても、安定した仕事（収入）と時間のゆとりがないとなかなかうまくいかない。[男性／40代／会社員・団体職員・公務員]
- ◆ 女性の生身の言葉、意見等が発表される場が少ないのではないかと。女性の発言力を高めることが重要ではないだろうか。賃金差別が比較的少ない市役所（人事による男女差別はあると思いますが）において、女性管理職を出来れば2分の1、せめて4分の1程度にする位の思い切った施策をお願いしたい。[男性／50代／自営業・自由業]

【教育による意識啓発】

- ◆ 積極的に女性の意見を聞くなどの活動をさらに充実させていくべきである。小学低学年から、道徳的人権的な教育を重要視し、社会の底上げを図る必要がある。近年の家庭の教育力の低下を向上させる施策を地域で取り組むべき。[男性／40代／会社員・団体職員・公務員]
- ◆ 昔の教育を受けた人は、なかなか男女平等には考えられないようなので、子供の時から教育していけば、自然と共同参画できるようになるのでは、と思います。[女性／60代／自営業・自由業]
- ◆ 学校で、男・女ともに「～さん」と呼び、「～くん」「～ちゃん」と呼ばない、西洋かぶれな全く意味のない教育方法はやめ、男は男らしく、女は女らしく育てる教育をしてほしい。法や制度での男女平等と、男らしさ、女らしさは関係ないと思う。[男性／30代／会社員・団体職員・公務員]
- ◆ 夫は80歳前なので、男女共同参画など知りません。事実、介護が必要な体です。反対に私がそのような状態になっても、介護や家事のことなどできませんし、しようという意識もありません。学校教育で男女共同参画の学習をしている昨今ではありますが、しつけや教育の基本の場である家庭での教えや学びが反映されると思います。家庭からも啓発できる取り組みがあればと思います。[女性／70以上／家事専業]

- ◆ 男女共同参画の重要性を小学校低学年から徹底的に教育すべき。[男性／70 以上／無職]
- ◆ 私がまだ子供の頃は、「男だから」「女だから」と言われて育った時代です。それがあたりまえのように思っていました。でも社会にでて仕事をし、結婚すると「男女平等」「男女共同」を実感します。家庭の中から教育していくことが大事だと思います。「男女平等」「男女共同」がわかる人は、地域や職場でも自然な行いができるはずです。核家族化が進んでいる今、夫婦で助け合うことは、すごく大事です。子育てが妻中心とならぬよう、夫の職場で育児休暇を必ずとる（強制してもいいかも・・・）、そういう環境をはやく作ってほしいですね。[女性／40 代／パート、アルバイト、派遣など]
- ◆ 子供の頃から大人が男女差別なく社会で暮らしているのを見ていれば、自然と男女平等に接することのできる子供が育つと思います。今、私たち大人が子供たちに性別関係なく働き生活している姿を毅然と示せたらと思います。今すぐに男女共同参画社会を実現するのは難しいこととは思いますが、徐々に浸透させていけると良いと思います。[女性／50 代／会社員・団体職員・公務員]
- ◆ いまいち男女共同参画の意味が分りません。女性がもっと市政に参加するためには、機会を多く作る、男性が家事に積極的に参加するなど個人の意識をもっと高めていく必要があると思います。今までの家庭教育、学校教育が今の大人を作っているのだから、今すぐ意識を変えていくことはとても難しいので、今、子どもを持つ親の意識を改め、新たな意識の中で子どもを育てていくと、将来その子どもたちが男女共同参画を実現してくれるように思います。[女性／30 代／会社員・団体職員・公務員]
- ◆ 男女が共に学習する女性参画促進に関するセミナーを開催する。[女性／60 代／自営業・自由業]
- ◆ アンケートを公表する事。企業に協力を呼びかけ、男女共同参画のマニュアルの作成などに協力する事。男女共同参画の大会の企画 [男性／60 代／会社員・団体職員・公務員]
- ◆ 行政・企業のやるべきことの他、本人の考え方も重要であり、これを支援する、相談にのる、気づかせる団体の存在があってほしい。例えば、ワーク・ライフ・バランスの実践セミナーなど、当事者が中心のものであればなおよい。[女性／60 代／家事専業]

【高齢化社会への対応】

- ◆ 年をとっても、働ける場所が欲しいです。体が元気なうちは、働きたいけど、働く場所がありません。60 代、70 代でも、お元気な方はいっぱいいると思います。これからの今治市に期待します。[女性／50 代／家事専業]

- ◆ 私は 55 歳まで勤務していましたので、自分の共済年金で、女性でも経済的に自立した生活ができております。これからの女性は、仕事に自信と誇りをもてるよう頑張ってもらいたいし、社会も認めてほしいと思います。また、家庭を持っても、子ども達に信頼され理解される、温かい、そして裕福な暮らしをしてほしい。もちろん夫の協力も必要だし、同じ目標をもつことが理想ですが。なお、当アンケートの項目に、健康管理があまりなかったように思いますが、男女とも幸せのもとには、心身の健康が第一だと思いますので、病気になる前に暮らしの中で予防対策が必要です。女性の仕事として、社会参加をして、そんな分野が広がっていくとありがたいです。
[女性/70 以上/自営業・自由業]

- ◆ この年になると特別にありませんが、年寄りに不安のない行政をお願いいたします。[女性/70 以上/家事専業]

- ◆ 男女共同参画の推進とともに、高齢化対策についてもお願いします。伯父夫婦が今治市の病院にそろって入院してから 4 年目になりました。家は空き家ですが、水道、ガス、電話等基本料金の支払い等二重生活が続いております。周囲の家庭のほとんどが医療費の支援等援助を希望しております。農地は維持できず、猪の王国になりつつあります。なんらかの援助を希望します。(島嶼部在住者) [男性/60 代/会社員・団体職員・公務員]

【行政への要望、その他】

- ◆ 調査結果を公表してください。[男性/40 代/会社員・団体職員・公務員]
- ◆ はじめからあきらめるのは良くないかもしれませんが、これはとても進展しにくい問題であると感じます。何十年もかかりそうですが、子孫のためにもよろしくをお願いいたします。[女性/50 代/自営業・自由業]
- ◆ 独身者が多いので、少しでも多く出会える場所を提案してほしいです。[女性/30 代/無職]
- ◆ 男女が色々な行事に参加できる様、学校行事(卒業式、入学式等)、地域行事を休日に合わせてもらいたい。また、市役所行事も休日に合わせてもらいたい。市役所業務を休日も交代制で行ってはどうでしょうか。また、設問にあった様に、女性を色々な委員会に参加させた方が、ソフトな思考でのアイデアも生まれるのでは? 西条市の教育委員長も若い女性です。[男性/50 代/会社員・団体職員・公務員]
- ◆ 社会的には、「男だから」「女だから」という意識を持たないようにしたい。「女性差別だ」とか「セクハラ」とか、種々の権利意識からの発言が増えてきており、その影響からか、萎縮している男性が見受けられる。同和問題などでも、現在の 50 歳以下の年代であれば、もう過去のことは知らない人が多数であると思うが、人権活動などによってそれを知り、知ることによって差別意識が生まれてくる等の逆作用もあるのではないかと思う。何もしないのも問題かもしれないが、意識していない人には知らせないという方が良いと思うのだが。相談しやすい所

が身近に有り、被害を受けている人がすぐに相談できるというのは必要だと思う。[男性／50代／会社員・団体職員・公務員]

- ◆ 男女共同参画についてのアンケートに回答しましたが、普段の生活の中で全く意識していないことでした。それくらい、私にとっては、気にならない、あまり関心のないことでした。今の私は、それほど恵まれているのかもしれませんが、男女共同参画も大切なことだと思いますが、それ以外のことを求めている人も少なくないのではないかと思います。もっと、色々なアンケートを実施し、市民が求めているものを提供できるような計画の策定や施策を行って頂きたいと思います。[女性／40代／パート、アルバイト、派遣など]
- ◆ 男女共同参画事業に限らず、市民のグループが公共施設を利用する時、特に夜間など、施設職員（公務員）の目が行き届かない理由で、使えないケースが多いのですが、施設は公共の財産です。自分達の責任問題を第一に考えずに、十分に配慮して夜間でも使える方向で対処して欲しいと思います。市民は、昼間は仕事をしているので、夜間しか時間がないのです。防災面が一番問題になるのかもしれませんが、お互い協力し合えば、解決できると思います。[男性／60代／無職]
- ◆ PTA活動で、職場を早く帰りたい時、遠慮なく帰れるような社会のしくみがほしい。どうしても地域活動に参画しなければいけないのでしょうか。それも選びたいです。子供は育てやすい環境を作ってあげたいです。補助金など（教育費、医療費など）も考えてはどうでしょうか。小学校が遠いのも過疎化の始まりではないでしょうか。若者が田舎から町へ移っていく。老人夫婦の家にもボランティアなどで生きがいを見つけたりしてあげたい。[女性／40代／パート、アルバイト、派遣など]
- ◆ 先日知人が、仕事先の娘さんが夫からDVにあつて離婚したのだけど、ダメージがひどく、可哀想にウツになっているみたいよ、という話をしていました。あまりDVについて縁がなかったのですが、私などは相談機関がどういう所にあるのかも知らなかったし、そういう人も多いのではないのでしょうか。[女性／60代／自営業・自由業]
- ◆ 社会がスピード化、多様化している時代において、個人個人の結びつきが薄らいでいることと思います。この中で、統一した意見を集約するのは難しいと思います。一人ひとりの意識の高揚が必要だと思います。[男性／50代／会社員・団体職員・公務員]
- ◆ この事業については、女性の参画が今一つ。自主的に参加する意思と周囲の盛り上がりを如何にするかが大事だと思います。
 1. 女性の意思の効用
 2. 周囲の暖かい眼差しが必要
 3. 雇用者の場合、女性の受身的立場を理解し、男性と同等の環境を整える
 4. 現在の小中高校では、大分開かれた教育がなされているが、高年齢者の昔ながらの眼差し

を如何に変革するかも必要と考えます。[男性／70 以上／無職]

- ◆ この様な企画がされていた事は、今まで気付きませんでした。大変難しい問題であります、今後注意深く広報などを通して関心を持っていきたいと思ひます。[男性／50 代／会社員・団体職員・公務員]
- ◆ 同じ今治市なのに、陸地部の方だけでいろいろ計画されて、島嶼部の方は情報も少なく、取り残されている気がする。同じ今治市なので、もっと平等にしてほしい！男女共同参画の前に市民共同参画をしてください！[女性／30 代／家事専業]
- ◆ 市議会議員に女性が一人もいないのは、今治の閉鎖性を強くあらわしていると思ひます。[女性／40 代／パート、アルバイト、派遣など]
- ◆ もっと重要な事のアンケートをすべき。昨年の工事をどう思うか、とか、予定事業を項目ごとに賛否を問う、等 [男性／60 代／無職]
- ◆ 調査の目的がわからない。[男性／50 代／無職]
- ◆ 無作為に抽出して、すべて統計的に処理するための基礎資料も必要とは思ひますが、たとえば今回の 2000 人に案内し、直接意見を求めることも大事なことで存じます。ただし、何人の方が出席するか問題ですが、たとえ少数の出席者でも男女共同参画に関心を持っている方に意見を聞き、審議会等に報告し、よりよい施策の策定を図ることも検討して下さい。[男性／70 以上／無職]
- ◆ 何が平等ですか？（何をもって）（どの様な状況か？） [男性／50 代／会社員・団体職員・公務員]
- ◆ 特になし。この不況下、特に今治市は雇用問題が最重要課題だから、今治市職員はそれに全力を注ぐべき。[男性／40 代／無職]
- ◆ 無作為とはいえ、私のような未婚者おまけに高齢者にこのような内容のアンケートを送っておいでも困りました。殆どの項目が、私共が返答できにくいように思ひました。ご協力できなくて申し訳ありませんでした。[女性／60 代／自営業・自由業]
- ◆ 市役所の人数が多い。ひまな人が沢山いるので、税金の無駄。女性は髪をいじったり、人を見てないと思ひて、ひまつぶしをしている。女性は、特に態度が大きい（特に年配の人）。[女性／60 代／家事専業]
- ◆ このようなくだらない内容なら、無駄な税金を使うなど言ひたい。[女性／30 代／会社員・団体職員・公務員]

- ◆ 本当、こんな話し合いしても、事実、育児・介護休業なんかがとれるのは大手企業と公務員だけである。夫婦が公務員の場合は、どちらかがやめるべきだ。公務員の人なんか週に2日も休みがあるくせに、仕事が忙しいなんか言って学校のボランティア活動、地域活動なんか参加しない。誰のおかげで給料が出てるのか・・・という気分。積極的に市民のために活動すべきだ！！男女どちらが主に仕事してもよいが、男女平等というより民間と公務員の平等はかるべきです。仕事内容にみあった給料、人数にしたらいい。本当、ただの事務員みたいな仕事をしてたくさん給料をもらって…。市民の事を考えて活動する営業マン（市民の利益があがる様な仕事）をしてもらいたいですね。[女性／40代／自営業・自由業]

調 査 票

今治市男女共同参画に関する 市民意識調査のお願い

日頃から今治市の「まちづくり」におきまして、ご協力やご参加をいただき、厚くお礼申し上げます。

今治市では、男女共同参画社会の基本理念であります「男女が平等で、互いに人権を尊重しながら、家庭や地域、職場などあらゆる分野で支えあう、男女共同参画社会の実現」に向け、取り組んでいます。

このたび、市内にお住まいの20歳以上の男女から、無作為に抽出した2,000人の方を対象として、「今治市男女共同参画に関する市民意識調査」を実施することとなりました。

この調査は、皆さんの日常生活における男女共同参画に対するお考えをお尋ねし、今後の今治市における計画の策定や施策を充実させていくための基礎資料とするものです。

この調査でお聞きしたことは、すべて統計的に処理し、上記の目的以外に使用することはございません。

お忙しいところ、誠に恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成21年2月 今治市長

◆ご記入するときのお願い◆

- この調査は、平成21年3月1日現在でお答えください。
- あなた自身のお気持ちをありのままご記入ください(記入はご家族の方の代筆でもかまいません)。
- ご記入の際は、ボールペンまたは鉛筆などで、はっきりお書きください。
- ご記入の方法は、あてはまるものを○で囲むか、()内に具体的に記入していただくようになっています。

◆調査の回収について◆

- 記入が済んだ調査票は、同封の返信用封筒に入れて、
- 切手を貼らずに 平成21年3月16日(月) までに、ポストに投函してください。

◆本調査の問合せ先◆

- 何かご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

問合せ先	〒794-8511 今治市別宮町一丁目4番地1 今治市企画振興部市民まちづくり推進課 男女共同参画推進室
担当	平尾・河原田
TEL	0898-36-1515 FAX 0898-33-8066
E-mail	siminma@imabari-city.jp

I 男女の地位に関する意識について

問1 あなたは、次のような面で男女の地位は平等になっていると思いますか。それともそうは思いませんか。(1)～(8)について、あなたの気持ちに最も近いものをそれぞれ1つずつ選んで○をつけてください。

	1 男 性 が 優 遇 されている	2 どちらかとい え ば 男性が優遇 されている	3 平 等 に なっている	4 どちらかとい え ば 女性が優遇 されている	5 女 性 が 優 遇 されている	6 わからない
(1) 家庭の中で						
(2) 職場の中で						
(3) 地域の中で						
(4) しきたりや慣習で						
(5) 法律や制度の上で						
(6) 政治の場で						
(7) 教育の場で						
(8) 社会全体として						

問2 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのように考えますか。次の中から1つ選んで○をつけてください。

- 1 女性は職業をもたない方がよい
- 2 結婚するまでは、職業をもつ方がよい
- 3 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- 4 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 5 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- 6 その他(具体的に)
- 7 わからない

Ⅱ 生活の実態について

問3 あなたのご家庭では、次にあげる家事などを主にだれが分担していますか。(1)～(12)について、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。

	1 夫	2 妻	3 夫 婦 同 程 度	4 その他の 家 族	5 そ の 他 (単身者等)	6 該当なし
(1) 食事のしたく						
(2) 食事の配膳、後片付け						
(3) 日常の買い物						
(4) 掃除						
(5) 洗濯						
(6) ごみ出し						
(7) 役所や銀行などへの用事						
(8) 高齢者や病人の世話						
(9) 町内会や自治会への出席						
(10) 乳幼児の世話・子どものしつけ						
(11) 保育園・幼稚園への送迎						
(12) 学校行事への参加						

Ⅲ 結婚・家庭について

問4 結婚・家庭に関する次のような考え方について、あなたはどのように思いますか。(1)～(9)について、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。

	1 そう思う	2 どちらか といえば そう思う	3 どちらとも いえない	4 どちらか といえば そ 思わない	5 そ　　う 思わない	6 わからない
(1) 結婚は個人の自由であると思う						
(2) 精神的にも経済的にも安定するから結婚したほうがよいと思う						
(3) 結婚しても、うまくいかなければ、離婚しても仕方がないと思う						
(4) 結婚しても、子どもを持つことにこだわる必要がないと思う						
(5) 結婚したら自分自身のことより、配偶者や子どもなど家族のことを中心に考えて生活したほうがよいと思う						
(6) 子どもは、個性を重視して育てたほうがよいと思う						
(7) 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てたほうがよいと思う						
(8) 女性も男性も同じ程度の学歴を持つほうがよいと思う						
(9) 男性も家事や子育てなど、家庭の責任をともに担うほうがよいと思う						

IV 生活と社会活動について

問5 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から5つ以内を選んで○をつけてください。

- 1 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
- 2 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
- 3 夫婦や家族の間でコミュニケーションをよくはかること
- 4 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること
- 5 男性による家事、子育て、介護、地域活動について、その社会的評価を高めること
- 6 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
- 7 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるための啓発や情報提供を行うこと
- 8 国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
- 9 男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）作りをすすめること
- 10 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
- 11 その他（具体的に ）
- 12 特に必要なことはない

問6 生活の中における「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」※の優先度について、あなたの希望に最も近いものを、次の中から1つ選んで○をつけてください。

※「地域・個人の生活」とは 地域・社会活動(ボランティア活動、社会参加活動、交際・つきあいなど)、学習・研究(学業も含む)、趣味・娯楽、スポーツなどをいいます。

- 1 「仕事」を優先したい
- 2 「家庭生活」を優先したい
- 3 「地域・個人の生活」を優先したい
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- 5 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 6 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべて大切にしたい
- 8 その他 (具体的に)

問7 次に、あなたの現実(現状)に最も近いものを、次の中から1つ選んで○をつけてください。

- 1 「仕事」を優先している
- 2 「家庭生活」を優先している
- 3 「地域・個人の生活」を優先している
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 5 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 6 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべて大切にしている
- 8 その他 (具体的に)

V 仕事と家庭について

問8 現状はともかく、男性、女性それぞれの仕事と家庭の関わり方は、どのような形が好ましいと思いますか。あなたの考えに最も近いものを、それぞれ1つ選んで○をつけてください。

男性の関わり方

- 1 仕事を最優先する
- 2 どちらかといえば仕事を優先する
- 3 仕事と家庭に同程度かかわる
- 4 どちらかといえば家庭を優先する
- 5 家庭を最優先する

女性の関わり方

- 1 仕事を最優先する
- 2 どちらかといえば仕事を優先する
- 3 仕事と家庭に同程度かかわる
- 4 どちらかといえば家庭を優先する
- 5 家庭を最優先する

VI 育児休業・介護休業について

問9 家庭で育児・介護が必要なとき、ともに勤めのある夫婦が育児休業や介護休業を取るとしたら、どうするのがよいと思いますか。あなたの考えに最も近いものを、それぞれ1つ選んで○をつけてください。

育児休業

- 1 夫が取る方がよい
- 2 どちらかといえば夫が取る方がよい
- 3 夫も妻も同程度に取るのがよい
- 4 どちらかといえば妻が取る方がよい
- 5 妻が取る方がよい
- 6 その他
（具体的に）

介護休業

- 1 夫が取る方がよい
- 2 どちらかといえば夫が取る方がよい
- 3 夫も妻も同程度に取るのがよい
- 4 どちらかといえば妻が取る方がよい
- 5 妻が取る方がよい
- 6 その他
（具体的に）

Ⅶ ドメスティック・バイオレンス（DV）について

問10 配偶者や恋人など*からの暴力について、あなた自身の経験を伺います。（1）～（7）について、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。

※婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者や元恋人も含みます。

	1 何 度 も あ っ た	2 一、二度 あ っ た	3 ま っ た く な い	4 配 偶 者 や 恋 人 は い な い
（1）命の危険を感じるくらいの身体的暴力（なぐる、けるなど）を受けた				
（2）医師の治療を必要とするくらいの身体的暴力（なぐる、けるなど）を受けた				
（3）医師の治療を必要としないくらいの身体的暴力（なぐる、けるなど）を受けた				
（4）精神的暴力（おどす、無視する、人格を否定する言葉を言う、交友関係や行動を監視するなど）を受けた				
（5）性的暴力（性行為や中絶を強要する、ポルノ雑誌などを無理に見せる、避妊に協力しないなど）を受けた				
（6）経済的暴力（生活費を渡さない、働くことを妨害するなど）を受けた				
（7）社会的暴力（交友関係や行動を監視するなど）を受けた				

問11 質問10で「何度もあった」または「一、二度あった」とお答えの方に伺います。

配偶者や恋人などから受けた行為について、だれかに相談しましたか。あてはまるものに○をつけてください。

- 1 相談機関や窓口、警察等に相談した
- 2 家族や友人に相談した
- 3 職場や学校で相談した
- 4 その他の機関（人）に相談した
- 5 どこ（だれ）にも相談しなかった
- 6 その他（具体的に

）

問12 配偶者や恋人などからの暴力の被害に対して、相談機関や窓口が設けられています。次の中からご存知のものすべてに○をつけてください。

- 1 今治市の婦人相談員
- 2 愛媛県婦人相談所（配偶者暴力相談支援センター）
- 3 愛媛県女性総合センター（配偶者暴力相談支援センター）
- 4 警察
- 5 弁護士・弁護士会
- 6 法務局・人権擁護委員会
- 7 地域の相談機関（人権擁護委員、民生児童委員）
- 8 その他（具体的に ）
- 9 どれも知らない

VIII セクシュアル・ハラスメント※について

※セクシュアル・ハラスメントの例としては、身体への不必要な接触やしつこい誘い、視線を浴びせる行為、身体的な特徴を話題にすることや性的な発言をすることなどがあります。

問13 あなた自身がセクシュアル・ハラスメントの被害にあったことはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 学校で被害にあったことがある
- 2 職場で被害にあったことがある
- 3 地域の中で被害にあったことがある
- 4 被害にあったことはない
- 5 その他（具体的に ）

問14 問13で「被害にあったことがある」とお答えの方に伺います。

セクシュアル・ハラスメントの被害について、どのような対応をしましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 相手に直接抗議した
- 2 職場や学校の苦情処理機関や上司・教師に訴えた
- 3 相談機関や窓口、警察等に相談した
- 4 家族や友人に相談した
- 5 弁護士に相談したり、裁判所に訴えたりした
- 6 その他の機関（人）に相談した
- 7 どこ（だれ）にも相談しなかった

IX 今治市における男女共同参画社会の実現に向けて

問15 今治市は、男女共同参画社会の実現をめざし、様々な施策を実施しています。今後、どのようなことに力をいれていけばよいと思いますか。次の中から5つ以内を選んで○をつけてください。

- 1 市役所の各種審議会の委員など、政策決定の場に女性を多く登用する
- 2 企業主など雇う側が女性差別をしないように働きかけをする
- 3 育児のため職場を離れても同じ職場へ復帰できるよう、雇用面の対策を考える
- 4 女性のための職業教育や訓練の場をつくる
- 5 子育て支援の施策を充実する
- 6 在宅老人対策の充実を図るなど、社会参加しやすいようにする
- 7 男女共同参画の視点に立った教育や学習をすすめる
- 8 女性のための相談を充実する
- 9 男性への意識啓発や相談を充実する
- 10 女性に対する暴力を根絶するための支援を促進する
- 11 その他（具体的に ）

■最後に、男女共同参画についてのご意見等がございましたら、ご自由にお書きください。

[illegible]

お忙しい中、本調査にご協力いただきましてありがとうございました。この調査の結果は、今後今治市の男女共同参画を推進する基礎資料として有効に活用させていただきます。

